

### 深田順一

社会医療法人・仁生会 細木病院の令和元年度の歩みを年報の形でまとめるに当たり、一言ご挨拶を申し述べます。

令和元年度は元号では平成31年4月に始まり、翌月には令和元年5月となり、翌年3月に至る期間に当たります。故細木高行初代院長による細木病院の前身、細木診療

所の開業が1946年(昭和21年)ですので、令和元年度は数えて74年目の1年ということになりますが、この間、常に時代の流れをにらみ、そしてそれに先立つべく手を打ち続けてきた当院ですが、この1年で特記すべきこととしては、まず"新"細木病院の本格活動が始まったことがあります。これは平成9年以来、当院に隣接する形で、精神神経疾患の専門的治療施設としてその歴史を刻んできた仁生会・細木ユニティ病院を、細木病院グループの今後をにらみ、平成31年3月をもって細木病院本体と再統合し、「細木病院こころのセンター」として新たに歩み出すに至ったからであります。再統合後の、この"新"細木病院を、その狙い通り、いかに軌道に乗せるか、というのがこの1年、最も力を入れた課題でした。

しかし時代に合った病院へのリモデリングは始まったばかりで、「イマジン活動(今、仁生会は何をすべきか)」と銘打ったグループの中期計画の下、これに続く改革として、"新"細木病院内の病棟再編を進め、年度末には499床を新年度から463床に絞り込む運用へとつなぎました。これと並行して、年度後半には、仁生会グループの今後に向けての大きな一歩に、と期待する心臓病(特に冠動脈疾患に対する)専門施設「ほそぎハート循環器」(ハートセンター)の立ち上げに向け、準備を急ピッチで進めました(ハートセンターは予定通り令和2年6月から本格稼働しています)。

しかし、本年度の出来事として書き残しておかねばならないのは、年度末に襲ってきた新型コロナウイルス感染症(SARS-CoV-2ウイルスによるcovid-19ウイルス感染症)との闘いです。この感染症は令和元年11月ごろ、中国湖北省武漢市から広まり始め、年明け1月には日本への影響も憂慮され始めたのですが、3月に入って本院職員の一人が県内で3例目の感染者と判明、その対応も含め、以降、病院を挙げてこの感染症に立ち向かう日々となりました。この戦いは年度を越えて続いているわけですが、この年報でもその冒頭の部分を記録しておきます。

このような中、令和元年11月には、平成27年から院長を務めてこられた堀見忠司氏が勇退され、後任には、平成27年4月から仁生会・三愛病院院長を務めてきました深田が6代目院長として就任し、年度後半の病院の管理・運営に当たりました。この年報でご覧いただくことになった細木病院としての実績・歩みは、そのような中での記録です。ご照覧いただければ幸甚に存じます。

令和2年6月23日



細木病院 本館



細木病院 南館



細木病院 北館 こころのセンター



細木病院 新館

### ほそぎハートセンター開設について

### 「心臓のトータルケア」をコンセプトとして 心臓病の早期発見、治療、予防を目的とした 心臓カテーテル治療と心臓リハビリの専門施設

高知市では心臓病の入院患者数が最も多くこれからも増えると予測さ れ、心臓病を持つ患者への総合的な医療が必要になっている。細木病院で は心臓専門施設『ほそぎハートセンター』の新設が決定され、令和2年6 月に開設予定である。

ほそぎハートセンターでは、これまでの循環器検査(心電図、心エコー、 血圧脈波検査、心臓CT)に加え、心臓病のカテーテル検査と治療(冠動 脈造影や冠動脈インターベンション、下肢などの末梢動脈に対する経皮的



ハートセンター長 細木 (細木病院副院長 令和2年4月1日就任)

血管形成術、不整脈に対するアブレーション、恒久的ペースメーカ移植術など)が可能になる。さらに、心臓リハ ビリテーションを外来・入院の患者に広く導入し、心臓病を運動・栄養・薬物・メンタルなどの多方面から包括的 に管理することで患者、一人ひとりに最適な予防医療を行い、健康寿命の延伸、QOL(生活の質)の改善に取り 組む。さらに、心臓カテーテル検査・治療の技術指導を含めた教育や、新しいデバイス開発にも関わっていきたい。

#### 施設説明

1000XD/0-73	
	1 F 心エコー/心臓リハビリテーション
概要/特色	心臓リハビリ専任の医師、看護師、理学療法士などによる患者さんに最適な運動処方、学習活動、生活指導、カウンセリングを通じて、快適な家庭生活、社会復帰、心臓病再発予防をサポートする。
設 備	心肺運動負荷試験(CPX)、自転車エルゴメーター、セントラルモニター心電図、レッドコード、診察室など
	2 F 心臓カテーテル検査
概要/特色	心臓カテーテル検査室 2 室、ICルーム・処置室、カンファレンスルームなどを備えます。 検査室の窓には患者さんのプライバシーに配慮した電動遮光ガラスを使用します。
設 備	フィリップス社製血管撮影装置Azurion 7 B12/12(2方向からの同時撮影が可能な低線量、低被曝を可能にした最新機器)、DVXライブ配信システム(検査室以外の場所で血管造影画像のリアルタイム閲覧が可能となり情報の共有ができるシステム)

(文責:副院長/ハートセンター長 細木 信吾)





循環器内科部長 山本 哲史 (令和2年4月1日就任) (令和2年5月1日就任)



心臓リハビリテーション科部長 西本 美香



循環器内科長 宮地 剛



循環器内科長 古川 敦子

#### ほそぎハートセンター着工日

新築工事	2019(令和元)年12月2日
竣工	2020(令和2)年5月30日
新築オープン	2020(令和2)年6月8日

※ほそぎハートセンターは予定通 り令和2年6月から本格稼働し ています。



ほそぎ ハートセンタ・



心臓カテーテル室1 (2方向血管撮影装置)



心臓リハビリテーション (レッドコード)

### こころのセンター

## **夕** 細木病院 再統合

2019年4月1日より、細木ユニティ病院は 細木病院と統合し、「こころのセンター」とし て再スタート!



細木病院副院長・こころのセンター長 吉岡 隆興

平成31年は4月に細木病院と統合し、精神科、「こころのセンター」として体制を整えてきました。

統合失調症やうつ病をはじめとする、精神疾患の他、認知症患者に対して、地域で生きる。あるいは社会生活をできるだけ最後まで行うべきであるという、理念を実践するために、他の診療科との連携を充実させるべく、統一的な電子カルテの運用に参画し、認知症ラウンドのほか、包括的かつ迅速な対応力を向上させてきました。

今後はさらにこの方向を充実させて、総合病院としての急性期治療、地域包括ケアが充実するよう、行政を含めた地域のネットワークの一員として、活動する予定です。

今後とも関係各位のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

(文責:細木病院副院長・こころのセンター長 吉岡 隆興)



(北館) こころのセンター

#### ◆こころのセンターの目標◆

- ①こころの病気(感情障害、神経症性障害、 統合失調症など)の精神科医療を継続し、 患者さんの社会復帰を可能にすること。
- ②認知症の方に対して、医療を行うとともに、家族に負担をかけない社会生活の維持を可能にすること。
- ③細木病院の他科(整形外科、循環器内科、 呼吸器内科、皮膚科、歯科など)と医療連 携チームを構築し、高齢者の地域生活の継 続(100歳まで)を可能にすること。







### 概要

#### 1. 細木病院の理念

患者さんからも、地域からも、職員からも"この病院でよかった。"と心から思ってもらえる病院を目指します。

#### 2. 細木病院の基本方針

- ・私達は、医療人としての良心に基づいて、責任と 思いやりのある医療を行うよう努めます。
- ・私達は、常に研鑽にはげみ、質の良い医療を提供するよう努めます。
- ・私達は、患者さんの立場に立って、人としての尊厳・権利を尊重した医療を行うよう努めます。
- ・私達は、医療についての十分な説明を行い、医療 を提供するものと受けるものとの信頼関係を深め るよう努めます。
- ・私達は、細心の注意を払い、安全な医療を行うよう努めます。
- ・私達は、療養環境を整備し、心地よい医療・介護 が受けられるよう努めます。
- ・私達は、地域のニーズに応じた医療・介護を提供するよう努めます。
- ・私達は、へき地医療支援病院として、へき地医療 支援に努めます。
- ・私達は、就業環境の改善を図り、明るく働き甲斐 のある職場作りに努めます。
- ・私達は、経営・運営基盤を確立して効率的な医療 を行い、病院の健全な発展に努めます。

#### 患者さんの権利 5か条

当院を受診される患者さんには、基本的な人権意識に基づく、適切な医療を受ける権利があります。 またそのために私たち職員と患者さんが信頼関係を築き、共に努力していくことが大切と考えています。

- 1)患者さんの人格を尊重し、思いやりのある丁寧な医療を受ける権利
- 2) 病気や診療に関する情報を、分かりやすく説明 を受ける権利
- 3) 患者さんの意思に基づいて診療方法を選択し、 同意、又は拒否する権利
- 4) プライバシーの保護と、記録等の秘密が第三者 に開示されない権利
- 5) 当院の持つ機能の範囲内で、納得のゆく診療を 受ける権利

#### 3. 2019年度(令和元年度)の目標と取り組み

昨今のわが国の大きな変化の中で、今年の医療界においては、地域包括ケアシステムの充実、介護医療院の新設、在宅医療の拡大が推奨され、新たな時代に入ろうとしています。そのような医療界の中

で、細木病院の令和元年の目標と取り組みについて述べさせていただきます。

#### ①細木ユニティ病院との再統合

細木病院に精神科が新設されたのは1965年(昭 和40年)のことでした。その後、医療情勢の中で、 32年後の1997年(平成9年)4月に精神科が独立 して、細木ユニティ病院となりました。それから 22年過ぎて、新たな医療情勢の中で再び統合し て、今年4月から細木病院の中の精神科となりま した。最近の精神科患者は高齢になり、単一の認 知症や統合失調症のみではなく、多くの患者は他 の疾病を合併している場合が多く、他科にわたっ て総合的に診療しなければならなくなっていま す。またわが国の保健医療政策による療養病床の 削減や病床機能の見直しなどの大きな波によっ て、効率的な病院運営を追及することが避けられ ません。細木病院は再統合によって、両病院から 61床を削減して499床(一般162床、療養189床、精 神148床)の「新しい細木病院」として生まれ変わ り、会議体(定例会・委員会)の統合、統合電子 カルテの円滑な運用と診療情報の共有化、経営 データや各種管理データ、さらに重複業務の一元 化などによって大きなメリットが期待されます。

#### ②経営基盤の安定・強化

再統合した新しい細木病院では、療養3病棟の 最適な運用を模索し、認知症対応力の強化を図 り、再新の「ほそぎ連携センター」を中心に、医 療連携や医療・介護連携の推進を図り、年間病床 稼働率を向上させていきます。また当院では糖尿 病や消化器内科などの内科系診療や小児科、整形 外科、乳腺外科が充実しており、多くの県民・市 民にご利用いただいておりますが、今年からは循 環器内科のリニューアルも図ります。

#### ③働きやすく、働き甲斐のある病院づくり

新しい細木病院では、人事制度の統一を図り、「働き方改革」への対応を進めます。また臨床研修体制の充実を図るとともに、学会・論文発表の勧奨と「学術集会 i n 細木」の継続と院内外の発表機会を勧めます。一方、職員の健康増進活動の支援も積極的に行い、ストレスチェック度の改善と向上を図りたいと考えています。さらに今年特に力を入れたいのは、接遇と広報です。接遇は、患者を中心とする来院者に対して、満足のいく対応をするためにも、患者さんの待ち時間を短縮し、常に敬語を使い、小さな親切の積み重ねを実践するように改めて思考しています。職員間の仲

間意識の醸成のためにも接遇向上活動を継続し、「細木病院の理念」を浸透させていく予定です。 また広報活動を重視し、SNSに対応するホームページの充実とチラシや配布物などを活用した情報発信に努めます。

# ④仁生会経営会議 (IMAJIN活動)の継続と非常時の対応力の強化

IMAJIN活動のよる令和3年度に向けた中期計画を着実に実践し、グループ横断型の委員会の活動の継続と必要な見直しを行い、病棟再編計画の具体化を進めます。また昨年度に作成したBCP(事業継続計画)の浸透を図り、耐震化などのハードの整備や非常時の対応力を高めます。

そして医療安全や院内感染対策を強化し、『医

療の質』と『患者満足度』を高めるために職員一同、歩調を合わせ、共に努力し、精進していきたいと思います。

### 4. 施設とその概要

計

4.	肥設とての似安						
1)				敷地面積(m²)	建築延面積(m²)		
	本		館	1, 554. 45	3, 288. 20		
	新		館	2, 442. 35	6, 087. 16		
	南		館	1, 745. 07	2, 755. 05		
	管	理	棟	384. 22	453. 44		
	事	務	棟	152. 72	400.00		
	実	33 —	棟	155. 37	285. 78		
	北 (C.C.	ころのセンタ	館 (ター)	3, 687. 00	7, 160. 00		

10, 121. 18

20, 429, 63

#### 2) 施設の概要(各階の目的、機能別)

	南館	新館	本館
6 F			内視鏡センター 栄養指導室 診療情報課 情報システム管理課
5 F		リハビリテーションセンター 理学療法室 作業療法室 言語療法室	健康管理センター
4 F		手術室 中央材料滅菌室 病理検査室 新館検査室 新館薬剤部	脳神経外科 耳鼻咽喉科 泌尿器科 緩和ケア科 外来化学療養室 皮膚科・形成外科
3 F	ポピー病棟:緩和ケア(ホスピス) 病棟/12床 南3病棟:障害者施設等一般病棟/ 30床	新3病棟:急性期一般病棟/60床 病児・病後児保育室「キューピット ハウス」	放射線科 骨塩検査室 乳房撮影室 臨床心理室 誘発筋電図(MCV)室 X線TV室 エコー室 脳波室
2 F	南 2 病棟:医療療養病棟/49床 リハビリテーションセンター 医療相談室	新 2 病棟:地域包括ケア病棟/60床	内科 小児科 総合診療科 採血室 点滴室 臨床検査室 心電図室 エコー室 専門外来 小児リハビリテーション室
1 F	南1病棟:医療療養病棟/52床 厨房	新1病棟:回復期リハビリテーショ ン病棟/52床 臨床工学室	外科 整形外科 医事課 痛みの外来(ペインクリニック) 救急処置室 MRI/CT室 薬剤部 会計 総合案内 外来受付 入院受付
BF		ほそぎ連携センター 病診連携室 患者サポート室 病床管理室 栄養管理室 厨房 高行記念講堂 会議室 レストラン 売店「レモン」	

	こころのセンター(北館)					
	S館	N館				
6 F	ホール 訪問看護ステーションほそぎ 喫茶"クライナー・ヴァルト"					
5 F	北5 H病棟:精神科閉鎖病棟/26床	屋上庭園				
4 F	北5 L病棟:精神科開放病棟/29床	北 4 病棟:精神病棟/53床				
3 F	放射線室 薬剤室 臨床心理室 医療相談室 言語聴覚療法室 更衣室	北 3 病棟:精神科急性期治療病棟/40床				
2 F	北2病棟 機能訓練室:医療療養病棟/36床	院長室 医局 看護部長室 事務室 応接室 図書室 会議室 研修室 脳波室 精神科デイ・ケア ショート・ケア				
1 F	歯科 売店 栄養管理室	外来 医事課 心理検査室 精神科作業療法室 重度認知症患者デイ・ケア 臨床検査室				

#### 5. 標榜科目

#### 診療科目

総合診療科、内科、外科、整形外科、小児科、放射線科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓内科、消化器外科、神経小児科、肛門外科、小児整形外科、脳神経外科、泌尿器科、リウマチ科、化学療法・緩和ケア科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、乳腺外科、血管外科、皮膚科・形成外科

#### 専門外来

せき外来、甲状腺外来、小児こころの外来、補聴器外来、セカンドオピニオン外来、おしりの外来、 脊椎外来、痛み外来(ペインクリニック)

### 健康管理センター

全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健 診、人間ドック、事業主健診、特定健診、乳がん 子宮がん検診

#### こころのセンター(北館)

精神科、心療内科、内科、歯科

#### 6. 施設基準

#### 入院基本料等

新1病棟:回復期リハビリテーション病棟入院料2

休日リハビリテーション提供体制加算

新2病棟:地域包括ケア病棟入院料2

看護職員配置加算 看護補助者配置加算

新3病棟:急性期一般入院料5

小児入院医療管理料 4

25対 1 急性期看護補助体制加算

(看護補助者5割以上)

南1病棟:療養病棟入院基本料2

療養病棟療養環境加算2

南2病棟:療養病棟入院基本料1

療養病棟療養環境加算1

南 3 病棟:障害者施設等入院基本料10対 1

ポピー病棟:緩和ケア病棟入院料2

北2病棟:療養病棟入院基本料1

療養病棟療養環境加算1

北3病棟:精神科急性期治療病棟入院料1

精神科急性期医師配置加算精神科応急入院施設管理加算

北 4 病棟:精神病棟入院基本料15対 1

療養環境加算

看護配置加算

看護補助加算1

北5病棟:精神病棟入院基本料15対1

看護配置加算 看護補助加算 1

#### 基本診療料の施設基準に係る届出

入退院支援加算1 (一般病棟·療養病棟)

地域連携診療計画加算

データ提出加算2・提出データ評価加算

診療録管理体制加算 1

25対 1 医師事務作業補助体制加算 1

医療安全対策加算1

医療安全対策地域連携加算1

感染防止対策加算1

感染防止対策地域連携加算

後発医薬品使用体制加算1

患者サポート体制充実加算

救急医療管理加算

療養環境加算

特殊疾患入院施設管理加算

重症者等療養環境特別加算

臨床研修病院入院診療加算(基幹型)

認知症ケア加算1

無菌製剤処理料

精神科身体合併症管理加算

精神科救急搬送患者地域連携紹介加算

#### 特掲診療料の施設基準に係る届出

薬剤管理指導料

外来化学療法加算1

検体検査管理加算(Ⅰ)(Ⅱ)

抗菌薬適正使用支援加算

小児科外来診療料

高度難聴指導管理料

糖尿病合併症管理料

糖尿病诱析予防指導管理料

麻酔管理料(I)

夜間休日救急搬送医学管理料

神経学的検査

補聴器適合検査

乳房MRI撮影加算

CT撮影及びMRI撮影

冠動脈CT撮影加算

大腸CT撮影加算

画像診断管理加算2

精神科作業療法

医療保護入院等診療料

精神科ショート・ケア「大規模なもの」

精神科デイ・ケア「大規模なもの」

重度認知症患者デイ・ケア料

CAD/CAM冠

クラウン・ブリッジ維持管理料

開放型病院共同指導料

がん治療連携指導料

がん患者指導管理料 イ・ロがん性疼痛緩和指導管理料

胃瘻造設時嚥下機能評価加算

人工肛門 · 人工膀胱造設術前処置加算

集団コミュニケーション療法料

運動器リハビリテーション料(Ⅰ)

呼吸器リハビリテーション料(I)

脳血管疾患等リハビリテーション料(I)

廃用症候群リハビリテーション料(I)

医療機器安全管理料1

輸血管理料Ⅰ・輸血適正使用加算

時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネル リンパ節生検(併用)

乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検(単独)

ペースメーカ移植術及びペースメーカ交換術 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料

### 【医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に 掲げる手術】

関節鏡下関節授動術·人工関節置換術·腹腔鏡下 胆嚢摘出術

肝切除術·水頭症手術·母指化手術·内反足手術· 胃瘻造設術

胆管悪性腫瘍手術・観血的関節授動術・髄液シャント抜去術

膵体尾部腫瘍切除術・食道裂孔ヘルニア手術・肝 門部肥管悪性腫瘍手術

脳動脈瘤頸部クリッピング・バセドウ甲状腺全摘 (亜全摘)術(両葉)

#### 7. 許可病床数

499床

新館	
新1病棟	52床(回復期リハビリテーション病棟)
新2病棟	60床(地域包括ケア病棟)
新 3 病 棟	60床(急性期一般病棟)
南館	
南1病棟	52床(医療療養病棟)
南2病棟	49床(医療療養病棟)
南 3 病 棟	30床(障害者病棟)
ポピー病棟	12床(緩和ケア病棟)
こころのセン	ター(北館)
S館	
北5H病棟	26床(精神科閉鎖病棟)
北5L病棟	29床(精神科開放病棟)
北2病棟	36床(医療療養病棟) 令和2年3月31日閉鎖
N館	
北 4 病 棟	閉鎖:53床(精神病棟)
北 3 病 棟	開放:14床·閉鎖:26床 (精神科急性期治療病棟)

#### 8. 臨床研修

基幹型臨床研修指定病院

# 部署責任者一覧 令和2年3月31日現在

院長 名誉副院長 名誉副院長 名誉副院長 の西に長 副院長 副院長 副院長 副院長 副院長 副院長 副院長 副院長 副院長 副院
名誉副院長
名誉副院長 加
■院長
副院長 上 地田 祐 二 三 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
記憶機・   日本
診療部 診療部長・消化器内科部長・内視鏡・クー長 医局長・外科部長 に
診療部長・消化器内科部長・内内 信 三 三 線 で
内視鏡センター長 医局長・外科部長 総合診療科副部長 糖尿病・内分泌内科部長(兼務) (表 子 連携センター長 ハートセンター長・循環器内科部長 安 藤 哲 也 也 川 川 野療法・緩和ケア科部長 四 村 哲 晴 淳 卓 昌 宏 極 世 別 川 児科部長 知 川 原科部長 明 田 明 京 卓 昌 宏 蔵
総合診療科副部長 糖尿病・内分泌内科部長(兼務) ほぞぎ連携センター長・循環器内科部長 化学療法・緩和ケア科部長 血管外科部長 血管外科部長 一門足科部長 一神経小児科部長 神経外科部長 期神経外科部長 一神経外科部長 一期 一種経外科部長 所幹科部長 所幹科部長 病理診断科部長 病理診断科部長 病理診断科部長 病理診断科部長 病理診断科部長 病理診断科部長 病理診断科部長 病理診断科部長 病理診断科部長 病理診断科部長 病理診断科部長 病理診断科部長 病理診断科部長 病神神・形成外科 看護部 看護部副部長(業務担当) 南1病棟師長 南2病棟師長 南2病棟師長 南3病棟師長 南3病棟師長 第2病棟師長 第1病棟師長 第2病棟師長 第1病棟師長 第2病棟師長 第1病棟師長 第2病棟師長 第1病棟師長 第2病棟師長 第3病棟師長 第1病棟師長 第4 第5 第5 第6 第7 第6 第7 第6 第7 第6 第7 第6 第7 第6 第6 第7 第6 第6 第7 第6 第6 第7 第6 第6 第7 第6 第6 第7 第6 第6 第6 第7 第6 第6 第6 第7 第6 第6 第6 第7 第6 第6 第6 第6 第7 第6 第6 第7 第6 第6 第6 第6 第7 第6 第6 第6 第7 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6 第6
糖尿病・内分泌内科部長(兼務) はそぎ連携センター長・循環器内科部長 安藤 哲也 也 一下センター長・循環器内科部長 安藤 哲也 也 川川・整形外科部長 四川川・整形外科部長 加川川・草草 中経小児科部長 神経小児科部長 期神経外科部長 期神経外科部長 期神経外科部長 期神経外科部長 期神経外科部長 期神経外科部長 期神経外科部長 中 豊滋 東 田 明 元 美
はそぎ連携センター長 ハートセンター長・循環器内科部長
<ul> <li>化学療法・緩和ケア科部長</li> <li>血管外科部長</li> <li>リハピリ・整形外科部長</li> <li>山川時吾</li> <li>小児科部長</li> <li>神経小児科部長</li> <li>脳神経外科部長</li> <li>病理診断科部長</li> <li>病理診断科部長</li> <li>病理診断科部長</li> <li>麻酔科・ペインクリニック部長</li> <li>お 歯</li> <li>毒養部</li> <li>看護部</li> <li>看護部副部長(業務担当)</li> <li>南 1病棟師長</li> <li>南 2病棟師長</li> <li>南 2病棟師長</li> <li>南 3病棟師長</li> <li>新 1病棟師長</li> <li>新 2病棟師長</li> <li>新 1病棟師長</li> <li>新 2病棟師長</li> <li>新 3病棟師長</li> <li>新 3病棟師長</li> <li>大 質原由 美</li> <li>新 2病棟師長</li> <li>新 3病棟師長</li> <li>大 質原由 貴美子</li> <li>手術室兼中央材料滅菌室師長</li> <li>ア 中質原由 貴美子</li> <li>手術室兼中央材料滅菌室師長</li> <li>東 3 の 中 照 夫</li> <li>東 3 の 中 に</li> <li>東 3 の 中 に</li> <li>カ 4 の の に</li> <li>カ 5 の 日 中 照 夫</li> <li>東 3 の 日 中 に</li> <li>東 3 の 日 中 に</li> <li>カ 5 の 日 中 照 夫</li> <li>東 3 の 日 中 に</li> <li>東 3 の 日 中 に</li> <li>カ 4 の の 日 中 に</li> <li>カ 5 の 日 中 に</li> <li>カ 5 の 日 中 に</li> <li>カ 6 の 日 中 に</li> <li>カ 7 の 日 中 に</li> <li>カ 6 の 日 中 に</li> <li>カ 7 の 日 中 に</li> <li>カ 8 の 日 中 に</li> <li>カ 9 の 日 中 に</li> <li>カ</li></ul>
血管外科部長 リハビリ・整形外科部長 ル児科部長 新井淳一 神経小児科部長 脳神経外科部長 照神経外科部長 照神経外科部長 照神経外科部長 原理診断科部長 病理診断科部長 麻酔科・ペインクリニック部長 原育科・形成外科 看護部 看護部長 看護部副部長(業務担当) 「富田明子佐宮」 「新林師長 南1病棟師長 南3病棟師長 南3病棟師長 新1病棟師長 新1病棟師長 新1病棟師長 新1病棟師長 新1病棟師長 新1病棟師長 新1病棟師長 新1病棟師長 第2病棟師長 新1病棟師長 第3病棟師長 第4の方で病棟師長 第5の方の病棟師長 第6の方の病棟師長 第6の方の病検師長 第6の方の病検 第6の方の病 第6の方の病検 第6の方の病検 第6の方の病検 第6の方の病検 第6の方の病 第6の方の病 第6の
リハビリ・整形外科部長       山川晴吾         小児科部長       新井淳一         神経小児科部長       畑川卓卓別         脳神経外科部長       堀坂太蔵         病理診断科部長       湖崎高志 乃人人の財産の財産         麻酔科・ペインクリニック部長       畑川滋瀬 西田 理香         看護部       豊田 明子佐子         看護部副部長(業務担当)       高田 明子佐子雪節         有護部副部長(教育担当)       高塚田 美産         南1病棟師長       高塚田 美産         第3病棟師長       出田 美産         新1病棟師長       渡辺東子         新2病棟師長       大原朝田 美子         新3病棟師長       大原東衛子         新3病棟師長       大原東衛子         新3病棟師長       伊賀原由 美子         新3病棟師長       中質原由美子         新3病棟師長       中質原由美子         新3病棟師長       中質原由美子         第3病棟師長       中の関係         東新3病棟師長       中の関係         東京村部       東京・新名         薬剤部長(兼務)       東京・大の公ののより、大のののより、大のののより、大ののより、
リハビリ・整形外科部長       山川晴吾         小児科部長       新井淳一         神経小児科部長       畑川卓卓別         脳神経外科部長       堀坂太蔵         病理診断科部長       湖崎高志 乃人人の財産の財産         麻酔科・ペインクリニック部長       畑川滋瀬 西田 理香         看護部       豊田 明子佐子         看護部副部長(業務担当)       高田 明子佐子雪節         有護部副部長(教育担当)       高塚田 美産         南1病棟師長       高塚田 美産         第3病棟師長       出田 美産         新1病棟師長       渡辺東子         新2病棟師長       大原朝田 美子         新3病棟師長       大原東衛子         新3病棟師長       大原東衛子         新3病棟師長       伊賀原由 美子         新3病棟師長       中質原由美子         新3病棟師長       中質原由美子         新3病棟師長       中質原由美子         第3病棟師長       中の関係         東新3病棟師長       中の関係         東京村部       東京・新名         薬剤部長(兼務)       東京・大の公ののより、大のののより、大のののより、大ののより、
小児科部長       新 井 淳 一         神経小児科部長       畑 川 卓 利         脳神経外科部長       堀 敬 蔵         病理診断科部長       山 崎 義 一         放射線科部長       湖 崎 志 乃         麻酔科・ペインクリニック部長       細 川 滋 俊         皮膚科・形成外科       野 田 理 香         看護部       豊 田 邦 江         看護部副部長(業務担当)       廣 田 明 美         看護部副部長(教育担当)       岡 崎 千佐子         南1病棟師長       高 塚 雪         南2病棟師長       弘 田 美 貴         解和ケア病棟師長       片 岡 真智子         新1病棟師長       波 辺 真智子         新2病棟師長       大 原 敬 号         新3病棟師長       伊賀原 由 美 子         新3病棟師長       伊賀原 由 美子         新3病棟師長       伊賀原 由 美子         野田             季 香         薬剤部       田 中 照 夫         薬剤部副部長(部長代行)       小 松 めぐみ         医療技術部
神経小児科部長
脳神経外科部長       無       坂       高         病理診断科部長       期       崎       志       乃         麻酔科部長       島       中       豊       人         麻酔科・ペインクリニック部長       毎       田       理       香         看護部       豊       田       班       重         看護部長       豊       田       明       手         看護部副部長(業務担当)       廣       田       明       手         有護部副部長(教育担当)       周       崎       千佐子子南1病棟師長       高       塚       空         南1病棟師長       高       場       銀       要       事         育3病棟師長       片       岡       健         新1病棟師長       渡       辺       真智子子新2病棟師長         新2病棟師長       力       百       妻子子新2病棟師長       十       田       東         外来師長       曽       我       貴美子子香業和3       香       東       季       本         薬剤部       薬剤部長       田       中       照       夫       東       本       東       本       東       本       東       本       東       本       東       本       東       本       東       東       東       本       東       本       東
耳鼻咽喉科部長       個       敬       蔵         病理診断科部長       耕       崎       志       乃         麻酔科・ペインクリニック部長       細       川       滋       俊         皮膚科・形成外科       野       田       理       香         看護部長       豊       田       邦       江         看護部長       豊       田       邦       江         看護部副部長(業務担当)       扇       毎       千佐子         南1病棟師長       高       塚       雪         南2病棟師長       太       田       美         育3病棟師長       片       岡       卓智子         新1病棟師長       次       原       由       妻         新1病棟師長       大       原       由       妻         新2病棟師長       大       原       由       妻         新2病棟師長       大       原       由       妻         外来師長       曽       我       貴美子         手術室兼中央材料減菌室師長       門       田       東         薬剤部       田       中       照       大         薬剤部副部長(部長代行)       小       松       みぐみ         医療技術部       本       本       本       本       本         薬剤部       (
病理診断科部長 期 崎 志 乃 麻酔科部長
放射線科部長
麻酔科部長
麻酔科・ペインクリニック部長 細川 滋 俊 皮膚科・形成外科 野田 理 香 看護部 看護部長 豊田 邦 江 看護部副部長(業務担当) 廣田 明 美 看護部副部長(教育担当) 岡崎 千佐子南1病棟師長 高塚深雪南2病棟師長 太田 節 3 病棟師長 弘田 美貴 緩和ケア病棟師長 片岡 健 新1病棟師長 別 辺 真智子新2病棟師長 片岡 健 新1病棟師長 別 辺 真智子新2病棟師長 大原 敬子新3病棟師長 け質原 由香外来師長 曽我貴美子手術室兼中央材料減菌室師長 門田 季香薬剤部 薬剤部長(兼務) 田中 照 夫薬剤部副部長(部長代行) 小 松 めぐみ 医療技術部
皮膚科・形成外科     野田理香       看護部長     豊田邦江       看護部副部長(業務担当)     廣田明美       看護部副部長(教育担当)     岡崎千佐子       南1病棟師長     高塚深雪       南2病棟師長     太田第       第3病棟師長     弘田美貴       緩和ケア病棟師長     片岡 健       新1病棟師長     渡辺真智子       新2病棟師長     大原敬子       新3病棟師長     伊賀原由香外来師長       手術室兼中央材料減菌室師長     門田季香       薬剤部     東剤部長(兼務)     田中照夫       薬剤部副部長(部長代行)     小松めぐみ       医療技術部
看護部
看護部長豊田邦江看護部副部長(業務担当)廣田明美看護部副部長(教育担当)岡崎千佐子南1病棟師長高塚深雪南2病棟師長太田第前3病棟師長弘田美貴緩和ケア病棟師長片岡 健新1病棟師長渡辺真智子新2病棟師長大原敬子新3病棟師長伊賀原由香外来師長曽我貴美子手術室兼中央材料滅菌室師長門田季香薬剤部薬剤部薬剤部副部長(部長代行)小松めぐみ医療技術部
看護部副部長(業務担当) 廣 田 明 美 看護部副部長(教育担当) 岡 崎 千佐子 南 1 病棟師長 高 塚 深 雪 南 2 病棟師長 太 田 第 費 費 額 第 第 第 3 病棟師長 別 項 算 3 病棟師長 別 項 項 第 3 病棟師長 別 項 第 3 病棟師長 別 項 第 3 病棟師長 別 項 第 5 年 第 3 病棟師長 別 日 年 第 5 年 第 3 所を兼中央材料減菌室師長 別 田 季 香 薬剤部 薬剤部長(兼務) 田 中 照 夫 薬剤部副部長(部長代行) 小 松 めぐみ 医療技術部
看護部副部長(教育担当) 岡 崎 千佐子 南 1 病棟師長 高 塚 深 雪 南 2 病棟師長 太 田 節 南 3 病棟師長 弘 田 美 貴 緩和ケア病棟師長 片 岡 健 新 1 病棟師長 渡 辺 真智子 新 2 病棟師長 大 原 敬 子 新 3 病棟師長 伊賀原 由 香 外来師長 曽 我 貴美子 手術室兼中央材料滅菌室師長 門 田 季 香 薬剤部 薬剤部長(兼務) 田 中 照 夫 薬剤部副部長(部長代行) 小 松 めぐみ 医療技術部
南1病棟師長       高塚深雪         南2病棟師長       太田美貴         南3病棟師長       弘田美貴         緩和ケア病棟師長       渡辺真智子         新1病棟師長       波辺真智子         新2病棟師長       大原敬子         新3病棟師長       伊賀原由香         外来師長       曽我貴美子         手術室兼中央材料滅菌室師長       門田季香         薬剤部       薬剤部長(兼務)         薬剤部副部長(部長代行)       小松めぐみ         医療技術部
南 2 病棟師長       太田       節         南 3 病棟師長       弘田美貴         緩和ケア病棟師長       片岡健         新 1 病棟師長       渡辺真智子         新 2 病棟師長       大原敬子         新 3 病棟師長       伊賀原由香外来師長         外来師長       曽我貴美子         手術室兼中央材料減菌室師長門田季香         薬剤部         薬剤部副部長(新長代行)       小松めぐみ         医療技術部
南3病棟師長弘田美貴緩和ケア病棟師長房辺 真智子新1病棟師長渡辺 真智子新2病棟師長大原敬子新3病棟師長伊賀原由香外来師長曽我貴美子手術室兼中央材料滅菌室師長門田季香薬剤部薬剤部長(兼務)田中照夫薬剤部副部長(部長代行) 小松めぐみ医療技術部
緩和ケア病棟師長 片 岡 健 新 1 病棟師長 渡 辺 真智子 新 2 病棟師長 大 原 敬 子 新 3 病棟師長 伊賀原 由 香 外来師長 曽 我 貴美子 手術室兼中央材料滅菌室師長 門 田 季 香 薬剤部 薬剤部長(兼務) 田 中 照 夫 薬剤部副部長(部長代行) 小 松 めぐみ 医療技術部
新1病棟師長渡辺 真智子新2病棟師長大原敬子新3病棟師長伊賀原由香外来師長曽我貴美子手術室兼中央材料滅菌室師長門田季香薬剤部薬剤部長(兼務)田中照夫薬剤部副部長(部長代行)小松めぐみ医療技術部
新 2 病棟師長大原数字新 3 病棟師長伊賀原由香外来師長曽我貴美子手術室兼中央材料滅菌室師長門田季香門田季香薬剤部東剤部長(兼務)田中照夫薬剤部副部長(部長代行) 小松めぐみ医療技術部
新3病棟師長伊賀原 由 香外来師長曽 我 貴美子手術室兼中央材料滅菌室師長門 田 季 香薬剤部薬剤部長(兼務)田 中 照 夫薬剤部副部長(部長代行)小 松 めぐみ医療技術部
外来師長曽 我 貴美子手術室兼中央材料滅菌室師長門 田 季 香薬剤部エ 中 照 夫薬剤部副部長(部長代行)小 松 めぐみ医療技術部
手術室兼中央材料滅菌室師長門 田 季 香薬剤部田 中 照 夫薬剤部副部長(部長代行)小 松 めぐみ医療技術部
薬剤部田中照夫薬剤部長(兼務)田中照夫薬剤部副部長(部長代行)小松めぐみ医療技術部
薬剤部長(兼務)田中照夫薬剤部副部長(部長代行)小松めぐみ医療技術部
薬剤部副部長(部長代行) 小 松 めぐみ 医療技術部
医療技術部
## \$P\$ ■ # # # # # # # # # # # # # # # # # #
放射線室長 小 松 剛
臨床検査室長 楠瀬恭子
栄養管理室長 橋 本 由 佳
米養官埋室長     橋 本 田 佳       こころ栄養管理室長     前 田 光 代       リハビリテーション課長     藤 本 弘 昭

医療技術部				
精神科作業療法室主任	吉	村	康	世
臨床心理室室長				_ <u></u> 央
		/村		
臨床工学室 担当 歯科衛生室 担当	<u>森</u> 内	亚	勇_	<u>樹</u> 美
	<u>N</u>	+	真	
事務部		±ıh	±#	ΔD
事務部長(兼務)	宮	地	栦	-郎
事務部副部長	桐	生	NIZ.	
副部長	<u>中</u>	嶋	光	宏
総務課長	文	野	正	史
医事課長	古	谷	英	理
こころ医事課長	浅	津	里	衣
用度課長	村			真
施設課長	真	鍋		誠
情報システム管理課長・  T システム責任者	戸		英	也
診療情報課長(兼務)	古	谷	英	理
企画課長	門	$\blacksquare$	紘	和
在宅部				
在宅部長	廣	井	Ξ	紀
在宅部課長(兼務)まっこと ネット細木	池	上	美	幸
在宅部教育担当係長	井	上	加系	
訪問看護ステーションほそぎ主任	石	本	智	枝
通所リハビリテーションゆうゆう主任	入	交		 €子
ケアサポートセンターほそぎ主任	木	村	ŧ	IJ
ホームヘルパーステーション城西主任	 横	Ш	数	恵
高知市上街・高知街・小高坂 地域包括支援センター主任	筒			*子
サービス付高齢者向け住宅イ チゴいちえ主任	野		優	子
デイサービスいちご学校主任	嶋	内	良	江
デイサービス赤とんぼ主任	筒	井	章	恵
デイサービスさくらんぼ主任	Ш		Ē	喜
グループホーム担当係長 グループホームハッピー万々(兼務)	堀	本	佐	知
グループホーム赤とんぼ主任	斉	藤	顕	良
グループホームさくらんぼ主任	小	原	純	
グループホーム西町主任	藤	野		<u> </u>
訪問リハビリ事業所係長(兼務)	橋		寿	恵
グループホーム管理者・サービス管理責任者	坂	本		
健康管理センター				
健康管理センター部長		下	延	 真
健康管理センター主任			 泰	_ <del></del> 造
ほそぎ連携センター	۱,1	7-6	₩.	
ほそぎ連携センター長	西西	岡		 矢
患者サポート室長	 辻	Imil		_ <u>~</u> 0子
病診連携室長	<del>辶</del> 柏	井		ロナー E吏
	<u>怕</u> 永	野		E史 希子
病床管理室長				

医療安全管理室				
医療安全管理室長(兼務)	上	$\blacksquare$	祐	_
医療安全管理者	井	上	富	美
院内感染対策室				
院内感染対策室長(兼務)	上	地	_	<u>\pi</u>
院内感染対策管理者		居	世	知
認知症対策室				
認知症対策室長 (兼務)	山	出	隆	興
認知症対策室看護師長	Ф	Ш	充	代

こころのセンター(北館)				
副院長・こころのセンター長	吉	田	隆	興
副院長・こころのセンター内科部長	松	$\blacksquare$	幸	彦
こころ診療部				
診療部長	德	岡	雅	嘉
医局長	岡	村	龍一	一郎
こころ看護部				
看護部長	岡	崎	郁	子
北2病棟主任	楠	瀬	智	代
北3病棟看護長	窪	内	淳	子
北4病棟看護長	戸	$\blacksquare$	陽	子
北5病棟看護長	藤	原	奈津	≢子
外来看護長	Ш	$\Box$	留	美
精神科デイ・ケア フレンズ室長	大	場	教	子
重度認知症患者デイ・ケア デイ・アルテン室長	八	木	真こ	己人

# 職員数一覧 令和2年3月31日現在

医師	51
看護師	251
准看護師	46
看護補助者(ヘルパー)	95
介護福祉士	120
薬剤師	11
診療放射線技師	8
臨床検査技師	16
臨床工学技士	1
歯科衛生士	1
デンタルアシスタント	1
精神保健福祉士	8
理学療法士	50
作業療法士	43
言語聴覚士	17

社会福祉士	18
臨床心理士	7
介護支援専門員	8
管理栄養士	11
栄養士	8
調理師・調理員	39
医療秘書	10
診療情報管理士	5
事務員	76
技能員	46
健康運動指導士	2
理学療法助手	7
マッサージ師	2
案内・交換	5
計	963
	1

## 医師一覧 令和2年3月31日現在

四本 巨 ( 土 1 1 )	√m		<b>-</b>	<u> </u>	
理事長(内科)	細	木	秀		
総合診療科	\m		ШŦ		
総合診療科			順		_
	上		祐		
	細	<u>                                      </u>	滋_	俊	
	熊	谷		鶴	
1 71	丸_	Ш		博	
内 科	1.0				
内 科	松_			蔵	
	篠	原	雅	幸	
	34	瀬	祥	子	
	猪	狩	俊	<u>介</u>	
		賀		仁_	
	8	原	正	幸	(非常勤)
呼吸器内科	八八	林		誠	
	森	下	延	真	
	34	瀬	祥	子	
消化器内科	上	$\blacksquare$	祐		
	中	内		仁	
	髙	橋	佳	伸	
	古	賀		仁	
循環器内科	細	木	信	吾	
	宮	地		剛	
	古	JII	敦	子	
	松	村	智	子	(非常勤)
糖尿病·内分泌内科	西	出	達	也	
	熊	谷	千	鶴	
	丸	Ш		博	
	篠	原	雅	幸	
内 科	瀬	尾	宏	美	(非常勤)
	寺	$\Box$	典	生	(非常勤)
	菅	沼	成	文	(非常勤)
	耕	﨑	拓	大	(非常勤)
	廣	瀬		享	(非常勤)
	西	Ш		充	(非常勤)
			崇	文	(非常勤)
	<del>-</del>	嶋	安	曜	(非常勤)
	<del></del>	Ш		ĪĒ	(非常勤)
小児科					
小児科	新	井	淳	_	
V 7011	細	Ĵİ	卓	利	
	堂	野	<u>·</u> 純	孝	
	<del>-</del>	岡	祐	子	
		藤	<u> </u>	実	(非常勤)
	竹	内		那	(非常勤)
	藤	枝	幹	也	(非常勤)
	玉	城	T'1		(非常勤)
		藤	晃	+	(非常勤)
	<u></u>	 崎	真	_ <u>=</u>	(非常勤)
	ъ	шО	_ 六_		(がかまり)

外 科					
外科	上	地		<u> </u>	
乳腺・甲状腺		﨑	<i>I</i> ≡	=	
			信		
血管外科	西	村	哲	也	
化学療法・緩和ケア科	安_	藤		徹	
脳神経外科					
脳神経外科	栗	坂		宏	
	上	羽	哲	也	(非常勤)
整形外科					
整形外科	北	出	和	雄	
	Ш	JII	晴	吾	
	寺	西	裕	器	
	池			彦	(非常勤)
		政	龍	<i></i>	(非常勤)
	Ш	<u>取</u>		靖	(非常勤) (非常勤)
		_ '	<u>陳</u>		
	喜	安	克		(非常勤)
丁自のかな	泉			1	(非常勤)
耳鼻咽喉科	100				
耳鼻咽喉科	楯		敬	蔵	
放射線科					
放射線科	耕	﨑	志	乃	
	南		博	紀	(非常勤)
	梶	原	賢	司	(非常勤)
	吉	松	梨	香	(非常勤)
皮膚科・形成外科			,,,		() / 11-2-107
皮膚科·形成外科	野	Ħ	理	香	(非常勤)
麻酔科					()11132/37
麻酔科		中	豊	J	
ペインクリニック		<u>丁</u>	_ <del>豆</del> _ 滋	_ <u>/\</u> 俊	
	植	 		<u></u>	(非常勤)
麻酔科			<u>咊</u>		
· ニュー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	橘		壽	人_	(非常勤)
病理診断科	, 1 .	جادران	<u> </u>		
病理診断科		﨑	義	_	
泌尿器科					
泌尿器科	蘆		真	吾	(非常勤)
	<u>山</u>	本	志	雄	(非常勤)
健康管理センター					
健康管理センター	森	下	延	真	
	濱	脇	34	暉	(非常勤)
研修医					
研修医	加	藤	<b>帯</b> 5	E紗	
ツロシビ	長	澤	<u></u> 隆	<u>- 脱</u> - 暁	
	丸	岡		<u>。</u> 5子	
	<u>凡_</u> 篠				
			知	周	
	砥	<u>上</u>	幸	樹	
	<u>ф</u>	尾	朋		
	藤	吉	佑	樹	

### こころのセンター(北館)

精神科・心療内科					
精神科·心療内科	吉	出	隆	興	
	德	岡	雅	嘉	
	田	村	龍-	一郎	
	橋	$\blacksquare$	侑	樹	
	須	賀	楓	介	(非常勤)
	小	南	博	資	(非常勤
	H.	代	晶	加.	(非常勤)

精神科・心療内科							
精神科·心療内科	樫	林	哲	雄	(非常勤)		
	小	松	静	香	(非常勤)		
内 科							
内科	松	$\blacksquare$	幸	彦			
	仁	尾		裕	(非常勤)		
歯 科							
歯科	細	木	己	子			

## **診療部**



#### 令和元年度 症例検討会

開催日	演題·内容	発表者
4月24日 (水)	急性心不全の初期対応	循環器内科 細木 信吾
5月22日(水)	当院で経験した回避・制限性食物摂取症	小児科 中岡 祐子
6月26日(水)	副鼻腔炎治療について〜ガイドラインを中心に〜	耳鼻咽喉科 楯 敬蔵
7月24日 (水)	認知症の基本的対応	精神科 吉岡 隆興
8月28日 (水)	耳下腺癌術後の疼痛を契機にケミカルコ-ピングをきたした一例	外科 安藤 徹
9月25日 (水)	小児糖尿病サマーキャンプで実施した災害学習	小児科·研修医 篠田 知周
10月23日(水)	バセドウ病と亜急性甲状腺炎を合併し可溶性 I L - 2 受容体高値 を呈した一例	内科 品原 正幸
11月27日 (水)	腹膜垂炎 そして 腹腔内遊離体・肝偽脂肪腫	放射線科 耕﨑 志乃
12月25日 (水)	軽度の意識障害と無動で搬入された症例	脳神経外科 栗坂 昌宏
1月30日(木)	リドカイン点滴が有効と考えられた線維筋痛症の 2 症例	麻酔科 細川 滋俊
2月26日 (水)	膵頭十二指腸切除術後吻合不全による廃用症候群のリハビリ中に 発症した誤嚥性肺炎に関連して	呼吸器内科 小林 誠



## 総合診療科



院長 深田 順一 (令和元年11月~)



前院長 堀見 忠司 (~令和元年10月)



副院長 上田 祐二



麻科・ペインクリニック部長 総合診療科科長 細川 滋俊



総合診療科副部長 熊谷 千鶴



内科副部長 丸山 博

#### 1活動内容

当院の総合診療科は、平成27年度に「あらゆる患者を診察し、トリアージする」をモットーに掲げられ、その後、平成30年に再整備された国の専門医制度で、総合診療専門医を養成することになった高知家総合診療専門研修プログラムの連携施設にもなっている。

現在、当院の総合診療科では、人間の体は総合的にできている、という視点から、初診患者さんで、その訴えだけからは、どのように診療を受ければいいかがわからない患者さんに対し、全人医療の立場から診察を行い、個々の患者さんごとに、必要に応じて非内科系専門科への受診を含め、以降の適切な診療へとつなぐ役割を、主たる診療内容と位置付けている。

なお、令和2年度から「内科」という診療科名に改めることになった「一般内科」は、紹介医、もしくは

院内専門医によって、既に治療が必要な内科系疾患を 複数お持ちという患者さんを中心に、1人の内科医師 の下、1回の受診で一括した検査・投薬などが受けら れる場として位置付けている。

#### 2 今後の課題

- ①在宅医療との連携を高める。
- ②総合診療専門医専攻医の研修受入体制の整備を行

#### 3常勤医師の氏名

堀見 忠司(~令和元年10月)

深田 順一(令和元年11月~)

上田 祐二

細川 滋俊(総合診療科 科長)

千鶴 熊谷 丸山 博

(文責:院長 深田 順一)



### 科



理事長 細木 秀美



名誉副院長 松田 勇蔵



内科副科長 篠原 雅幸



弘瀬 祥子



内科医師 猪狩 俊介



内科医師 古賀 仁



松村 智子



### 呼吸器内科



名誉副院長 小林 誠



健康管理センター部長 森下 延真



内科長 弘瀬 祥子

#### □活動内容・目標に対する達成状況

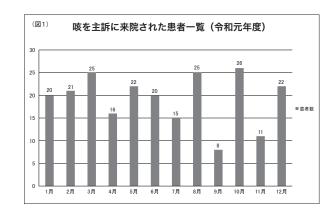
- 1. 外来診療(咳外来を含む)
- 2. 入院診療(重症者は除く)
- 3. 喘息と慢性閉塞性肺疾患(СОРD)吸入手技の 指導についての医薬連携
- 4. 高知喘息研究会、高知感染症研究会、高知COP D研究会、高知びまん性肺疾患研究会、高知呼吸 不全研究会、高知胸部疾患研究会などの世話人

- 2 今後の課題 1. 高次医療機関との病病連携強化を進める。
- 2. コメディカル・周辺薬局との連携を進める。
- 3. まとめ

外来では咳が長引く訴えの患者さんが多く、可能 な範囲で対応を行っています。その中でも患者数 の多い咳喘息の診療に、当院では呼気一酸化窒素 (FeNO) 測定装置を平成26年にいち早く導入 し実績を積んでいます。令和元年1年間の咳を訴 えて受診した患者さんの実績を示します(図1)。 咳を訴えて来院される患者さんは春先と秋、冬に 多かった前年と少し違ってピークがはっきりせず

平準化する傾向が窺えました。そのほか例年通り 外来・入院ともに細菌性肺炎、気管支喘息、慢性 閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎、慢性呼吸 不全の患者さんが中心でした。慢性呼吸不全の患 者さんに対しては在宅酸素療法に加えて、必要が あれば森臨床工学士の力添えを得てマスク式補助 換気療法(NPPV)の利用、またPTの方々の 協力の元に呼吸器リハビリを実施して、患者さん のQOLの向上に努めています。

引き続き喘息とCOPDの患者さんについて、各 種吸入デバイスの吸入手技の指導に関して近森病 院との連携を行い、共通の指導評価箋を作成しま した。院内薬局と周辺の院外薬局の薬剤師さん と、勉強会・協議の場を持ちながら、今後も継続 的に周辺薬局との医薬連携を深めていきたいと 思っています。



#### 3 常勤医師の氏名

森下 延真 弘瀬 祥子 小林 誠

#### 中山 正

4非常勤医師の氏名

(文責:名誉副院長 小林 誠)



### 2 消化器内科



診療部長/消化器内科部長 中内 昌仁



上田 祐二



消化器内科長 髙橋 佳伸



内科医師 古智 仁

### 

消化器内科は、食道、胃、大腸などの消化管、およ び肝臓、膵臓、胆道系疾患などの消化器疾患を中心に 診療を行っており、消化器癌患者に対する外来化学療 法も高知大学第一内科からの紹介患者を中心に、症例 数が増加していると思われる。

当院内視鏡センターでは、上部(経口・経鼻)、下部 消化管内視鏡検査および消化管内視鏡手術も例年どお り施行しており、検査数も次第に増加してきている。 また、内視鏡的逆行性胆管膵管造影およびその関連手 術の件数も増加傾向にあると思われる。

#### 2 今後の課題

令和元年度は常勤医 4 名および非常勤医 2 名の体制 で診療している。今後も内視鏡診断、消化器内科診療 体制を充実させ、さらに発展させていきたい。

安全かつ正確な診断を行う上で、当院内視鏡セン ターで平成26年4月より導入された大腸拡大内視鏡に 加え、平成27年3月から導入された新型内視鏡システ ムおよび、経口拡大内視鏡を使用し精密検査を行って いるが、大腸拡大内視鏡スコープの追加、およびさら に改良された上部消化管内視鏡スコープも発売開始さ れており、新規導入も検討したい。

### 4 常勤医師の氏名

中内 昌仁

上田 祐二

髙橋 佳伸

古賀 仁

### |5|非常勤医師の氏名

高知大学医学部附属病院第一内科より

耕﨑 拓大

廣瀬 享

(文責:診療部長/消化器内科部長 中内 昌仁)



### 循環器内科



ほそぎハートセンター長 循環器内科部長 細木 信吾



循環器内科長 宮地 剛



循環器内科長 古川 敦子



循環器内科医師 松村 智子

#### 1活動内容・目標に対する達成状況

外来における循環器疾患への対応と、他院からの循 環器疾患患者転院リハビリや慢性期治療継続

外来・入院ともに循環器疾患患者を積極的に受け入 れることを目標としている。他院で急性期循環器治療 を行った後に、当院での入院リハビリや入院治療継続 の患者を積極的に受け入れた。令和2年度のほそぎ ハートセンター立ち上げに向けて、令和元年11月より 新たに宮地 剛医師、古川敦子医師を迎え3名体制と なったことで、より多くの外来患者・入院患者を診る ことができるようになった。結果、1年間の患者数 は、外来患者3,810名、入院患者170名であった。

これまで、心エコーは検査技師が記録、主治医が所 見を確認するシステムであったため、主治医が外来を 中断して心エコー所見を確認しなければならず患者の 待ち時間が延長していた。心エコー専門医である古川 敦子医師が心エコー所見を確認するシステムとした結 果、外来中断がなくなり患者の待ち時間短縮につなが り、さらに当院での心エコー件数や診断精度が向上し た。

心臓CT読影を専門とする宮地 剛医師が心臓CT を遅滞なく読影することによって、外来での心臓CT 施行日に結果説明ができるようになり、患者負担を軽 減することができた。

また、侵襲的治療としては恒久的ペースメーカ新規 移植術・交換術を7例行った。

#### 2 今後の課題

- 1. ほそぎハートセンターの立ち上げ
- 2. 循環器疾患患者入院への積極的な対応:心臓力 テーテル検査・治療
- 3. 循環器疾患患者外来での心臓リハビリテーション
- 4. 経食道心エコー

令和2年度のほそぎハートセンター立ち上げに向け て、心臓リハビリテーション、心臓カテーテル検査・ 治療、不整脈へのカテーテルアブレーション、末梢動 脈疾患へのカテーテル治療実施に向けてハード面・ソ フト面、両方から準備を進める。

#### 3 常勤医師の氏名

細木 信吾

(ほそぎハートセンター長、循環器内科部長)

宮地 剛(科長)

古川 敦子(科長)

#### 4 非常勤医師の氏名

松村 智子

(文責:副院長/ハートセンター長 細木 信吾)

(令和2年4月1日就任)



### 糖尿病・内分泌内科



副院長 糖尿病·内分泌内科部長 ほそぎ連携センター長 西岡 達矢



総合診療科副部長 熊谷 千鶴



内科副部長 丸山 博



内科副科長 篠原 雅幸



三愛病院内科長 品原 正幸

#### | 活動内容・目標に対する達成状況

1. 糖尿病については、5名の常勤医師で診療を行っ ており、健診で新たにみつかったり他院から紹介 された患者さんに柔軟かつ積極的に対応すること ができている。個別指導としては、栄養指導は随 時行っており、加えて糖尿病透析予防指導56件、 フットケア42件、インスリン初期導入指導20件を 行った。入院診療として糖尿病教育入院(2週間 コース5例、1週間コース4例)や血糖コント ロールのための入院などを行っている。

これに年1回の糖尿病セミナー、年2回の糖尿病 ウォーキングを当院独自のものとして継続して 行っており多くの方に参加いただいている。

また多職種で構成する担当スタッフで毎週木曜夕 方にmeetingを行い、症例検討、抄読会、勉強会 などを行い、情報共有や研鑚を図っている。

令和元年末において、当院では日本糖尿病療養指 導十13名、高知県糖尿病療養指導十14名、糖尿病 看護認定看護師1名、フットケア指導士1名が在 籍しており、療養指導に当たっている。

ただ、常勤医師が11月から1名(既に昨年度末で 1名も)と糖尿病看護認定看護師が1月から三愛 病院に移動となったためパワーダウンは避けられ ず、今までの診療レベルの維持が困難となってき ている。

2. 内分泌疾患診療については、高知大学からの2名 の非常勤医師に協力してもらい、患者数の多い甲 状腺疾患を中心に下垂体疾患、副腎疾患の診療に 当たっている。

なお院外のイベントではあるが、西岡を会長とし て内分泌・糖尿病の専門医師が集う第19回日本内 分泌学会四国支部学術集会を9月に高知市(高知 会館)で開催したが、これは県内外に当院診療の 広報を行うことができたものと考えている。

#### <イベント>

●糖尿病ウォーキング

令和元年4月13日 桂浜、参加者15名 令和元年10月5日 高知県立牧野植物園、 参加者9名

●糖尿病セミナー

令和元年6月1日 参加者84名

講演:「糖尿病と認知症」品原正幸

「大笑いで健康増進」漫談師 間六口ほか

#### 2 今後の課題

- 1. 糖尿病については引き続き、チームとしての療養 指導力を強化し、診療充実に努めていく。
- 2. 医師、コメディカルともに学会発表など学術活動を積極的に行っていく。
- 3. 新しい知見を得ることに努め、診療に活用していくよう研鑚する。

### 3 常勤医師の氏名

西岡 達矢 熊谷 千鶴

丸山 博

品原 正幸(11月に三愛病院に移動)

篠原 雅幸

#### 4 非常勤医師の氏名

田口 崇文(高知大学内分泌代謝・腎臓内科)

西山 充(高知大学内分泌代謝・腎臓内科)

中村 寿宏(三愛病院)

(文責:糖尿病:內分泌内科部長 西岡 達矢)



### 小児科



小児科部長 新井 淳一



神経小児科部長 細川 卓利



小児科副部長 堂野 純孝



小児科医師 中岡 祐子



小児科医師 齊藤 由実



小児科医師 竹内 愛那

#### 1 活動内容・目標に対する達成状況

- 1. 小児科一般診療(外来、入院)、内分泌、糖尿病、発達、神経、腎、循環器、アレルギー疾患などの専門診療
- 2. 健診事業(1歳6カ月、保育園の定期健診)、各種 予防接種
- 3. 臨床研修医、学生実習教育、各種学会・研究会で の発表や参加
- 4. 大学、看護学校などでの講義
- 5. 救急、時間外医療への参加(平日夜間、休日のあんしんセンター勤務)
- 6. 小児1型糖尿病サマーキャンプ、プラダーウィ リー症候群親子キャンプ

高知市内では小児科入院治療が可能な唯一の私立病院である。病状説明、治療内容ともに患者さん、御家族の満足度を維持できる診療を行い、高次医療機関とも適切に連携をする。令和元年度から、2名の非常勤

医師が加わり、一般診療枠の拡充とアレルギー疾患の 専門的な診療が可能となった。

#### 2 今後の課題

- 1. 外来診察施設の改善、予約診療導入と周知による 一般診療での待ち時間の短縮などにより患者さん の接遇は改善し、外来数は安定している。診療体 制の維持が必要。
- 2. 診療時のトラブルは最小限に維持すること。
- 3. 将来的には医師の高齢化に対応すること。

#### 3まとめ

刻々と変化する医療必要性に対応できるように、数年後を見据えて将来性が期待できる小児科外来、小児科病棟にすることを目標として、現在可能なこと、必要なことを着実に行っていく。

#### 4常勤医師の氏名

新井 淳一

堂野 純孝

中岡 祐子

細川 卓利

### 5 非常勤医師の氏名

齊藤 由実

竹内 愛那

島崎真弓

藤枝 幹也 玉城 渉

大学病院医師

(文責:神経小児科部長 細川 卓利)



## № 化学療法・緩和ケア科



化学療法・緩和ケア科部長 安藤 徹

#### 1活動内容

平成19年1月より、治癒不能がん患者の全人的苦痛 の治療のために、緩和ケア外来が外科の一部として開 設されたが、平成22年4月からは化学療法・緩和ケア 科の新設に伴い独立した診療科として活動している。

専任の担当医は一人ではあるが、緊急時などには外 科スタッフの協力を得ながら診療を行っている。

治癒不能のがんに対して、苦痛緩和だけではなく化 学療法から緩和ケアへの途切れのない医療の提供を目 的としており、患者の希望に応じて抗がん治療も行っ ている。

令和元年度の入院・通院を合わせた化学療法・緩和 ケア診療の問い合わせは188件(院外169件、院内19件) で、院外からの問い合わせのうち入院の相談が116件 であった。実際に外来受診されたのは110名であり、 新しく通院加療を開始された方は51名だった。緩和ケ ア専門病棟であるポピー病棟に入院された方は、院内 紹介と院外紹介を合わせて98名であった。これは去年 度に比べて微減している。

外来診療は火・木・金の午前中に予約制で行ってい るが、初診の入院・通院相談に対する面談に関しては 曜日を特定せず随時行っている。

入院治療は主にポピー病棟で行っているが、ポピー 病棟のみでは入院を希望する患者すべてには十分に対 応できないため、至急の入院治療が必要となった場合 は一般病棟に入院しての緩和ケア診療も行っている。

#### 2 今後の課題

医療の発達に伴う相対的な変化でもあるが、死亡原 因に占める悪性新生物の割合は今後も減ることはない と思われる。緩和ケアの需要は今までと同様にあるだ ろうが、それに甘んじて同じサービスを提供し続ける だけでは施設としての存続が危ぶまれる事態も起こり えるため、一般的な診療や看護ケアに加えて他施設と の差別化を図れる患者サービスの充実を常に意識して おくべきだろう。次年度から当院は緩和医療の専門医 取得を目指せる研修施設に登録されることとなった。 これを機会に病院としてのさらなる知識・技術の向上 を期待したい。

### 3 常勤医師

安藤 徹(化学療法・緩和ケア科 部長)

(文責:化学療法・緩和ケア科部長 安藤 御)







医局長/外科部長 尾崎 信三



血管外科部長 哲也

#### | 1 ||活動内容・目標に対する達成状況

- 1. 乳がんの手術症例数が全手術症例数の約半数を占 めている。県内では高知大学病院、やまかわ乳腺 クリニック、高知医療センターに次いで4番目に 症例数の多い施設となっている。
- 2. 下肢静脈エコーの症例数が増加した。
- 3. 痔核の硬化療法症例が増加した。
- 4. 胃がん症例が1件もなかった。
- 5. 医療センター、大学病院、日赤、近森病院から外 科の術後患者さんだけでなく、泌尿器科や形成外 科の術後患者さんの転院症例が増えた。

6. 非常勤医師が2名退職された。

#### 2 今後の課題

- 1. 新型コロナウイルスの影響で減少した手術症例数 を徐々に戻していく。
- 2. 尾崎部長が日本乳癌学会の専門医を取得された ら、乳腺センターを設立する。

#### 3常勤医師の氏名

尾﨑 信三

上地 一平

西村 哲也

#### 4非常勤医師の氏名

不在

(文責:副院長 上地一平)



### 心 脳神経外科



脳神経外科部長 栗坂 昌宏

#### 1活動内容

平成22年5月1日より、栗坂が常勤医として着任 し、外来および入院診療を開始して10年が経過した。 外来は、頭痛、めまい、耳鳴症、てんかん、正常圧水 頭症、認知症、頭部外傷、三叉神経痛、顔面痙攣、脳 腫瘍、未破裂脳動脈瘤、脳卒中後遺症、高血圧症など が多く、小児から高齢者まで幅広く診療している。

入院は脳卒中患者さん、脳腫瘍、脳動脈瘤、三叉神 経痛、顔面痙攣、慢性硬膜下血腫、水頭症患者さんな ど多彩になってきている。最近はMajor surgeryが 激減し手術件数も全体的に減少している。ほとんどの 手術患者さんを大学病院に紹介しているせいである。 救急外来があり、総合診療科があり、麻酔科医が常勤 しながら、救急外来での脳卒中患者がことごとく他院 へ転送されていることにも要因がありそうだ。検査で は、MRI、3D-MRA、MD-CTAのほか海馬 の容積を測定するVSRADが主体となっており、い まだDSAを行う機器がないため、脳血管撮影は行え ていない。

#### 2 今後の課題

二次救急病院として再スタートを切り7年がたち、 常勤麻酔医も着任して、頭部外傷や脳内出血、くも膜 下出血などの緊急手術が可能となってはいるが、ス タッフの関係で緊急のMajor surgeryはできていな い。大学の脳神経外科も7年が経過し、スタッフも増 えつつある。症例数も増加し、日々躍進が期待されて いる。入局者も増えてきつつあり明るい展望が現実と なっている。今年からは、脳腫瘍や脳動脈瘤などのM ajor surgeryがほとんど大学送りとなり、全体的に も薬物療法が優先され、手術件数が減少している。

手術に際しては大学から手伝いに来てくれるが、当 院に脳外科の当直医がいないため、緊急手術を含め入 院患者も少ない。適応患者がいても他院送りとなって おり、脳梗塞でさえ他院送りになっている。手術のみ ならず入院患者についても見通しが立っていない。上 羽教授が非常勤医師として脳神経外科外来の診療の一 端を担ってくれている。しかし若いスタッフが加わら なければさらなる発展は期待できない。今年は慢性硬 膜下血腫や正常圧水頭症に対するV-Pシャントなど の緊急手術も常勤麻酔医の着任によるところが大き い。来年度には、さらに新しい機器も揃え、もう少し 脳腫瘍患者を増やしたいと考えている。そしていよい よ本格的な緊急対応の脳神経外科Major surgeryを 開始し、本格的な脳神経外科診療を展開したい。

#### 3まとめ

これからも今まで通り、先天奇形から悪性脳腫瘍の 修学的治療まで幅広い治療を展開するが、緊急手術を 含む脳神経外科手術は減少の一途をたどっており、入 院患者の増加をもくろむにつけても新しい若いスタッ フの着任が待たれる。

#### 4 常勤医師

栗坂 昌宏

#### 5 非常勤医師

高知大学脳神経外科 上羽 哲也

(文責:脳神経外科部長 栗坂 昌宏)



### 整形外科



名誉副院長 北岡 和雄



リハビリ・整形外科部長 山川晴吾



整形外科医師 寺西 裕器

#### |1||活動内容・目標に対する達成状況

平成31年3月31日に南場寛文医師が退任し代わって 平成31年4月1日に寺西裕器医師が着任したため、常 勤医3人体制には変化なし。非常勤医師は前年度より 継続して外来診療および手術に貢献していただいてい る。手術件数および診療実数には大きな変化なし。

#### |2||今後の課題

常勤医の高齢化に伴う診療への影響の最小化、およ び常勤医の確保。

#### |3|常勤医師の氏名

北岡 和雄

山川 晴吾 寺西 裕器

#### 4 非常勤医師の氏名

高知大学整形外科 池内 昌彦 武政 龍一 喜安 克仁 泉 仁 山中外科整形外科 山中 陳靖

(文責:リハビリ・整形外科部長 山川 晴吾)



### 耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科部長 楯 敬蔵

#### 1 活動内容・目標に対する達成状況

- 1. 本年度はスギ花粉症症状の強い方が多く、年度初めより外来患者さんは増えており、年度を通じて前年度より多くの受診患者さんがありました。
- 2. 入院診療ですが、前年度同様基礎疾患がある患者 さんに対する治療で内科の先生の共診をお願いし た方、安静加療を要した方数名でした。 嚥下に関する検査はSTさん協力のもと連年通り 行えていました。
- 3. 本年も外来・入院含め、患者さんが納得できる医療を目指します。

自然が相手の疾患ですので静観するしかありません。 「場下な業の即し組みる」本年度トリ「担命場下院

- 2. 嚥下改善の取り組みで、本年度より「摂食嚥下障害を有する患者に対する多職種チームによる効果的な介入が推進されるよう、摂食機能療法の経口摂取回復促進加算について要件及び評価」が見直され、摂食嚥下支援加算200点(週1回摂食機能療法に加算)が加算されるようになりました。耳鼻咽喉科としては嚥下機能評価評価、カンファレンで協力できます。
  - 必要要件がクリアされ耳鼻咽喉科として多くの症 例に協力できる状況になれば幸いです。
- 3. 外来でのアレルギー性鼻炎に対する手術治療が行えない状況になりました。年間2例程度の手術なので、担当医の努力が足らない結果です。 必要な患者さんは他院に紹介と言う形をとらせていただきます。

#### ②今後の課題

1. 本年度、花粉症の患者さんの減少が見込めます。

#### 3常勤医師の氏名

楯 敬蔵

(文責:耳鼻咽喉科部長 楯 敬蔵)



### 放射線科



放射線科部長 耕﨑 志乃

#### 1 活動内容・目標に対する達成状況

- 1.全CT、MRI検査に対する読影二次加算の取得達成(常勤放射線科医の読影率100%)。 総件数CT+MRI 5,770件(平成30年度6,267件より497件減)読影率 100% 他施設紹介件数704件(平成30年度1,039件より335件減)他施設紹介率 11.7%(増減なし)単純写真読影依頼277件(外注一般撮影読影依頼72件を含む)平成30年度420件より143件減)
- \*令和元年度から読影二次加算取得のため、非常 勤医の読影を最終仮確定にしていただき、一両 日中に常勤医が最終確定を行うことで読影加算 2の維持を保つことにした。
- 2. 自己研鑽・自己啓発として、最低でも年に1回以上、全国区での学会発表を目指しており、令和元年度は第44回日本医学放射線学会秋季臨床大会で「腹膜垂炎 そして 腹腔内遊離体」を発表した。
- 3. 研修医・若手医師の教育・指導として毎月第1・ 第3月曜日に画像カンファレンスを開催した。令 和元年度は33症例の提示を行った。
- 4. 放射線画像診断専門医、核医学専門医、PET認定医、がん治療認定医、放射線診断指導医の維持・ 更新。令和元年度は放射線診断専門医とがん治療認定医の資格を更新した。
- 5. 令和元年度4月から、木曜日午後に高知大学放射

線科から派遣医師1名増員となり、その間の学生 指導に専念できるようになり、残業時間が減少で きた。

②今後の課題

- 1. 全CT、MRI検査に対する読影二次加算の取得
- 2. 自己研鑽・自己啓発として、学会や研究会に積極 的に参加し、年に1回以上の全国区での学会発表 を目指す。
- 3. 研修医・若手医師、学生の教育・指導。
- 4. 令和元年度は放射線画像診断専門医とがん治療認 定医の資格を更新した。今後の核医学専門医、P ET認定医の維持・更新のためには、これまで通 り核医学検査への従事と核医学会春季大会と核医 学秋季学術総会への参加が必要。
- 5. 核医学専門医維持には一定数の核医学検査従事が 必要である。当院に核医学検査がないため、毎週

火曜日午前は高知大学 PETセンターで核医学検 査に携わっている。耕﨑不在の間は、高知大学放 射線科から診断専門医2名を火曜日に派遣しても らっており、引き続き応援を乞う。

#### 3 常勤医師の氏名

耕﨑 志乃

#### 4非常勤医師の氏名

南口博紀

高知大学医学部放射線科より毎週火曜午前派遣 梶原 賢司

高知大学医学部放射線科より毎週火曜午後派遣 吉松 梨香

高知大学医学部放射線科より毎週木曜午後派遣

(文責:放射線科部長 耕﨑 志乃)



### 2 皮膚科・形成外科



皮膚科·形成外科医師 野田 理香

#### | | 活動内容・目標に対する達成状況

平成30年4月に皮膚科・形成外科を開設していただ いて2年目が終了した。徐々に外来患者数が増えてき ている。じんせいNo.391号にトランス脂肪酸につい て掲載させていただいたように、分野としては湿疹・ 皮膚炎群が多い。重度のアトピー性皮膚炎や重症潰瘍 の症例もあり内科や血管外科の先生にお願いして併診 で入院した症例も数件ある。

手術は外来手術のみではあるが4~6例/月で、助

手の必要な症例や入院患者さんの静脈麻酔例もあり手 術室で行うことも数件あった。

### 2 今後の課題

患者数の増加に伴い、時折待ち時間が長い日も見受 けられる。

念願の栄養指導に栄養士さんに介入していただくの はまだできていない。

腫瘍疾患の鑑別にダーマスコープを導入できれば良 性、悪性の鑑別精度が上がると思われ申請したいと 思っている。

#### 3非常勤医師の氏名

野田 理香

(文責:非常勤医 野田 理香)



### 麻酔科



麻酔科部長



麻酔科・ペインクリニック部長 総合診療科科長 細川 滋俊

#### □活動内容・目標に対する達成状況

1. 手術室における麻酔業務

全身麻酔(吸入麻酔) 142件 全身麻酔(完全静脈麻酔<TIVA>) 0件 全身麻酔(吸入)+硬背伝麻 116件 全身麻酔(<T|VA>)+硬背伝麻 11件 脊髄くも膜下麻酔 10件 伝達麻酔 1件 計 280件

2. 目標と達成率

平成28年度の麻酔科管理症例数 344件に対して 81.4%

平成29年度の麻酔科管理症例数 386件に対して 72.5% 平成30年度の麻酔科管理症例数 332件に対して 84.3%

 痛みの外来(ペインクリニック)業務 細川滋俊先生に担当していただき、平成30年度に 開設した。

主としてブロック療法を中心に、腰痛や肩痛、神経障害性疼痛の患者さまや、緩和ケアの患者さまなどを対象に、他科とも協力をして治療を行っている。まずは平成30年度を超えることを目標にしてきた。

令和元年度(平成30年度)/達成率

硬膜外ブロック 114件 (92件) /123.9% トリガーポイント注射 154件 (77件) /200% 星状神経節ブロック 15件 (19件) /78.9% その他の末梢神経ブロック

19件 (14件) /135.7% 計 302件 (202件) /149.5% 延べ患者数 448名 (337名) /132.9%

#### 2 今後の課題

1. 麻酔科管理手術件数の減少

平成29年度の386件から、平成30年度332件、令和元年度280件と減少し続けている。内訳は、整形外科で260→222→193件と67件の減少。外科では122→103→86件と36件の減少となる。手術件数の増加を見込み平成30年度から細川先生をお招きしたこともあり、麻酔科的にはかなり余裕があり、

手術室の大きな環境整備をしなくとも、年間400 件以上の麻酔科管理が可能である(平成29年度は 麻酔科常勤1人体制で386件を管理している)。外 科系の先生方にはぜひともがんばって手術件数を 増やしていただきたいと思う。

2. 痛みの外来の患者増加

1年で1.3~1.5倍に増加している。痛みに苦しむ患者さまは、社会情勢からも増加傾向にあり、今後も増加し続けると思われる。現在、痛みの外来は週2.5回、午前中のみで運用しているが、外来日を増やせば、まだまだ増加には対応できると思われる。

3. 今後への展望

令和2年6月にハートセンターが開設され、来年度は循環器内科の患者数が増加するはずである。 麻酔科としての経験上、内科の充実、患者数の増加は、必ず、外科系の患者数にも良い影響を与え、 手術件数も増加に転じると認識している。どうかこの思いが、現実となることを期待したい。

#### 3常勤医師の氏名

畠中 豊人(ハタケナカ シゲト)細川 滋俊(ホソカワ シゲトシ)

#### 4 非常勤医師の氏名

植田 咊佐(ウエタ ワサ) 橘 壽人(タチバナ トシヒト)

(文責:麻酔科部長 畠中 豊人)



### 病理診断科



病理診断科部長 山﨑 義一

#### 

- 1) 令和元年度を含む過去3年間の病理組織検査の件数の推移は別表(P106)の通りで、院内検査総件数は406件と微増した。
- 2)内訳は内科(内視鏡)279件で昨年より増加(+25件)、外科は86件でやや減少(-10件)、整形外科は9件で著減した(-15件)。
  - 皮膚科は昨年とほぼ同数であった。
- 3) 外科86件のうち66件が乳腺手術(生検23件を含む) で、乳腺切除手術43件のうち半数の22件がオープ ン・ベッド・システムで受け入れた乳腺手術で

あった。

- 4) 乳がん手術に際しての術中迅速病理診断は34件で やや減少した(昨年43件)。
- 5) 三愛病院よりの受託検査は40件で昨年とほぼ同数であった。
- 6)年2回のホルマリン環境測定では良好な作業環境であった。
- 7) 術中迅速病理診断を行うためには必須の凍結標本 作製装置(クリオスタット) の非常電源回路が確 保され、停電時でも滞りなく診断ができるように なった。

#### 2 今後の課題

昨年度に引き続き、できるだけ早くかつ適切な治療 に反映できるように、迅速、正確な診断を提供できる 努力を続けていきたい。 3常勤医師

山﨑 義一

(文責:病理診断科 山﨑 義一)



# 劉 細木病院研修医







加藤 亜里紗



丸岡 日向子



篠田 知周



砥上 幸樹



中尾 朋未



佑樹

33

## 看護部







看護部長 豊田 邦江

副看護部長 廣田 明美

副看護部長 岡﨑 千佐子

#### 1 概要

所属長名:豊田 邦江 構成職員:看護師 3名 合計人数 3名

#### 22019(令和元)年度 目的・目標

目標1. "こころのセンター看護部"との協力のもと、新・細木病院看護部として地域の皆さまに信頼していただける看護・介護を提供する

目標2.新・細木病院の経営安定にむけ積極的に参加する

目標3. "働きがい" や "働きやすさ" を目指した職 場環境の改善を行う

#### 3目標に対する取り組み

目標 1. "こころのセンター看護部"との連携を強化し、 より質の高い専門的ケアを地域の皆さまに提供 できることを目指した。例えば、①認知症対策 室開設により、専門研修修了者の前こころのセ ンター看護師長や精神科医師が全病棟の認知症 ケアラウンドに回り、指導にあたる、②教育担 当副部長が両看護部の学生実習や看護師教育に 関わる、③両看護部委員会を合同開催し、マ ニュアルの統一を図るなどに取り組んだ。医療 安全については委員会を通して原因分析を行 い、転倒原因であった寝衣の丈調整の工夫など 業務改善につなげた。一方で、内服管理など継 続発生しているインシデントもあり、今後の課 題として取り組んでいる。院内感染は、アウト ブレイクは回避できたものの、3月には新型コ ロナウイルス対応が必要となり、救急外来の休 止や面会制限など、地域の皆さまには協力をお 願いすることとなった。患者・家族からの評価 としては、年間15件の投書やお手紙をいただい た。内容は接遇や療養環境に対する意見が多 く、業務改善や職員教育の参考とさせていただいた。一方、温かい意見もいただき、職員の励みとなった。

目標2. 年間病床稼働率85.2%(こころのセンターを含む)を目標としたが、今年度は83.9%と未達であった。北2病棟閉鎖に伴う患者・職員の細木病院への異動など、こころのセンターと協力して経営的貢献を図った。各病棟入院料の増額を目指し、看護職員配置や指定規則に即した病棟の選択を多職種で取り組み、8月より回復期リハビリ病棟入院基本料2へ変更することができた。療養病棟の入院料変更や夜間看護加算についても次年度の目標に掲げ、対応を始めた。さらに酒井コンサルタントの指導を受け、入院希望がある内科外来患者の入院受け入れについて2週間の現地調査を行い、状況把握を行った。今後は診療部と連携強化し、患者サービスにつなげたい。

目標3.働きやすい職場環境の改善については、職員間のコミュニケーションの円滑化やフォロー体制の充実に取り組んだ。教育委員会では、異動者・中途採用者に対する"チェックリスト"や"支援スケジュール"を作成し、活用した。また育休明け職員の短時間勤務や、「勤務配慮希望願い」の導入など、個人の希望を配慮した勤務作成にも取り組んだ。年間退職者は、看護職員22名(離職率12.7%)、介護職員11名(離職率21.17%)であった。職場環境に即した勤務時間の見直しや休憩場所の充実など、状況変化に応じた改善を図りたい。

#### 4次年度の課題

- 1. ハートセンターの円滑な運営と循環器疾患看護の向上
- 2. 新型コロナ対応を含めた院内感染の防止
- 3. リスク報告の分析に基づく具体的な対応の強化
- 4. 病棟再編への対応と、入院基本料の増額および加 算増の対応
- 5. 休憩場所や勤務時間の検討など、働きやすい職場 環境の整備

(文責:看護部長 豊田 邦江)



### 数

### 育

#### 12019(令和元)年度看護部教育目標

1. 専門職業人として、看護・介護の実践能力を自ら

高める看護職員を育成する。

1) 主体的に学び自己のキャリア開発ができ、看

護・介護実践能力を高めることができる。

- 2. 病院機能を理解して地域と連携し、個別性を重視 した看護・介護を提供する。
  - 1)看護倫理に基づいた人間性と社会性を備え、地 域に貢献できる看護職員を育成する。
- 3. 安全・安楽な方法を判断できる看護職員を育成す る。
  - 1) 看護実践力を高め患者のニーズに対応した看 護・介護ができる。
- 4. 医療チームの一員としてよい人間関係を保ち自己 の役割を果たし、社会人としての自覚・責任を持 ち主体的に行動がとれる看護師を育成する。
  - 1) 新人看護師がチームの一員として、具体的な役 割行動がとれるようにするため、新人看護師自 らの努力と看護部全体で成長を支える環境を提 供する。
  - 2)他の職種とコミュニケーションを図り、患者の 人権を尊重した看護・介護を実践することがで きる。
- 5. 看護基礎教育における実習施設の役割を果たすこ とができる。
  - 1) 実習全般の情報を収集し臨床指導者の役割を果 たすことができる。
  - 2) 看護学生・研修生に合わせ実習環境を提供する。

### 2活動報告

1. 平成31年4月より細木病院看護部とこころのセン ター看護部は合同で教育活動をスタートした。 トピックス研修のテーマについては、看護部教育 委員会が各領域の看護部職員のニーズが高い項目 や学習の必要が高い項目を中心に企画した。内容 は、「ナラティブ」「看護研究」「がん化学療法の基

礎知識と副作用対策」「輸液ポンプ」「人工呼吸器 の管理」「エルネオパNF取り扱い」「アンガーマ ネジメント」「新たな認定看護師制度」の8項目を 実施した。また、ハートセンターが来年開設され ることを受けて看護部だけでなく全部門を対象に 循環器疾患と看護についての勉強会を開催した。 第1回が「心電図モニター」第2回が「虚血性疾 患(カテーテル後の看護を含む)」第3回が「心不 全の管理」で毎回参加者は100名を超えた。また新 人看護師の集合教育においても、前年度同様に技 術演習を中心に、吸引、酸素療法、採血や注射・ 経管栄養・トランスファーなどの演習を行い、実 践につながる研修を実施した。

- 2. 看護研究は、前年度に取り組んだ内容を南2病棟 が全国学会で発表することができた。
- 3. 中途採用者の支援体制として、経験の確認のため のチェックリストや支援のための計画を週単位で 作成し活用するようにした。

#### 3業務実績

- 1. 臨地実習6校、ふれあい看護体験10名受け入れ
- 2. 看護部教育委員会による研修の企画運営: 「新人研 修9回」「新人看護師、2年目看護師ローテション 研修 | 「プリセプター会 5 回 | 「一人前研修 | 「トピッ クス研修8回|「循環器勉強会3回|

#### 4次年度課題

- 1. 記録基準に基づいた看護記録の充実
- 2. 中途採用者の支援体制を継続

(文責:看護部副部長(教育担当) 岡﨑 千佐子)



### 新1病棟

### 1 概要

病棟形態:回復期リハビリテー

ション病棟

病 床 数:52床

所属長名:渡辺 真智子

構成職員:看護師 18名

> 1名 准看護師 介護福祉士 6名

> 看護助手 2名

合計人数 27名



4. 働きやすい職場環境を提供する。

#### 22019(令和元)年度 目的・目標

- 1. 専門性を持ち、患者・家族の思いを尊重した看護・ 介護を提供する。
- 2. 安全で安楽かつ安心できる看護・介護を提供する。
- 3. 職員全体が病院経営に参画する。

#### 3目標に対する取り組み

1. 初回カンファレンス時に方向性の定まっていない 患者が多く、主治医はじめ担当職種で退院支援な どに早期に関わることの重要性と、サマリー作成 など推し進めているが、思うように進捗していな い。また退院支援も積極的に関われていない職員 もおり、早期の介入と支援が重要である。自己研 鑚は個々の職員によるところが大きく、個別指導 を継続する必要がある。

- 2. 転倒・転落は65件、与薬に関しては22件、チュー ブトラブルが20件となっている。
  - インシデント件数は140件でそのうちアクシデン トは4件発生しているが、重大な事故には至って いない。同じ患者が複数回転倒したり、薬剤失行 もあるなど、個々のインシデント事例の対策が汎 化されていないことが浮き彫りとなった。インシ デントの共有と対策強化が求められる。療養環境 の整備と改善目的で有料個室の床と壁の修繕、ラ ウンジの絨毯張り替えなどに着手し、患者さんか らも喜びの声が聞かれた。インフルエンザの発症 は職員1名のみで、患者の発生は見られなかっ た。手指衛生の徹底とスタンダードプリコーショ ン遵守の成果だと思われる。今後もコロナ肺炎対 策の一環で、引き続きPPEの適切な使用と手指 衛生遵守の徹底を図っていきたい。
- 3. 8月から回復期リハビリテーション病棟入院料が 2へ変更となったことは病院経営に大きく貢献で きた。医師をはじめとして関係する部署とのミー テイングを重ね、実現できたことは現場職員の協 力の賜物でもある。入院料が変更になり施設基準

- もクリアできている一方で、病床稼働率は未達の 月もあり、今後は稼働率の維持も達成しつつ、さ らに入院料1を目指しデータの蓄積と分析、達成 のための患者選定など具体的な対策を関係部署と 検討していく必要がある。
- 4. 少ない人員配置の中でも有給取得は5日以上確保 できていた。また病欠職員の支援や勤務交代にも 快く協力してくれる職員に感謝している。そう いった中でもキャリアアップなどを理由に退職者 は発生している。管理者として働きやすさはもち ろんだが継続就労が可能となるような対策を検討 していく必要がある。また業務改善の一環として 3月から朝の申し送りを廃止し、その時間をモー ニングケア支援に充てるよう変更した。現状では 大きなトラブルにはつながっていないため現在も 継続中であるが、今後も職員間での情報共有を密 に行いシームレスな看護を継続していく必要があ る。また、ノーリフトケアの講習修了職員が3名 おり、その職員が中心となり病棟内での定着と推 進に取り組んでいきたい。

#### 4次年度の課題

- 1. 回復期リハビリテーション入院料1達成にむけて の取り組みを継続する。
- 2. ノーリフトケアの定着と推進を図る。
- 3. 医療機能評価受審にむけての取り組みを行う。

#### 新 1 病棟 2019(令和元)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	HU統合に向けて	渡辺師長	86%	田能介護福祉士	86%
5月	心電図12誘導·AED	千葉主任·森M E	90%	清家看護師	90%
6月	急変時シュミレーション	天野看護師·村田看護師 田能介護福祉士	90%	明神看護師	90%
7月	点滴隔壁手技など	小松薬剤室副部長	90%	重光看護師	90%
8月	ノーリフトケア	外部講師2名	86%		86%
9月	退院支援について	千葉主任	86%	関本介護福祉士	86%
10月	看護記録監査	下井看護師	46%	中野看護師	46%
11月	認知症ケア	中野看護師	92%	今村看護師	92%
12月	更衣動作	藤田・吉川OT	89%	田村介護福祉士	89%
1月	感染対策	北村·新階看護師 田能介護福祉士	89%	山中看護師	89%
2月	災害看護	清家看護師	38%	下井看護師	38%
3月					

(文責:新1病棟師長 渡辺 真智子)



### 新 2 病棟

病棟形態:地域包括ケア病棟

病 床 数:60床

所属長名:大原 敬子 構成職員:看護師 24名

准看護師 2名

ヘルパー 12名 合計人数 38名

#### 2 2019 (令和元)年度 目的・目標

1. 専門性を高め、患者・家族の意思を尊重した退院 支援を実践する。

- 2. 安全·安楽な看護·介 護を提供できる。
- 全スタッフが病院経営 に参画する。
- WLBに沿った働きやすい職場環境の風土を構築していく。



#### 3目標に対する取り組み

#### 1. について

退院支援を患者・家族、多職種と進める中で倫理的なコミュニケーションの大切さを強く感じている。そのため、事例検討会などで倫理についてカンファレンスを行うなど倫理観を養う場を設けている。キャリアアップを目指し長期研修や看護研究をしているスタッフもおり、個人レベルではあるが、キャリア開発に向けた活動が増えてきている。

#### 2. について

部署で起こったインシデント報告書を申し送りの時間にタイムリーに伝える、インシデントファイルを作成する、など全スタッフが情報共有できるようにした。アクシデントがあったときは事例によってシェル分析し、対策を立案している。10月より感染対策を開始したこともあり患者・スタッフ共に院内発生はなかった。身体抑制はマニュアルに沿って解除に向けたカンファレンスを多職種で行い入院中に解除できている。自部署のBCPマニュアルは完成したが周知徹底には至っておらず次年度の課題としたい。

#### 3. について

部署目標や日々、施設要件の数値を掲示している

こともあり施設要件に対する意識は高く基準を維持できている。病床稼働率に関してはコンサルのアドバイスもあり、年度後半には稼働率が上昇してきている。しかしコロナウイルスの影響は大きく、今後は病院全体で稼働率のUPに向けた対策が必要と考える。

H U 統合に伴い連携の見直しを行うことで以前よりもスムーズに対診、転棟はできている。

#### 4. について

全スタッフの有給取得は5日以上できている。個々のWLBに沿った希望は勤務配慮願いを活用し実施できている。11月の分散教育で接遇チームにより接遇セルフチェックリストでの身だしなみの確認、用語集で丁寧語・謙譲語・尊敬語の確認、患者・家族へ医療用語を噛み砕いての説明などを事例や資料を用いて学習した。

#### 4次年度の課題

- 1. BCPマニュアルの周知徹底。
- 2. OPや特殊な検査の手順について自部署で活用できるシートを作成する。
- 3. 機能評価をレベルB以上で修了できる。

#### 新2病棟 2019(令和元)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	化学療法(ヘルパー含まず)	字原がん化学療法看護認定看 護師	71%	横山看護師	71%
5月				武田看護師	81%
6月	救急看護(ヘルパー含まず)	宇賀・武政看護師	88%	間城看護師	88%
7月	緩和倫理(ヘルパー含まず)	豊田看護部長	92%	久保(公)看護師	92%
8月	開通法について(ヘルパー含まず)	八木薬剤部係長	57%	小椋看護師(天候不良)	57%
9月	臨地実習指導(ヘルパー含まず)	藤本主任	80%	永森准看護師	80%
10月	感染対策(ヘルパー含まず)	土居感染管理認定看護師	88%	町田准看護師	88%
11月	接遇	接遇チーム	91%	久保(瞳)看護師	88%
12月	手話	森本(真)·小谷看護師	91%	北岡看護師	91%
1月	摂食嚥下について (他病棟スタッフ4名含む)	医療安全技術部大川ST	94%	西森看護師	92%
2月	地域連携	地域連携推進センター 井上MSW	83%	大原(基)看護師	72%
3月	認知症について	大原(基)看護師	67%	小谷看護師(コロナ)	60%

(文責:新2病棟師長 大原 敬子)



### 新 3 病棟

#### 1 概要

病棟形態:急性期一般病棟

病 床 数:60床

所属長名:伊賀原 由香

構成職員:

看護師 28名 准看護師 3名 ヘルパー 7名 医療クラーク 1名 合計人数 39名



#### 2 2019(令和元)年度 目的・目標

- 1. 患者、家族の想いを尊重しながら看護を提供する
- 2. スタッフ全員が病院経営に参加する
- 3. 働きやすい環境を整える

#### ③目標に対する取り組み

- 1. スタッフが、効果的かつ効率良く日々の業務を行 うことができるように、チーム編成を行い、患者 中心の看護を提供できるよう指導を行ったが、対 応する看護師に個人差があるため患者に不愉快な 思いをさせたところがあった。また、高齢患者の 入院が多く、その中でも、認知症患者の増加傾向 に相まって、ライン抜去のインシデントレポート の提出が前年度より多かった。しかし、転倒・転 落のインシデントは減少していた。これは、 日々、業務に携わる看護師のアセスメント能力向 上による早期対応の結果だと考える。
- 2. 昨年に引き続き、ホワイトボードに稼働率、必要 度の目標値および現状を明示し、医師、看護師の 意識化を図ったが、稼働率約76%、重症・看護必 要度23.3という結果であった。稼働率の減少に関 しては、新型コロナ感染の影響で入院や手術の制 限があったためと考えるが、重症・看護必要度に

関しては前年より上回っている。これは、医療度 の高い入院患者が多かったと言えるが、超過勤務 時間はこれに反して、前年比約45%で経過してい る。業務改善を行い、効果的に業務を行った結果 だと思われる。

3. スタッフ全員に公平な休暇取得ができたと思う。 また、異動スタッフは3名、退職は2名いたが、 以前に比べると離職者は減少し、看護師の定着化 が図られているのではないだろうか。

#### 4次年度の課題

次年度は、ハートセンターの設立、稼働が当病棟に とってハード面およびソフト面ともに大きなイベント となっている。ほとんどのスタッフが、初めて関わる 症例であり、管理としては、患者が安心して治療を受 けることはもとより、当院が標榜するすべての疾患に 対応できるスタッフ教育、ベッドコントロールなどが 課題となってくる。初めは、手探り状態であると思う が、病棟一丸となって、軌道に乗せることができれば と思う。しかし、質の高い看護を提供するにあたって は、科学的根拠に基づいた看護を提供する必要がある ために両主任をはじめ、スタッフ教育に重点を置くこ とが重要課題となってくる。

また、診療報酬改定以降、病院経営につながること ができるよう、DPC期限、係数アップ、重症・看護

#### 新 3 病棟 2019(令和元)年度 分散教育・事例検討計画

111 - 1131		3.173176361			
月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	接遇マナー	溝渕主任	82%	野瀬 大輔	82%
5月	看護必要度及び看護必要度に関わる加算 について	山本 美里/伊賀原	77%	小野 かおり	77%
6月	認知症ケア加算	坂本主任	93%	吉良川 佳子	93%
7月	急変対応	救急WG	93%	松井 梨絵	93%
8月	小児看護	小野 かおり	80%	今西 建太	80%
9月	医療安全 KYT	濱崎 真珠子	87%	長山 香奈	87%
10月	記録について(監査)	今西 建太	93%	小橋 奈々子	93%
11月	開通法	薬剤師	93%	山中 恵理	93%
12月	看護倫理	伊賀原	93%	中川 玲	93%
1月	感染 PPEについて	長山 香奈	83%	山岡薫	83%
2月	災害~何が起きても命を守る~	中沖 糸乃	82%	岩原 琢	82%
3月					

必要度などを考えながら、病棟運営を行っていくこと が重要課題であると考える。また、働き方改革関連法 に基づいて、スタッフの休暇取得、労働時間や超過勤 務時間など配慮した環境調整を行っていく。そして、

中途・新人看護師の離職防止に努めていく。

(文責:新3病棟師長 伊賀原 由香)

### 南1病棟

#### 1 概要

病棟形態:医療療養病棟

病 床 数:52床

所属長名: 髙塚 深雪

構成職員:看護師 12名

> 5名 准看護師 介護福祉十 8名 ヘルパー 2名 合計人数





族に患者の状況を電話で伝え、患者、家族の不安 の軽減に努めた。

- 2. 病棟再編を行うにあたり、医療区分のとれる患者 の病棟間移動として精神科患者を12名受け入れ、 MSWの協力のもと長期入院患者の退院調整を 行った。そして医療区分50%以上を達成できた。 年間病床稼働率は87%だった。
- 3. 個人の能力に応じた業務内容を行うことができる よう業務改善を行い、お互い協力して業務を遂行 できるようにした。年次休暇日数をできるだけ公 平に取れるよう勤務調整を行った。

#### 22019(令和元)年度 目的・目標

- 1. 安全で信頼できる看護を提供する
- 2. スタッフ全員が経営に参画する
- 3. 働きたい職場・やりがいが持てる職場の環境を整 える

#### 3目標に対する取り組み

1. 今年度は特にカンファレンスの定着を図り、看護 計画の実践・評価・修正により信頼される看護実 践を行うことに取り組んだ。患者、家族、医師、 リハビリ、MSWを交えたカンファレンスの調整 とその後の看護計画の修正をし、チームで統一し た看護の提供に努めた。また、院内の感染対策情 報をファイルにすることにより、スタッフに周知 し、アウトブレイクを防止できた。新型コロナウ イルス対策では面会制限により患者と会えない家

#### 4次年度の課題

医療区分を維持しながら病床稼働率を上げる。日々 の医療区分を明確にし、コスト漏れがないようにス タッフ間で声を掛け合う。また、新型コロナウイルス 対策について日々変化する情報をスタッフに周知し、 対応していく。

南 1 病棟 2019 (令和元) 年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	手指衛生の重要性と実践	髙塚 深雪師長	92%	岡添 咲桐介護福祉士	92%
5月	インシデント・アクシデントレポートの 記載方法	山岡 勇人看護師	88%	安井 和恵准看護師	88%
6月	防災マニュアルの確認とシェイクアウト	山中 佳史准看護師	88%	門脇 永治看護師	88%
7月	救急シミュレーション	小松 千温看護師 山岡 勇人看護師 小松 貴子介護福祉士	77%	   筒井 美和看護師 	77%
8月	点滴開通手技	田所 美和薬剤師	84%	小松 千温看護師	84%
9月	認知症について	川村 文人看護師	76%	川村 文人看護師	76%
10月	退院支援と訪問看護	井上 加奈子在宅看護専 門看護師	72%	小松 貴子介護福祉士	72%
11月	トランスファーの実際	大原 健市介護福祉士	92%	山口 愛子准看護師	92%
12月	接遇の基本スキル	中越 光江介護福祉士	84%	中平 真紀看護師	84%
1月	NSTについて	安井 和恵准看護師	88%	田中 さやか看護師	88%
2月	伝達講習	門脇 永治看護師 高松 裕子准看護師	92%	大野 好子看護師	92%
3月	評価・次年度の病棟体制	髙塚 深雪師長	80%	山岡 勇人看護師	80%

(文責:南1病棟師長 髙塚 深雪)



### 南 2 病棟

#### 1 概要

病棟形態: 医療療養型病棟 I

病 床 数:49床 所属長名:太田 節

構成職員:看護師 15名

> 准看護師 2名 介護福祉士 6名

ヘルパー 1名 合計人数 24名



#### 2 2019(令和元)年度 目的・目標

- 1. 患者・家族の意思を確認し、個別性を尊重した看 護・介護を提供する。
- 2. 安全で安楽かつ、安心できる看護・介護を提供す
- 3. 全職員が、病院経営に参画する意識を持つ。
- 4. 働きやすい職場環境をつくる。

### ③目標に対する取り組み

- 1. 医療療養型病棟では、「適切な意思決定の支援」が 重要である。そのため、患者・家族とコミュニ ケーションをとり、良い関係性を築くことが望ま れる。今期は昨年末より、インフルエンザや新型 コロナウイルス感染症予防のため、面会制限が長 期になり、患者家族と接することが少なくなって いた。そうしたなか、スタッフは面会方法の変化 や個々の患者さんの情報について節目ごとに、個 別の電話連絡を行うことで、その時々の不安や希 望などを聴取し、疎遠にならないよう、また不満 が強く出ないように努めていた。また、患者家族 の意思を確認した上で定期的なケースカンファレ ンスを行い、看護・介護について検討をしてきた。
- 2. 以前より職員各自が、患者の移動やケア時に緊張 感を持ち、行動や状態を観察、転倒転落アセスメ ント・計画書を状態変化時に行うことで危険行動 の予測が行われるよう指導している。しかし、今 期は内服薬の指示誤読や確認不足などによるイン シデントが目立った。特に投与する看護師の確認 作業が不十分なことで、マニュアル遵守の必要性 や責任性の指導が課題として明確となった。

感染予防対策では、令和元年12月よりインフルエ ンザの感染予防による面会制限が開始され、その 早い対応によってインフルエンザ罹患者は0であ り、昨年度の課題は達成された。しかし2月から 新型コロナウイルスが世界的に感染拡大しはじ め、3月2日より再び面会制限となった。病院側 の対策を受け、病棟ではPPEが不足する中、ス タッフが協力し合い感染症を出すことなく無事経 過している。今後は新型コロナウイルスの感染拡 大防止のための業務も課題となってくると思われ る。

- 3. 医療療養病棟 I の対象患者80%以上の維持と、病 床稼働率86%を目指し、職員に医療療養型 [ 病棟 の特性や稼働率の目標値維持の必要性を指導し、 コスト面での無駄遣いのないよう努めた。 令和2年3月には、北2病棟からの入院患者4名 の受け入れを行い、北2病棟のベッド25床を老朽 化したベッドと入れ替えることができた。しか し、病床稼働率は低迷し、稼働率達成は4月と3 月のみで、年度累計も81%であった。1年間の患 者移動は、入院13名、転入患者39名、死亡退院患 者39名、軽快退院患者7名、転院患者3名、転出 患者1名であった。通年同様、医療度の高い患者 が増え、コストが上がり医師との相談、連携も重 要である。特に医療区分の取り漏れがないように 病名、検査の依頼を忘れないように努めている。
- 4. 育児中の職員が多いため、急な勤務交代や長期の 病欠などが続き、お互いに協力し合う良好な関係 ができている。しかし、一方で1年間の退職者が 7名と多い。退職理由の多くは家庭の事情であっ たが、職員同士の接遇の悪さの問題もあり、継続 した指導と支援が必要である。

#### 4次年度の課題

- 1. 新型コロナウイルスや面会制限などで不安の高ま る患者・家族に対し、その都度の説明を行い、コ ミュニケーションを切らさないように努める。ま た、医師に協力を求め、入院・転入時や定期的な ACPの確認を行い、患者・家族に悔いを残さず 療養生活を送っていただけるようにしていきた ()
- 2. 感染面では、新型コロナウイルスをはじめとした 感染予防対策の継続が重要である。PPEが不足 していく中で、対策本部の運用基準などに従い、 正しい使用方法で患者・職員の安全を守る。また、 引き続きインフルエンザの予防にも努める。医療 安全面では、マニュアルに沿った確認作業の徹底

を行い、内服薬に関するインシデントの減少を目 指し課題とする。

- 3. 令和2年度より、病床稼働率の目標値が93.9% (46名)となる。夜勤看護加算も4月より再開す る。継続して職員への指導を行い協力して稼働率 達成を目指す。そのため、医療区分1の患者さん の退院支援を主としてベッドコントロールを行
- う。また、職員にも節電・節水はもちろん、原価 意識を持つことでムダを省くことを習慣づける。
- 4. 主任、グループリーダーと協力して職員の支援を 行い、接遇に注意した心地よい環境を作るために どうすれば良いかを話し合う。新採用職員や中途 採用職員には丁寧な指導や教育を心掛け、疎外感 を抱かせないよう努める。

#### 南 2 病棟 2019(令和元)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	オムツ交換の手技	濱田介護福祉士 川崎介護福祉士	84%	安岡看護師	84%
5月	インシデントレポートの書き方	中岡看護師	84%	中山看護師	84%
6月	急変時の対応	渡辺看護師	88%	坂上看護師	88%
7月	接遇	大田看護師 山﨑介護福祉士	92%	富田看護師	92%
8月	高カロリー輸液の開通方法	市吉薬剤師	76%	大田看護師	76%
9月	ポジショニング	富田看護師 北村介護福祉士	70%	竹内看護師	70%
10月	ACP (アドバンスケアプラン)	豊田看護部長	77%	上甲看護師	77%
11月	摂食嚥下	坂上看護師	76%	西森看護師	76%
12月	糖尿病について	山﨑主任 西森看護師	80%	中岡看護師	80%
1月	認知症ケア	式地介護福祉士 西森看護師	84%	渡辺看護師	84%
2月	WOC関連	長山 主任	80%	清岡看護師	80%
3月					

(文責:南2病棟師長 太田 節)



## 南 3 病棟

#### 1 概要

病棟形態:障害者施設等一般病棟

病 床 数:30床 所属長名:弘田美貴

構成職員:看護師 14名

> 准看護師 4名 ヘルパー 3名 合計人数 21名

#### 2 2019 (令和元)年度 目的・目標

- 1. 安全・安楽・安心できる看護・介護を提供する
- 2. 職員全員が病院経営に参画する
- 3. この病棟で良かったと言える職場環境を作る

#### |3|目標に対する取り組み

1. 感染リンクナースを中心にアルコールの使用増、 防護服の着脱の手順の徹底に取り組んだ。また チームの取り組みとして感染予防における適切な オムツ交換の手技の習得をした。インフルエンザ 予防対策時期はスタッフ自身の体調管理と、面会 制限に伴うご家族へのフォローにも力を注いだ。 ケアによるインシデント・アクシデントが連続し たため、手順の再確認や勉強会を行った。また寝



たきりで身体拘縮の強い患者さんに術衣の利用の 提案をし、患者の骨折の予防に取り組んだ。

- 2. 施設基準対象者と対象以外の患者のバランスが難 しく、年度の中盤に病床稼働率が80%台まで落ち 込んだ。病床管理室との連携により徐々に稼働率 は回復している。
  - 物品在庫管理は余剰在庫があった。週末を見込ん だ予測が難しく課題である。
- 3. 看護師3名ヘルパー1名の退職があったが個人的 事情による。入職した新人3名はプリセプターを 中心に全スタッフで育成に関わり順調に成長でき た。現在は夜勤も自立し活躍している。ハード面 での職場環境の改善は、物品置き場が少ないこと から余剰床頭台を譲り受けて棚として利用、ス

タッフの意見を抽出した工夫をしている。

#### 4次年度の課題

1. 感染情報を敏感にとらえ先手の予防行動がとれる ようにする。インシデント・アクシデントを共有 することで発生件数を減らす。

- 2. 病床稼働率93.3%以上目標。無駄のない物品管 理。病院の方向性を全員が理解することで経営に 参画する。
- 3. 職員同士の言動に注意し思いやりの気持ちを持

#### 南 3 病棟 2019(令和元)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	障害者施設等一般病棟について	弘田 美貴師長	67%	中原 光章看護師	67%
5月	看護実践と看護倫理	酒井 真紀子主任	83%	酒井 香織看護師	83%
6月	CPRシミュレーション研修	一圓 紋嘉看護師	70%	三橋 奈々看護師	70%
7月	認知症ケアに関して事例を通して	中原 光章看護師	74%	尾崎 太一看護師	74%
8月	看護サマリーの書き方	寺田 かおり看護師	95%	上村 有紗看護師	95%
9月	人工呼吸器の回路組み立て手順操作 方法	M   株式会社職員	89%	北岡 望美看護師	89%
10月	点滴バッグの適切な開通方法	薬剤部小松副部長	78%	山﨑 友里圭看護師	78%
11月	拘縮予防、改善のポジショニング	寺田 かおり看護師	78%	一圓 紋嘉看護師	78%
12月	アウトブレイクについて、感染予防 対策	尾崎 太一看護師	91%	益岡 都代子准看護師	91%
1月	接遇	三橋 奈々看護師	85%	山岡 美奈歩准看護師	85%
2月	ストーマ管理	山﨑 友里圭看護師	100%	宮崎 珠里看護師	100%
3月	シェル分析	三橋 奈々主任看護師	85%	橋本 華乃看護師	85%

(文責:南3病棟師長 弘田 美貴)

## 🖫 ポピー病棟(緩和ケア病棟)

#### 1 概要

病棟形態:緩和ケア病棟 7:1

病床数:12床 所属長名:片岡 健

構成職員:看護師 15名

> 准看護師 0名 ヘルパー 2名 合計人数 17名

#### 2 2019 (令和元)年度 目的・目標

- 1. 患者・家族の個別性を重視した看護・介護を提供 し満足していただけるケアを目指す。
  - ①患者・家族が安心して療養生活を送ることができ るよう、スタッフ全員で関わる。
  - ②院内外での勉強会に自主的に参加し、スタッフ全 員でスキルアップを図り実践に生かす。
  - ③業務の見直しを行い、インシデント・アクシデン トを減少させる。
- ④感染防止対策として標準予防策を徹底し、感染拡 大を未然に防ぐ。
- 2. スタッフレベルで経営参画する。
  - ①円滑なベッドコントロールを行う。
  - ②病床稼働率91.7%以上の維持を目指す。
  - ③他部門との連携を強化し、情報共有を行い、ス ムーズな入棟調整を行う。
- 3. 働きやすい職場を目指し職場環境を整える。

- ①課題など改善すべき点を抽出し職場環境改善をす
- ②ナースステーション・休憩室の環境整備を実施す
- ③有給休暇取得を促し、公平に有給休暇取得をす る。

#### 3目標に対する取り組み

- 1. 全インシデント報告をスタッフで共有し、有用な 件についてはシェル分析を実施し、業務改善を 行った。
- 2. 円滑なベッドコントロールを行い、年間平均病床 稼働率は94.51%であった。
- 3. 倉庫などの物品保管方法を再検討し、スペース確 保や物品を取り出しやすいよう改善を行った。

#### 4次年度の課題

 ELNEC-J研修が中止となったため、次年度 も継続していく。

#### ポピー病棟 2019(令和元)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	目標設定	中原 佐苗主任	46%		
5月	在宅での看取りについて	二ノ宮 抄恵子主任 宮﨑 智子看護師	75%	宮崎弥沙看護師	75%
6月	コミュニケーション、接遇	野本 孝一看護師	33%	尾﨑 加奈子看護師	33%
7月	AYA世代のがん看護	宮崎 弥沙看護師	71%	野本 孝一看護師	71%
8月	救急シミュレーション	河﨑 千代看護師	46%		
9月	薬剤の取り扱いについて	田所 美和薬剤師	42%	橋田 真由看護師	42%
10月	看護記録について	橋田 真由看護師	57%	河﨑 千代看護師	57%
11月	災害時の対応~大規模災害時における行動~	尾﨑 加奈子看護師	57%	山脇 めぐみ看護師	57%
12月	SHELL分析	山脇 めぐみ看護師	50%		
1月	認知症患者の対応	中原 佐苗主任	57%	中越 麻紀看護師	57%
2月	看護倫理について	片岡 健師長	42%	二ノ宮 抄恵子主任	42%
3月					

2. 高い稼働率を維持する。

(文責:ポピー病棟師長 片岡 健)



### 外 来

#### 1 概要

所属長名:曽我 貴美子 構成職員:看護師 23名

准看護師 7名診療助手 7名合計人数 34名

#### 2 2019 (令和元)年度 目的・目標

- 1. 専門的知識を高め、患者・家族に配慮した外来看護が実践できる。
  - ①院内外の研修に参加し、看護実践能力の向上に 努める。
  - ②患者・家族の立場を配慮した言葉遣いや、対応を する
- ③外来看護記録を定着させる
- 2. 安全・安心できる看護を提供する。
  - ①インシデント・アクシデントの振り返りを行い、 防止対策をたて前年度より減らす。
  - ②標準予防策を遵守し、アウトブレイクを防止する。
- ③発災に備えた対応準備を行う。
- 3. スタッフが組織の一員として経営に参画する。
- ①ムリ・ムダ・ムラを省き、全員でコスト意識をもつ。
- ②病院の窓口としての外来の位置づけができるよう に、接遇に心掛け、病院イメージUPに努める。
- ③HU再統合後の他科受診、転棟への流れがスムーズに行えるように連携・協力体制の意識をもつ。
- 4. 働きやすく、働き甲斐のある職場をつくる。
  - ①お互いが協力し、声を掛け合いやすい部署を目指す。



- ②年5日以上の有給休暇取得や、公平な休暇取得、 勤務体制の協力ができるように努める。
- ③科・部署、職種間を超えた協力体制ができるよう に努める。

#### 3目標に対する取り組み

- 1. 院内外の研修に参加し、看護実践能力の向上に努めた。院外研修は積極的に参加できている職員が多くみられた。患者・家族の立場を配慮した言葉遣いや、対応を心掛け職員の対応へのクレームはなかった。
- 2. インシデント・アクシデントの振り返りを行い、 防止対策をたて令和元年度は21件であった。有熱 者への対応、コロナ抗原検査の介助時など標準予 防策を遵守し、アウトブレイクを防止に努めた。
- 3. ムリ・ムダ・ムラを省き、全員でコスト意識をも つように働き掛けることでコスト削減傾向にあ る。院の窓口としての外来の位置づけができるよ

うに、接遇に心掛け、病院イメージUPに努めた。 HU再統合後の他科受診、転棟への流れがスムー

ズに行えるように連携・協力体 制を整えた。

4. お互いが協力し、声を掛け合 い、科・部署、職種間を超えた 協力体制ができるように努め た。協力体制が強化できたこと で外来全スタッフが年間5日以 上の有給休暇を取得することが できた。

# 4次年度の課題

- 1. 新型コロナ感染を含む感染症に 対しての徹底した感染対策がで きる。
- 2. 令和2年6月8日にハートセン ターが開設され安全・安心でき

る看護や検査・治療の補助ができるよう知識・技 術の向上を図る。

#### 外来 2019(令和元)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率
4月	プラリアについて	製薬会社	74%
5月	がん化学療法について	字原看護師	66%
6月	倫理について	片岡師長	66%
7月	輸液バックの会通報および当院採用輸 液の変更・注意点について	小松薬剤部室長	61%
8月	ポリペクについて	内視鏡	68%
9月	組織で生きる	片岡師長	48%
10月	小児科の点滴固定方法について	周治看護師	90%
11月	環境整備と感染対策	荻島看護師	69%
12月	ERワーキングシミュレーション	ERワーキング	50%
1月	認知症について	中山師長	63%
2月	ハートセンター稼働に向けて	香川主任	90%
3月	年間反省·課題	全員	59%

(文責:外来師長 曽我 貴美子)

### | 手術室・中央材料滅菌室

#### 1 概要

所属長名:門田 季香

構成職員:看護師 4名

准看護師 4名

ヘルパー 1名

合計人数 9名

#### 2 2019(令和元)年度 目的・目標

1. 安全で安心できる手術室看護が提供でき る。

インシデント・アクシデントの防止に努める。 患者の尊厳に配慮した声掛けができる。

2. 組織人として病院経営に参画する。 コスト意識を持ち、ムリ、ムダ、ムラを省く(も の、時間、人財)。

協力し合い、手術件数の維持、 向上に努める。

こころのセンターを含め、滅菌 物品の中央管理を推進する。

3. 働きやすい職場環境を整える。 お互いが声を掛け合い、チーム 力の向上に努める。 部署を超えた協力体制を継続す

る。

#### 3目標に対する取り組み

1. ヒヤリハット3件を含む計12件 のインシデント報告があった。 その都度スタッフ全員で事象を 検討し、対策を行うことで同様



のインシデント発生はなかった。手術を受ける患 者、家族の心理状態に配慮し、術前訪問時や術中 の声掛けは誠意を持って対応することを心掛け た。院内外の研修会に参加し、情報収集、技術の

手術室・中央材料滅菌室 2019(令和元)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率
4月	ガンマーネイルの勉強会	器械業者(HOYA)	100%
5月	救急シミュレーション 術後創部保護用ドレッシング材	早川看護師 Smith & Nephew	100% 100%
6月	ペースメーカー植え込み術 (カテーテル操作準備)	Smith & Nephew	100%
7月	手術中の体温管理	小笠原看護師	90%
8月	肩関節鏡手術	業者(四国医療器)	90%
9月	大災害に向けての三愛病院の取り組み	藤岡看護師	100%
10月			
11月	麻酔科看護	細木医師(麻酔科)	100%
12月	吐物処理演習	宮川看護師	80%
1月	伝達講習(神経麻酔用のシリンジの規 格変更)	門田師長	90%
2月			
3月			

向上に努めることができた。

2. 手術材料の使用期限、在庫量を確認するとともに使用状況を把握し、適宜、医師とも相談しながら物品を見直すなどコスト削減に努めた。4月からは、こころのセンターからの滅菌物品が中材での中央管理に移行されたが、事前に使用済みの不潔物品を運搬する回収コンテナの取り扱いや、システムの説明を行うことでスムーズな運営ができた。手術実績としては、前年度比約90%と減少した。

3. 部署内では、お互いの立場を尊重し、協力し合えることができた。手術業務のあるなしにかかわらず、南館への入浴介助の応援など協力することができた。

#### 4次年度の課題

- 1. 個々が自身のスキルアップに努め、手術を受ける 患者の安全に配慮した看護が提供できる。
- 2. 他部署、他部門と連携し手術件数アップを図る。

#### ■ 術式別件数表【2019(令和元)年度】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	1. 開腹手術												
	1)胃切・胃全摘												
	2)腸切	1		1	2	2				1		1	
	3) 胆嚢												
	4) その他	1				1	1						
外	2. ヘルニア	2	2	3	1	2		1	1	1	2	1	2
	3. 乳房	3	2	6	3	4	6	3	4	5	4	3	4
科	4. 腹腔鏡視下手術								1			1	1
	5. 虫垂炎			2					1		1	2	
	6. 甲状腺												1
	7. 肛門	1	2					1		1		1	
	8. 下肢静脈瘤							1					
	9. その他	1	4	2	2			1	1	4	1	1	
	1. 人工関節手術												
	1)股関節(THA)	2		1	1	1			2			1	
	2)膝関節(TKA・UKA)		4	4		2	1	2	2	2	1		
	3)人工骨頭挿入(BHP)	2			1	1		1				3	
	4) その他、肩関節等				1			1			2		1
	2. 鏡視下手術												
	1)肩		1	2			2					2	
市ケ	2)膝	2		1	1		1	1	1	1		1	
整	3) その他												
π<	3. 脊椎手術												
形	1)椎間板ヘルニア	1				1					1		
4.1	2) 椎弓切除・形成	1	3	2	2	1	1	1		1		1	1
外	3)固定術	1	1	2	2	4		2	1	1	1		1
	4) BKP·CBT	2	1	2		2	2	1	2	4	1	3	4
科	5) その他												
	4. 関節手術	2	3						1		1		3
	5. 骨接合術	1	4	3	3	2	6	5	3	5	3	2	4
	6. 内反足手術							1			1		
	7. 腱延長術			1									
	8. 靭帯・腱・アキレス腱手術	1		1				2				1	
	9. 抜釘・異物除去		1			1	2	1		3	1	4	1
	10. その他	7	2	5	12	3	4	6	7	7	7	3	1
	皮膚・形成外科								2	1	1		
	硬膜外麻酔チューブ挿入									1	1		
内	ペースメーカー植込み術		2					1					1
内科	ペースメーカー交換				1								1
	合計	31	32	38	32	27	26	32	29	38	29	31	26

注)1麻酔で2カ所の手術を行うこともあり、手術患者数と術式別件数の数値は合致しないことがある。

(文責:手術室・中央材料滅菌室師長 門田 季香)

## **黨** 薬 剤 部

#### 1 概要

所属長名:薬剤部長 田中 照夫

副部長 小松 めぐみ

構成職員:薬剤師 11名

事務員 3名 合計人数 14名

### ②活動内容・目標に対する達成状況

1. 新・細木病院の円滑な運営開始と 統合効果の発揮

こころのセンターの薬剤関連業務について、採用薬品、処方入力、調剤方法、病棟配置薬などに関して、医師および看護師と協議を重ね、円滑に運営を開始することができた。今後は夜間用配置薬の見直し、医薬品に関する事故防止などに取り組んでいく所存である。

#### 2. 経営基盤の安定

後発医薬品使用体制加算はHU統合により加算1 (後発医薬品使用割合85%以上)から加算2(同 使用割合80%以上)に減算となったが、精神科領 域で使用頻度の高い先発医薬品を後発医薬品に変 更することで、10月から加算1を算定することが できるようになった。院外処方箋における一般名 処方率は対象薬剤を拡大する取り組みを行い、 78.1% (平成30年度72.9%) にアップし、収益が 向上した。薬剤総合調整加算の算定件数は年間11 件と少なく、今後の課題である。薬剤管理指導件 数は2,551件(うち、算定件数は1,810件)であり、 年間目標の達成率は90%であった。これは、退職 による人員減少と新型コロナの影響により服薬指 導を自粛したためである。薬剤業務のチェンジ・ チャレンジとしては、注射処方箋への臨床検査値 印字、内服処方箋への返品理由欄の追加、注射薬 施用単位毎セット方法の改善、高知県薬薬連携 シートの導入、未承認・適応外使用医薬品使用手 順の作成などを行った。

働きやすく、働き甲斐のある職場づくり
 11月から薬剤部として独立した組織になり、職責の自覚とモチベーションの向上につながった。県



内の病院薬剤師不足は深刻な状況であり、リクルート活動の一環として、市内5病院と合同して薬学生への業務説明会を開催した。また、薬科大学へのパンフレット送付、奨学金返還補助制度の導入などを行った。事務員を1名から3名に増員し、薬剤師が薬剤師業務に専念できる環境づくりを行った。日病薬病院薬学認定薬剤師、骨粗鬆症マネージャーの資格を各1名が取得した。また、学会発表を3回行い、職員の資質向上と業務改善につながった。

#### 4. 非常時の対応

薬剤部のBCPは完成したが、職員全員がBCPに従った行動ができるまでには至っておらず、今後、訓練などを通して周知していく必要がある。安全管理では、医薬品インシデントを減少させるために、1種2錠以上の一包化調剤の取り組みを行った。感染対策では、外用薬袋の導入、抗菌薬適正使用チームでの活動を通じて医師への処方変更提案などを積極的に行った。

#### 3 今後の課題

- 1. ハートセンターの安定稼働を支援するため、薬剤部の体制整備や薬剤師の資質向上を目指す。
- 2. 薬剤師の確保と「ムダ、ムリ、ムラ」をなくする 取り組みを行い、業務の効率化を目指す。
- 3. チーム医療においては「相手軸」で考え行動し、 信頼される薬剤部を目指す。

(文責:薬剤部副部長 小松 めぐみ)

# 宣 医療技術部

### 1 概要

医療技術部長:田中 照夫

医療技術部は、「放射線室」「臨床検査室」「栄養管理室」「こころのセンター栄養管理室」「リハビリテーション課」「精神科作業療法室」「臨床心理室」「臨床工学室」「歯科衛生室」の9部署から構成される。

# 2活動内容・目標に対する達成状況

医療技術部では、毎月、薬剤部との合同部会(部門長と所属長が出席)を開催し、病院の方針や取り組みなどの情報共有を行っている。6月には所属長が各部署の年度目標と取り組みを発表しあうプレゼンコンテストを開催し、部署目標の共有とプレゼン力強化の取り組みを行った。8月には医療技術部独自で職員満足度調査(25項目)を行い、昨年度および他部署の満足度と比較することで、自部署の課題抽出と職場環境改善の参考とした。

1. 新・細木病院の円滑な運営開始と統合効果の発揮

HU再統合により、臨床検査室と臨床心理室は一つの部署に統合した。栄養管理室は厨房が分かれることから、二つの部署(栄養管理室、こころのセンター栄養管理室)での運営となったが、電子カルテ運用や給食システムは統一した。また、両部署の職員を対象に全体会を開催し、目標と取り組みの共有を図るともに人事交流も始めた。細木ユニティ病院の作業療法士は配属部署により医療技術部と看護部に分かれて所属していたが、同一職種であることから、全員を精神科作業療法室の所属とした。新たに歯科衛生室が医療技術部の所属となった。

2. 経営基盤の安定 放射線フィルムの削減(放射線室)、FMS方式 の令和2年導入決定(臨床検査室)、栄養指導件



医療技術部長田中 照夫

数の増加(栄養管理室)、リハビリ実績の年間目標達成(リハ課)、AED・輸液ポンプの更新(臨床工学室)などで成果をあげた。

- 3. 働きやすく、働き甲斐のある職場づくり 有休休暇5日以上の取得(全部署)、生理検査・ 健診業務の人材育成(臨床検査室)、職員の異動 と適正配置(栄養管理室)、主任職の増員と活性 化(リハ課)、認定資格取得者の増(リハ課)、 職員満足度の向上(全部署)などで成果をあげ た。
- 4. 非常時の対応力強化 非常時アクションカードの作成(全部署)、BL S研修への積極的な参加(リハビリテーション 課)などで成果をあげた。

# ③今後の課題

- 1. ハートセンターの円滑な立ち上げに積極的に関わり、専門職としての役割と責任を果たす。
- 2. 「チェンジ·チャレンジ」精神を持ち続け、業務の 見直しと新規業務に取り組む。
- 3. 働きやすく働き甲斐のある職場づくりと職員満足度向上に努める。
- 4. BCPの浸透と新型コロナウイルス感染症への適切な対応に取り組む。

(文責:医療技術部長 田中 照夫)

# 放射線室

#### 1 概要

所属長名:小松 剛

構成職員:診療放射線技師 8名 合計人数 8名

# ②活動内容・目標に対する達成状況

1. HU再統合後の運用

細木ユニティ病院との再統合により、X線撮影件数は増加した。こころのセンターでは、検査の依頼方法やPACSなどこれまでには使ったことのないシステムに慣れないスタッフも多く、その都



度、丁寧な説明をすることで円滑の運用につながった。また、細木病院の画像サーバーと接続したことにより、X線フィルムやCDRのコスト削減を図ることができた。

#### 2. チーム医療の推進

放射線業務に関わる看護師の交代に伴い、後任の 看護師が対応できるように透視検査ならびに造影 検査の対応マニュアルを作成した。技師による積 極的な援助など協力体制を整えた結果、順調にそ れらの検査を進めることができた。

3. ハートセンターにおけるチーム連携 ハートセンター立ち上げについて、新たに導入する医療機器やそれらに接続する既存の画像機器との連携システムの構築ならびに検査依頼に関するシステムづくりに取り組んだ。今後はそれらの調整をはかり、安定した運用をめざして協力体制をつくりあげていく必要がある。 4. 非常時の対応の具体化

BCP策定委員会も無事に終了となり、これからは実際の訓練で生かしていけるように対応していく。

# 3 今後の課題

- 1. CT、MRI、透視装置といった高額機器の更新が控えており、設備投資に最適な時期や方法が提案できるようメーカーとの交渉をふくめ情報収集を行っていく。
- 2. ハートセンターでの心力テ検査が始まるので、スタッフの連携を強化する必要がある。また、業務の拡大に対応できる人員配置と検査の段取りなどを検討するとともに、職員満足度の低下につながらない環境づくりも重要と考えている。

(文責:放射線室長 小松 剛)



# 臨床検査室

### 1 概要

所属長名:楠瀬 恭子

構成職員:臨床検査技師 16名

合計人数 16名

# 2活動内容・目標に対する達成状況

1. 検査部門システムと検査機器の更新整備 呼気中ピロリ検査装置POC-ONEを新規導入 し、平成31年4月17日から尿素呼気試験を院内で 実施することとした。院内検体検査をFMS方式 に変更することを検討し、令和2年度から導入す ることを決めた。FMS方式は職員と検査機器は 現状のままで、検体検査の試薬および消耗品の購 入と検査部門システムの更新を業者に委託する方 式であり、変動費(検体検査件数×単価と容器代) と固定費(検査システム賃借料)を支払うことと なる。FMS方式の導入は検査部門システムの費 用が分割されるなど、経営的なメリットは大きい と考える。検査部門システムの更新時期が令和2 年3月となり、新型コロナウイルス感染症の影響 を受けたが、職員一丸となって適切な対応を行 い、診療に影響を与えずにシステムを導入するこ

2. 検査の品質と技術の向上

とができた。

外部精度管理として、日本臨床検査技師会と日本 医師会と高知県精度管理調査およびメーカーの精 度管理調査に参加した。日本医師会精度管理調査 の参加項目修正点は99.8点であり、その他の精度 管理についても問題はなかった。専門分野の外部 研修会は、延べ42の研修会に145人の職員が参加 し、知識・技術の向上に努めた。研修会参加回数



は前年度より13%増加した。

3. 人材育成の推進

HU再統合で臨床検査室はひとつになり職員数は14名から16名となった。再統合後、検体検査はすべて本館臨床検査室で行い、こころのセンター患者の心電図と脳波検査は北館の機器を使用し北館に出向いて実施した。職員は互いに切磋琢磨し、新・細木病院の業務が適正に実施できるように努めた。超音波以外の生理検査と健診業務の新規担当者を育成し、生理検査の充実を図ることができた。

4. 職員満足度向上

職員の勤務状態を適切に把握し効率的な人材配置を行い、ゆとりある職場環境を目指したが、業務に追われ、有給休暇取得の達成度は目標を下回り、職員満足度を向上することができなかった。

# 3 今後の課題

1. 院内検査件数は、毎年増加する傾向にあり、FM S方式を導入してもコスト面を考慮して実務を効 率的に実施するために、業務の見直しは重要と考 える。

また、循環器関連検査の人材育成とスキルアップ は積極的に取り組む必要がある。

2. 腹部体表超音波装置は、機種選定し稟議書を提出 したが導入できなかったので、さらに検討を重ね 更新したい。

(文責:臨床検査室長 楠瀬 恭子)

# | 栄養管理室

# 1 概要

所属長名:橋本 由佳

構成職員:管理栄養士 7名

> 栄養士 9名 調理師 4名 調理員 13名 合計人数 33名



# 2活動内容・目標に対する達成状況 [2019年度目標]

- 1. 新・細木病院の円滑運営と統合効果の発揮
- 2. 経営基盤の安定
- 3. 働きやすく、働き甲斐のある職場づくり
- 4. 非常時の対応力強化

# [達成度]

- 1. こころのセンター栄養管理室に対して電子カル テ運用や給食システム活用に向けた支援を行う とともに、互いの栄養管理や給食管理方法への 理解を深めるために定期会議を開催して情報共 有を行った。また、新館、南館、北館の全職員 を対象とする全体会を開催し、統合効果発揮に 向けて意識統一を図った。
- 2. 昨年度は給食運営の安定化が最大の目標であっ たが、今年度は栄養管理と給食管理の両立を目 指して活動した。その結果、入院栄養食事指導 (前年度比132%)外来栄養食事指導(前年度比 107%)ともに加算指導の増収を達成した。患者 さんや医師に信頼される栄養指導を目指すこと により管理栄養士のスキルは向上していると考 える。給食業務はアッセンブリーシステムを導 入して2年が経過した。委託時に比べて経費削 減は堅持しているものの食事満足度は5.5ポイ ント低下しており、課題を残す結果となった。
- 3. 食事満足度アップにつながる活動として、盛付 指導と彩・香り・食感に関する職員からのアイデ

ア募集、わかりやすい献立指示、行事食提供後 のミーティングを実施した。これらにより、そ れぞれの職種が厨房内での役割を担えるように なっている。結果として残業時間の短縮につな げることができた。

4. 災害対策担当が中心となり、新しい備蓄食材の 整備とアクションカードの作成を開始した。 クックサーブの拡大を視野に入れたローリング ストックの検討も必要と考える。 今年度は、「食と栄養で患者さんのこころに栄 養を届ける」というビジョンの下で栄養管理部

門と給食管理部門の職員が一丸となって活動す

# 3 今後の課題

ることができた。

- 1. 栄養管理室に所属する多くの職種をまとめるため には、個々のスキルにあわせた目標設定が必要で あり、相応の支援や指導が大事と考える。普段よ り職員に気を配り、声掛けを行うことで、一体感 のある職場づくりをしていきたい。
- 2. 治療や療養のための食事が患者さんの楽しみとな るような食事づくりを目指して、チェンジ・チャ レンジを続けていきたい。

(文責:栄養管理室長 橋本 由佳)

# リハビリテーション課

1 概要

所属長名:藤本 弘昭

構成職員:理学療法士 50名

作業療法士 27名

言語聴覚十 18名 リハ助手 7名 合計人数 102名

## 2活動内容・目標に対する達成状況

1. 心大血管疾患リハビリテーション料施設 基準準備

心大血管疾患リハビリテーション施設基準取得は、令和元年度の最重要課題として掲げ、東京都八王子市『みなみ野循環器リハビリテーションクリニック』、香川県坂出市『永井循環器内科医院』の2施設への見学を実施し、職員へ循環器疾患リハビリに対して意識を高める活動を行った。

2. 全職員有給休暇5日取得

働き方改革関連法案の成立を受けて、4月から年 5日間の有給休暇取得が義務化されたことを受け、年間の予定を見直し全職員が有給休暇5日間 以上取得できるように取り組んだ。結果、期間中 に産休に入った職員や病気による欠勤者を除いて 全員取得することができた。

3. 専門職として知識向上

令和元年度は5名の認定理学療法士、3名の呼吸療法認定士のほか、サルコペニア・フレイル指導士、認知症ケア専門士などを取得できた。このように様々な分野の知識向上に取り組み、それぞれの分野で結果を出している。

4. 収益部門として病院貢献

前年度達成できなかった年間 6 億円の実績を今年 度も目標に掲げ取り組んだ。年間実績は 6 億3,000 万円近くの結果が出せた(目標達成率105%)。

5. 職員のメンタルヘルス

年度の初めに複数名の長期休職職員が出ている。 離職につながってはいないが、多くのストレスを 抱えながら働く職員たちを改めて感じる1年で あった。



# ③今後の課題

令和元年度は元号も変わり、リハビリテーション課 としても大きな変革の年になった。そして、かねてか ら構想していた病棟毎に配置している職員の管理・運 営に対し着手した年であった。

令和元年12月に新たに4名の病棟担当主任を任命していただき、担当病床数や配置職員数に対して適正な主任職の配置ができたのではないかと考えている。理学療法部門では1年半以上空席になっている係長職も、同じく令和元年12月に任命していただいたことで職場自体が引き締まったように感じた。

一頃と比較して職場の活気も出てきていると実感し、職員の笑顔が多く見られるようになっているのではないかと、個人見解ではあるが思っている。年度末には新型コロナの関連で思うように動けなくなり、ストレスを抱える職員も今後出てくると思われるので、職員一人ひとりを気にかけていきたいと考えている。令和元年度は令和2年度に向けての準備の1年であったと振り返ると判断できる。

来年度は重要な取り組みが多く、リハビリテーション課にとって今後の将来を左右する勝負の年になると考えている。

(文責:リハビリテーション課長 藤本 弘昭)

# □ リハビリテーション課 理学療法室

## 1 概要

所属長名:

リハビリテーション課長 藤本 弘昭

管理者名:

係長 井上 富子

構成職員:

理学療法士(PT)50名



# ②活動内容・目標に対する達 成状況

令和元年の目標として①自己研鑽を推奨し、個々の 知識・技術の幅を広げ、質の向上を図る。②リスク管 理に対しての知識・技術を高め、安心・安全な理学療 法を提供する。③災害対応を心掛け、非常時の対応力 を高める。④働きやすく、働き甲斐のある職場づくり に努める。以上を目標として活動を行った。

①理学療法士の質の確保に関しては、キャリアラ

ダーを活用しており、院内・院外の研修会・学会へ参加が動機づけされ、積極的に参加していた。 子育てなどで参加が難しい職員は、文献抄読などを実施した。年度末は、新型コロナ対策で、研修会などへの参加が難しく、予定をしていた研修会への参加ができなかったスタッフが多くいた。

- ②リスク管理については、当院主催のBLS研修会への参加や当課で初の試みとして、看護部・医師の協力のもとCPR研修会を実施した。実際の場面を想定しての研修は緊張感があり、いざという時に慌てないように普段からの訓練が大切だということを実感した良い研修であった。
- ③災害対応については、BCP委員を中心に、リハ 課内ミーティングなどで、啓発活動を行ってきた。
- ④働きやすく、働き甲斐のある職場づくりとして は、前年度から継続して、残務の削減、有給休暇 取得の向上を掲げるとともに、再度仕事への取り

組み方や意識を話し合い、各病棟単位で実施し、 効率的に動くことを意識した。結果として、働き 方改革関連法成立により義務化された年5日の年 次有給休暇の取得は平均6.53日/人であった。

# 3 今後の課題

- 1. 令和2年6月にほそぎハートセンター開設予定。 心大血管疾患リハビリテーション開始に伴い、よ リー層リスク管理に対しての知識・技術の向上に 一人ひとりが取り組む必要がある。
- 2. 令和2年度は、「年5日の年次有給休暇の確実な取得」以上の有休休暇取得と、働きやすい職場づくりを目指し、実績を向上させながらの計画的な休暇取得を進めていく必要がある。

(文責:リハビリテーション課理学療法室係長 井上 富子)

# □ リハビリテーション課 作業療法室

## 1 概要

所属長名:

リハビリテーション課長

藤本 弘昭

管理者名:係長 横山 美咲

構成職員:作業療法士(OT)27名

#### 2活動内容・目標に対する達成状況

1. 作業療法室(OT室)運営の健全 化

今年度は新規採用者3名、産休入り2名、育休明け3名、退職者2名あり、実働人員の変動が多い1年であった。12月からは在宅分野への増員が実現し、訪問リハ1名、デイケア1名の体制をとることができた。退院後の在宅生活をサポートし、必要に応じてOT介入が行えるようになったことは大きな変化である。また、調理訓練や門松づくりなど活動内容の見直しを行い、目的意識を持つこと、何につなげたいかをスタッフ同士で共有し患者に関わることができた。

2. 働きやすく働き甲斐のある職場環境・関係づくりに努める

下期より各病棟ユニットに主任が配置され、OTの役職者(主任)が2名増えたことにより、病棟間連携やOT室運営に関する連絡・相談、職員への声掛けが増加し、さまざまな問題に素早く対応することができるようになった。

3. 病院経営への貢献 実績は、月一人当たり70万の売り上げ目標に対



し、達成率は95.5%であった。わずかにクリアできない結果となったが、実習生の受け入れの再開やそれに伴うマニュアルの作成、学会発表や症例発表を6題行うことができた他、外部活動への実績も増えており、地域貢献や後輩育成などにも力を注ぐことができた。

## 3今後の課題

適切な時期に適切なタイミングで適切な量のOT提供が行えるよう、引き続き質の向上を図る必要がある。また、実績向上へつなげる努力と、今後の病棟再編や心大血管リハへの対応を考慮した働き、各病棟の特色に合わせた役割を発揮できるよう働きかけていきたいと考える。これからも、"この作業療法室でよかった"と思ってもらえる作業療法室を目指していきたい。

(文責:リハビリテーション課作業療法室係長 横山 美咲)

# □ リハビリテーション課 言語療法室

# 1 概要

所属長名:

リハビリテーション課長

藤本 弘昭

管理者名:係長 楠瀬 さやか 構成職員:言語聴覚士(ST)18名

## 2活動内容・目標に対する達成状況

- 1. 専門分野の活動
  - ①言語聴覚療法の充実

回復期リハ病棟担当者を 4 名から 5 名に増員し、一人の患者にかけられる時間を増やすことで量の拡大と質の向上を目指した。患者 1 名あたりに介入できる時間数を確保することができ、実績(量)の拡大につながっていると考える。また、外来担当者も増員し、ST 1 名あたりの担当患者数を減らし、患者 1 名あたりの訓練頻度を増やし、訓練効果向上を狙えるようにした。下半期は新型コロナウイルスの影響を直に受け、業務のやりくりに苦労した。

②関連職種との連携

新館・南館ともに耳鼻咽喉科医の協力の下で嚥下回診を継続し、患者の見落とし予防に努めた。 新館は週1回、南館は月2回、対象者がいない場合を除き抜かりなく実施できた。回診からST処方につながったケースも数名みられた。

2. 北館業務

HU再統合後の動きを把握し、理学療法士・作業療法士・その他関連職種と協働して業務を進めるよう努めた。係長と主任が介入し、主に摂食・嚥下障害患者の評価・訓練・助言・指導に携わることができた。

- 3. 教育活動·学際的活動
  - ①院外研修会、全国レベル学会への参加 県内外の院外研修への参加を促し、個々のスキ



ルアップを目指した。第20回日本言語聴覚学会 (大分県)への自主参加6名を含め年間で延べ140 回以上の院外研修会に参加することができた。

- ②職能団体の生涯学習プログラム履修の促し 基礎プログラムの履修をリハ課教育委員から呼 び掛けたが、全員の修了には至っておらず、引き 続き促しが必要である。
- 4. 働きやすく、働き甲斐のある職場づくり、相談し やすい風土づくり

臨床業務、臨床以外の業務それぞれについて気軽に声を掛け合えるような雰囲気づくりをするため、 職員からの相談にはできる限り丁寧に迅速に対応するよう心掛けた。室全体の雰囲気が明るくなり活気が出て、前向きな意見が多く聞かれるようになった。

# ③今後の課題

医師や看護師、他のリハ職種などとの連携をさらに 強化し、ST一人ひとりが自己研鑽に励むことでより 充実した訓練を提供できるよう努力する。病院機能評 価受審や病棟再編などの院内の動きに対応できるよう に情報収集、対策、検討を行っていく。

(文責:リハビリテーション課言語療法室係長 楠瀬 さやか)

# 宮 臨床

# 臨床工学室

## |1||概要

所属長名:医療技術部長 田中 照夫

構成職員:臨床工学技士 1名

合計人数 1名

#### 2活動内容・目標に対する達成状況

1. 臨床工学室では院内で使用する医療機器(以下、機器)の保守管理を主に中央管理方式で行っている。部署管理の機器に関しては故障時や異常時に



令和2年6月より、2名体制となる

対応し、一部の管理クラスの高い機器に関しては 定期的に訪問点検を行った。また、手術室の術中 使用予定の機器に関しては使用前に毎回作動確認 を行った。

- 2. 新採用職員に対して、本院にある機器を安全に使用できるように基本的な操作方法やチェック方法などを研修会にて説明した。また、新機種の導入や機種更新などを行った場合には、看護師などに対して機器の操作説明を行った。
- 3. ハートセンターの稼働に向けて、機器の必要台数 などを検討し、輸液ポンプを新たに5台を購入し た。また、耐用年数を超えた輸液ポンプを更新 し、関係職員に対する研修を行った。
- 4. HU再統合と医療安全の観点から、AEDを4台 から9台に増台した。AED設置場所一覧を作成

し、各部署に配布するとともに関係職員に対する 研修を行った。

# ③今後の課題

人工呼吸器の保守契約が満了となっており、更新か レンタル保有かを検討する必要がある。呼吸器内科医 と相談し、機種選定や運用方法などを検討していく。

来年度からのハートセンター稼働に伴い、臨床工学 技士が1名増員されることから、臨床工学室として新 たな業務展開を考えていく。また、今後も機器の使用 状況の把握と適正配置および適切な保守管理に行って いく考えである。

(文責:臨床工学室担当 森 勇樹)

# 事務部







宮地 耕一郎

桐生 剛

こころのセンター副部長 中嶋 光宏

令和元年度の事務部門は、年度当初に以下の目標と 取り組みを掲げ、業務遂行に務めました。

# 1事務部門の目標

- ⇒ "強い部門" "頼られる部門" "情報発信する部門" を目指す。
  - 1) 当事者意識を持って"チェンジ・チャレンジ" する。
  - 2) 「病院の目標と取り組み」の達成のため、事務・独 立部門もリーダー役として積極的に取り組む。
  - 3) 日頃の取り組みを成果につなげ、それを、院内 外に情報発信する機会を増やす。
  - 4) 働きやすく、働き甲斐のある職場環境を実現す

## 2事務部門の取り組み

- 1)経営基盤の安定に寄与する。
  - ①円滑な再統合をできるだけ早く、成し遂げる。
- ②年間病床稼働率85.2%(1日あたり入院患者425 人)を必達目標として取り組む。

⇒細木:266人(84.4%)、こころ:159人(86.4%)

- ③「ほそぎ連携センター」を軌道に乗せるとともに、 連携WGでの検討成果を発揮する。
- ④再統合による診療報酬(施設基準や各種加算)の 最大化を図る。
- ⑤療養3病棟の最適な運用方法を確立する。
- ⑥再統合による重複業務の整理と全ての費目につい て、コスト削減を進める。
- ⑦各種管理データの一元化と整理(廃止できるもの は、廃止)を進める。
- ⑧さらなる院内連携(一般科と精神科、医科と歯科) に取り組む。
- ⑨病棟再編計画を立案し、意思決定する。
- 2) 働きやすく、働き甲斐のある職場づくりに取り組
  - ①接遇レベルの向上に、継続して取り組む。
  - ②必要な資格取得や研修機会の提供など、スキルリ Pのための活動を引き続き行う。
  - ③働き方関連法案への対応(残業30時間以内/月と 有給取得の促進)に取り組む。
  - ④「学術集会in細木」や学会など、院内外での発 表機会を増やす。

- ⑤施設および人材の相互・有効利用を進める。
- 3)安全な医療・看護・介護の提供に取り組む。
- ①策定したBCP(事業計画)を活用し、非常時の 対応力強化を進める。
- ②引き続き、医療事故(アクシデント)の減少に取
- ③引き続き、院内アウトブレイクの防止に積極的に 取り組む。

令和元年度の目標に沿った取り組みの成果を、ここ に報告します。

#### 1. HU再統合の円滑な実施

本年度の最大の経営課題は、HU再統合の円滑な 実現です。事務部門を半年前から先行統合するとと もに、企画課を新設し事務局機能を強化したこと が、非常に効果的だったと考えています。また、日本 事務器の協力の基、細木病院の電子カルテを共有す る形で、電子カルテの統合を図ることができました。

#### 2. 経営基盤の強化

本年9月から、リンクアップラボの酒井真由美代 表とコンサルタント契約を締結し、経営基盤強化の 具体的な取り組みを開始しました。ここ数年の「Ⅰ MAJIN活動」で中期的な方針は明確になってい ますので、それに基づいた具体的方策の実施とその 成果を図るためです。4つの経営課題「稼働率アッ プー「入院単価アップ」「在宅サービスの集患」「病棟 再編」をテーマとして明確化し、月1回開催する「酒 井コンサル・ミーティング」でPDCAサイクルを 回す取り組みを続けています。

年度末にかけて新型コロナウイルスの感染拡大で 経営的にも大きなダメージを受けましたが、新年度 に向けて、徐々にその成果が果実となって表れてき ています。

## 3. 病棟再編の実施

「IMAJIN活動」で定めた病棟再編計画を、酒 井コンサルタントの助言も受けながら一部前倒しで 進めています。再統合による療養3病棟体制が大き な経営課題でしたので、本年度3月末で北2病棟 (36床)を廃止し、収益改善につなげることとして います。また、病棟再編の第1ステップとして、北 2病棟の廃止、南1病棟の医療療養1化、北5病棟 の地域移行機能強化病棟化を最終決定し、その実現 に向けて、着実に取り組んでいます。

## 4. 「ほそぎハートセンター」の立ち上げ準備

来春の「ほそぎハートセンター」の立ち上げに向

けて「ハートセンター準備委員会」を組織し、準備 を本格化しました。収支5カ年計画の策定を行い、 取引銀行への説明を行うとともに、設計業者(上田 設計事務所)と施工業者(宮崎技建)を決定し、新 築工事に着手しています。並行して、循環器内科医 や必要スタッフの確保、および、心臓カテーテル装置 一式の調達など、コスト管理を徹底しながら円滑な 立ち上げができるよう万全な準備を進めています。

(文責:事務部長 宮地 耕一郎)



# 圖総務課

## 1 概要

所属長名: 文野 正史

構成職員:事務 6名

> 2名 秘書 交換室 5名

喫茶室 2名

合計人数 15名

# 2活動内容・目標に対する達成状況

●新給与システムの導入、稼働が当年度の 大きな目標であり、事務作業の効率化の きっかけづくりの礎として位置付けた。

現在まで20年を超える長い間、同じ形態で給与、ま た職員管理を行ってきたが、病院の規模、職員数の 増大、変化するさまざまな態様に応えることが困難 になる、作業効率が悪く時間の無駄が生じるなど、 問題が以前より表出してきた。

予め、業者、システムの選定と決定を8月まで、シ ステムの準備、データの整備を12月まで、本稼働開 始を令和2年1月からとスケジュールを組み、これ に沿って稼働に向けて総務課員が協力して進めてき

基本データの登録・確認作業では、若干遅れが見ら れ令和2年1月の本格稼働では、旧システムと併用 して最終確認を行った。

また、給料計算をシステム化するに当たり、さまざ まな計算式を紐解き、新システムへの載せ替えにか なりの時間が掛かり、膨大な労力を掛けることにな り、総務課員には大変感謝している。

大体スケジュール通りの稼働となったことは、皆の 協力なしではできなかったので、ある程度目標を達 成したといえる。

また安定稼働することで、事務処理の省力化、無駄



の削減が実感できるレベルにまでなっているので、 大変効果があったと考える。

## 3|今後の課題

●今後は他部署とのデータ連携を進めていくうえで、 システム化、合理化を図っていくことに他部署で の、理解と協力を得る必要があり、継続して進めて いきたい。

現状システム化を進めることで、旧態依然としたや り方を大胆に変えて、導入時には費用と手間は掛か るが、十分すぎる恩恵を受けることができるので、 早く取り掛かる必要がある。

●総務課員としての持っているべき知識の差が、個々 人にありすぎるので、最低限知っておくべきこと、 身に付けておくべきことを各人が認識、意識して、 日々研鑽に努めることが必要である。業務の標準 化、平準化が今の総務課には喫緊の課題であり、そ のためには、マニュアルも整備して、誰でも対応が とれる体制が望まれる。

(文責:総務課長 文野 正史)

# 医 事 課

# 1 概要

所属長名:古谷 英理

構成職員:27名

合計人数 27名

# |2|活動内容・目標に対する達成状況

- 1. 接遇能力向上を目指し、実践力を身につける
- 2. 超勤削減と技術力の強化
- 3. 連携
- 4. マニュアルの修正

『環境整理』『超勤削減』『スキル向上』の3つのワー

キンググループでの取り組みに て目標達成を目指した。

接遇における問題意識を持った対応を心掛け、特に「表情」・「言葉遣い」に注意し患者に寄り添い安心感を与える接遇を目指し取り組み、満足度向上に努めることができた。

超勤削減においては、ワーキングで課題と問題点を整理し対

策を立案、フィードバックすることで職員の意識改善へつながった。また、「5 S」を推進しコミュニケーションの強化により職場環境が改善したこともあり、 超勤が大幅に削減された。

4月から精神科との再統合により医事課は2カ所での運営となった。連携が最重要で、レセプト反省会等で情報共有を行い、管理職間ではズレのないよう取り組みスムーズに業務が行えている。

スキル向上のワーキングを中心に機能評価に向けて、マニュアルの見直しを行い修正することができた。



# ③今後の課題

ワーキング活動を取り入れ個々の意識づけにつなげたことで、具体的な意見や提案が可能となっている。 今後も活動を強化し、若い職員の向上心や積極性の向上を図り医事課の活性化につなげたいと考えている。 医事管理業務は機能強化が必要となり、地域のニーズにあった病院体制の構築、事務部からの医療統計を基に情報の発信、対策・改善案の提供を行い、病院経営につなげていく必要がある。そのためにはスタッフの育成が最大な課題となる。

(文責:医事課長 古谷 英理)

# ■用度課

## 1 概要

所属長名:村田 真

構成職員:事務 3名

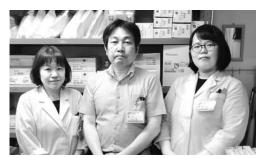
合計人数 3名

## 2活動内容・目標に対する達成状況

1. 用度課では、購入物品の種類が多岐にわたっていることと担当部署の多さから、煩雑になりがちな業務を正確に、かつ迅速に行う必要があり、本年も"さらにより安く"を追求してインターネットサイトでの価格を参考に、安価な商品の購入と調達速度を重要視してきた。

ニプロ製品、プラスチック手袋、手指洗剤、手指消毒剤において、年額、約100万円のコスト削減の 実績があった。印刷機器類の不具合により、修理・交換の対応頻度が多くなっていたため、耐用 度が高く廉価な複合コピー機の導入を推進した。

2. バーコードを用いた「物品管理システム」で、在庫管理の適正化を図るため各部署の設定定数を見直し、バーコードシールの運用によって、在庫・消費の区別を明らかにすることを周知させていくことに注力した。バーコードの定数管理と滅菌切れの防止対策は、用度課において重要な作業であり、過剰在庫の抑制・無駄なコストを削減するために今後もバーコードの定数管理を継続して取り組んでいく。



3. 今期は手書きで用度課へ請求する物品をWEB上で請求できる「消耗品管理システム」を構築し、年度末直前に運用を始めることができた。新型コロナウイルス(COVID-19)による防護衣類の確保対応によって、新システムの案内が各部署にできていなく、利用・普及が遅れているが、用度課内の業務の効率化や合理化を図ることが目的であるため、利用部署を増やすためにも詳細なマニュアルの作成、物品マスタを充実させ、普及に努めていく。

#### 3今後の課題

用度課内のさらなる合理化を行うためには、各部署からのさまざまな物品請求に対応していくために物品知識の向上が必要である。円滑な物品調達を勧めるためにも物品の標準化は欠かせない要素があり、各部署への周知を粘り強く説明していくことを今後も継続していく。医療消耗品、一般消耗品の請求業務を新シス

テムによって推進していくことで、業務の効率化、処 理能力を高めて無駄のない物品管理運営を目指しま



# | 施 設 課

# 1 概要

所属長名:真鍋 誠

構成職員:技能員 3名

> 運転手·技能員 1名 運転手 6名 合計人数 10名

# 2活動内容・目標に対する達成状況

1. 病院の維持管理、機能強化

ハートセンター建設の準備と工事着工があ り、それにともなう既存建物の新館での付随 工事や設備の切換工事の立ち会いや、建設工 事に伴う設備関係書類の業者への提出などの 業務があった。ハートセンター建設にともな い新館駐輪場が減ることになり、病院北側に

ある施設課の物品倉庫や他部署の書類などの保管倉 庫を撤去し地面の舗装工事とサイクルポートを設置 して駐輪場として使用できるように改修した。

新館各病棟の病室の床が汚れや傷みがあり、病棟 と業者協力のもと病室の床シート張替工事を行うこ とができた。

2. こころのセンター設備の管理

北館S棟の建物が老朽化しており、部屋への雨水 浸入やエアコンの故障も多くあり修繕や修理を行っ た。特に北館S棟の全館空調はかなり古く、毎年数 回いろいろな部分の修理や部品交換をしている。た だ全館空調の更新には高額な費用がかかるので更新 せずに修理などで対応して使用している。

3. 省エネ対策の実施

今年度の省エネ対策としては本館と南館の照明の LED化を行った。実施後の省エネ効果の検証をし てみると、直近3カ月の全体の電気使用量は本館・ 新館で4%削減、南館で8%削減となった。



(文責:用度課長 村田 真)



4. 送迎車輌運行時の安全確認と運転マナーの徹底 6月に高知警察署の交通課係長を招いて安全運転 講習会を行った。迎車での特に大きな事故はなかっ たが送迎車の車体を擦るなどの物損事故はあった。 運転手には運転時の確認は確実に行い、注意を怠ら ないように指導を行った。

### 3 今後の課題

北館の全館空調は老朽化しており年に数回修理や部 品交換している。古い機械なのでそろそろ部品供給が できなくなりそうなので、費用の問題もあるが新しい 機械に交換をしなくてはならない。同様に南館の全館 空調も古くなり故障が増えている。特に病棟の空調は 故障すると入院患者などに迷惑がかかるだけでなく症 状の悪化などにつながると大変なので早めの更新を行 うように考えていきたいと思う。

(文責:施設課長 真鍋 誠)

# 🗐 情報システム管理課

# 1 概要

所属長名:戸田 英也

構成職員:システム担当 3名

医療秘書 10名 合計人数 13名

## 2活動内容・目標に対する達成状況

1. システム部門

三愛病院の電子カルテ共同利用にむけた導入準 備、稼働後のサポートなど、問題なく取り組むこと ができた。また、活用が一気に進んでいるWeb会 議においても、機材・ソフトの検討・運用テストを行 い、院内での利用に向けて準備することができた。

## 2. 医療秘書部門

医療秘書のキャリアパスにのっとり個々の目標を 設定、チームリーダーと共有し目標をクリアするた めの〇JTを施行、全員が目標達成することができた。診療情報管理士取得を目標に掲げていた2名も無事、合格することができた。

人材育成におけるリーダー 教育として、チームリーダー が指導者養成講習を受講、修

アすることができた。包括的に学べたことで自信が つきモチベーションアップにもつながった。

こころのセンターでは、精神科領域の知識習得と 業務構築が大きなテーマとなっていた。引き続き取 り組み事項ではあるが、現場の意向に沿った取り組 みが行えたと考えている。

また、来年度に予定されている症例登録の準備も順調に進めることができた。

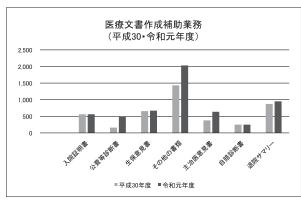
# ③ 今後の課題

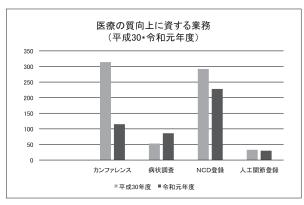
## 1. システム部門

今後、新型コロナウイルスの短期的な感染の終息は考えにくい状況であり、Withコロナ時代の新しい業務形態を模索していくなかで、システム管理課として「Web会議」を含めたIT技術の積極的な活用に向けて、ハード・技術面のスキル習得・人材育成を行っていくことが必要であると考えている。また、三愛病院との電子カルテ共同利用を積極的に活用できるように運用面でのサポートを図っていきたい。

#### 2. 医療秘書部門

ハート循環器の新設、JOANRやCVITといっ



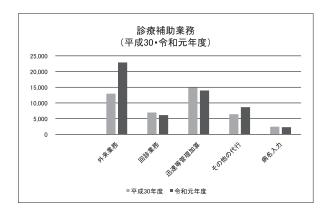




た症例登録業務など、これまで以上に専門性の高い 支援が必要とされる。そのため、今後も課員全体の スキルアップに加え、業務の効率化および標準化と いった業務改善に取り組むことが重要と考える。ま たそれらを通し医療秘書の業務確立に努めたい。

## ■ 2019(令和元)年度 医療秘書業務実績

業務分類	項目	平成30年度	令和元年度	
	入院証明書	561	561	
	公費等診断書	160	481	
医连士者	生保意見書	656	670	
医療文書 作成補助	その他の書類	1, 432	2, 031	
11 /2(11)	主治医意見書	377	636	
	自賠診断書	250	249	
	退院サマリー	872	950	
	外来業務	12, 956	22, 898	
	回診業務	6, 959	6, 131	
診療補助	迅速等管理加算	14, 857	13, 970	
	その他の代行	6, 408	8, 659	
	病名入力	2, 431	2, 281	
	カンファレンス	314	115	
医療の質 向上に	病状調査	53	86	
資する業務	NCD登録	292	228	
211 071073	人工関節登録	33	30	



(文責:情報システム管理課 前田 卓郎)



# 診療情報課



山本 淑恵

## 1 概要

所属長名:山本 淑恵

構成職員:診療情報管理士·施設基準管理士 1名

> 診療情報管理士·医療情報技師 1名

診療情報管理士 1名

事務員 3名

合計人数 6名

# |2||活動内容・目標に対する達成状況

- 1. 診療情報管理の専門性を発揮し、情報の精度向上 と管理体制の整備。
- 2. スキルアップと人材育成
- 3. 施設基準の総合的管理体制の構築

令和元年度は、細木ユニティ病院との統合もあり、 さまざまな変化の年だった。

病棟数も7病棟から11病棟になり、DPCやその他 データについても、処理数の増加とともに、精度管理 や体制強化が必要となったが、診療情報管理士とデー タ入力者が協力し、作業の効率化や各自のスキルアッ プによって、的確な疾病分類コーディングおよびデー タ収集、傷病名の詳細不明コード・未コード化傷病名 の削減を達成することができた。また、退院後10日以 内のサマリー作成率もほぼ100%に近い数字でキープ できている。退院患者データも整理分類され、さまざ まな分析に耐えうる有益なデータ収集ができている。

その他、各業務のマニュアルも、現状に沿った分か りやすいマニュアルへの改定を順次行っている。なか でも、近年大幅に申請数が増加しているカルテ開示に



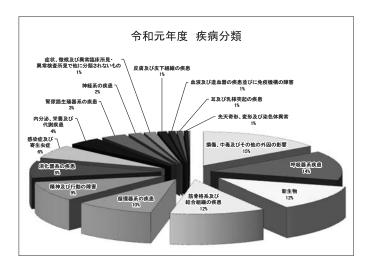
ついても、詳細なマニュアルを再作成したことで、ど のような事例であっても、スムーズに処理できる対応 力の強化にもつながった。

また、統合にかかる施設基準については、厚生支局 への届け出変更やさまざまな確認作業が必要だった が、施設基準管理士としてのスキルを生かす場とな り、期限内に迅速かつ正確に処理することができた。 大変な部分もあったが、施設基準管理士としての充実 感と自信を持てる機会となった。

# |3||今後の課題

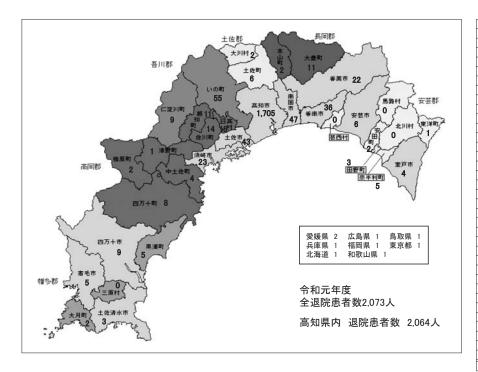
これまで管理していた紙カルテ・個人ファイルなど に加え、統合後のカルテ数が大幅に増加し、全体数の 把握や管理は大きな課題となっている。現状では、全 ての把握は困難であり、保管場所も含め、廃棄や整理 など、新たな管理体制の構築が必須と考える。診療情 報管理指針に沿った一元管理を軸に、診療情報管理に 精通した人材の育成も必要である。

これらのことを含め、診療情報課がさまざまな場面 で必要とされるスキルとして、診療情報管理士・施設 基準管理士・医療情報技師などの育成を継続していか なければならない。そのためにも院内外の研修会、学 会学術大会などへの積極的参加や、仁生会診療情報管 理士会Jinhimの活動も再活性化させるなど、今 後も研鑽を重ねていきたい。

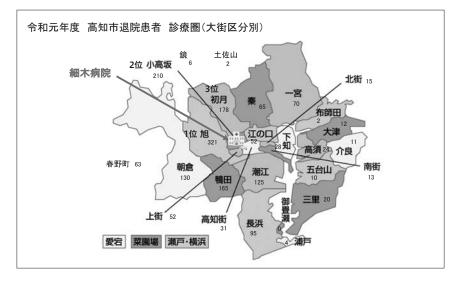


#### 令和元年度 疾病分類

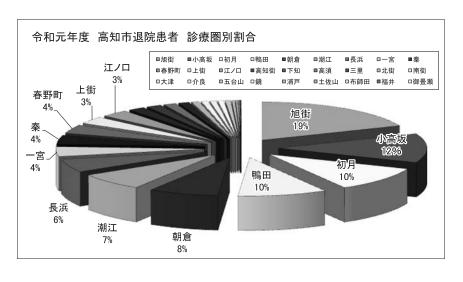
呼吸器系の疾患     290       新生物     262       筋骨格系及び結合組織の疾患     243       精神及び行動の障害     192       消化器系の疾患     168       感染症及び寄生虫症     131       内分泌、栄養及び代謝疾患     83       腎底路生殖器系の疾患     64       神経系の疾患     64       神経系の疾患     24       血液及び食用組織の疾患     24       血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害     17       耳及び乳性突起の疾患     15       先天奇形、変形及び染色体異常     12       周産期に発生した病態     2       眼及び付属器の疾患     0       妊娠、分娩及び産じょ<<褥>     0       傷病及び死亡の外因     0       健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用     0	171170千皮 次例分束	
新生物 252 筋骨格系及び結合組織の疾患 243 循環器系の疾患 202 精神及び行動の障害 192 消化器系の疾患 168 感染症及び寄生虫症 131 内分泌、栄養及び代謝疾患 83 腎尿路生殖器系の疾患 64 神経系の疾患 64 神経系の疾患 229 皮下組織の疾患 17 耳及び乳棒突起の疾患 10 扇産期に発生した病態 2 取及び付属器の疾患 0 妊娠、分娩及び産じょく<褥> 0 傷病及び死亡の外因 0 傷病及び死亡の外因 0	損傷、中毒及びその他の外因の影響	315
<ul> <li>筋骨格系及び結合組織の疾患</li> <li>復理器系の疾患</li> <li>202</li> <li>精神及び行動の障害</li> <li>192</li> <li>消化器系の疾患</li> <li>病染症及び寄生虫症</li> <li>内分泌、栄養及び代謝疾患</li> <li>83</li> <li>腎尿路生殖器系の疾患</li> <li>神経系の疾患</li> <li>症状、微候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの</li> <li>29</li> <li>皮膚及び皮下組織の疾患</li> <li>血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害</li> <li>17</li> <li>耳及び乳様突起の疾患</li> <li>先天奇形、変形及び染色体異常</li> <li>周库期に発生した病態</li> <li>2</li> <li>肥及び付属器の疾患</li> <li>妊娠、分娩及び産じょく&lt;褥&gt;</li> <li>傷病及び死亡の外因</li> <li>健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用</li> </ul>	呼吸器系の疾患	290
循環器系の疾患     202       精神及び行動の障害     192       消化器系の疾患     168       感染症及び寄生虫症     131       内分泌、栄養及び代謝疾患     83       腎尿路生殖器系の疾患     64       神経系の疾患     34       症状、管侯及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの     29       皮膚及び皮下組織の疾患     24       血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害     17       耳及び乳株突起の疾患     15       先天奇形、変形及び染色体異常     12       周産期に発生した病態     2       眼及近く内臓器の疾患     0       妊娠、分娩及び産じょく<褥>     0       傷病及び死亡の外因     0       健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用     0	新生物	252
精神及び行動の障害 192 消化器系の疾患 168 感染症及び寄生虫症 131 内分泌、栄養及び代謝疾患 64 神経系の疾患 64 神経系の疾患 34 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 29 皮膚及び皮下組織の疾患 24 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 17 耳及び乳椎突起の疾患 15 氏天奇形、変形及び染色体異常 12 周産期に発生した病態 2 眼及び付属器の疾患 2 眼及び付属器の疾患 0 銀成及び東密な形とで染色体膜 10 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 0	筋骨格系及び結合組織の疾患	243
消化器系の疾患 168 感染症及び寄生虫症 131 の分泌、栄養及び代謝疾患 83 腎尿路生殖器系の疾患 64 神経系の疾患 64 神経系の疾患 24 症状、微候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 29 皮膚及び皮下組織の疾患 24 血液及び造血器の疾患が近に免疫機構の障害 17 耳及び乳操突起の疾患 15 耳及び乳操突起の疾患 15 馬産期に発生した病態 2 眼及び付属器の疾患 2 眼及び付属器の疾患 0 銀成及び鹿器の疾患 0 銀成及び鹿器の疾患 0 銀成びを関係した病態 0 銀形なび鹿じょく<縛> 0 銀病及び産じょく<縛> 0 銀病及び死亡の外因 0 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 0	循環器系の疾患	202
想染症及び寄生虫症     131       内分泌、栄養及び代謝疾患     83       腎尿路生殖器系の疾患     64       神経系の疾患     34       皮膚及び臭常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないものと皮膚及び皮下組織の疾患     24       血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害     17       耳及び乳棒突起の疾患     15       先天奇形、変形及び染色体異常     12       周座期に発生した病態     2       眼及び付属器の疾患     0       妊娠、分娩及び産じょ<<病>     0       傷病及び死亡の外因     0       健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用     0	精神及び行動の障害	192
内分泌、栄養及び代謝疾患     83       腎尿路生殖器系の疾患     64       神経系の疾患     34       症状、倒候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの     29       皮膚及び皮下組織の疾患     24       加液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害     17       耳及び乳様突起の疾患     15       先天奇形、変形及び染色体異常     12       周库開に発生した病態     2       服及び付属器の疾患     0       妊娠、分娩及び産じょく<褥>     0       傷病及び死亡の外因     0       健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用     0	消化器系の疾患	168
	感染症及び寄生虫症	131
#経系の疾患 34 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 29 皮膚及び皮下組織の疾患 24 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 17 耳及び乳椎突起の疾患 15 先天奇形、変形及び染色体異常 12 周産期に発生した病態 2 眼及び付属器の疾患 0 妊娠、分娩及び産じょく<褥> 0 傷病及び死亡の外因 0 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 0	内分泌、栄養及び代謝疾患	83
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの 皮膚及び皮下組織の疾患     29       皮膚及び皮下組織の疾患     24       血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害     17       耳及び乳棒突起の疾患     15       先天奇形、変形及び染色体異常     12       周座期に発生した病態     2       関及び付属器の疾患     0       妊娠、分娩及び産じょく<褥>     0       傷病及び死亡の外因     0       健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用     0	腎尿路生殖器系の疾患	64
皮膚及び皮下組織の疾患     24       血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害     17       耳及び乳棒突起の疾患     15       先天奇形、変形及び染色体異常     12       周産期に発生した病態     2       眼及び付属器の疾患     0       妊娠、分娩及び産じょ<<褥>     0       傷病及び死亡の外因     0       健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用     0	神経系の疾患	34
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 17 耳及び乳様突起の疾患 15 先天奇形、変形及び染色体異常 12 周産期に発生した病態 2 眼及び付属器の疾患 0 妊娠、分娩及び産じょく<褥> 0 傷病及び死亡の外因 0 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 0	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	29
耳及び乳様突起の疾患     15       先天奇形、変形及び染色体異常     12       周産期に発生した病態     2       眼及び付属器の疾患     0       妊娠、分娩及び産じょ<<褥>     0       傷病及び死亡の外因     0       健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用     0	皮膚及び皮下組織の疾患	24
先天奇形、変形及び染色体異常     12       周産期に発生した病態     2       眼及び付属器の疾患     0       妊娠、分娩及び産じょ<<縛>       傷病及び死亡の外因     0       健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用     0	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	17
周産期に発生した病態 2 限及び付属器の疾患 0 妊娠、分娩及び産じょ<<褥> 0 仮病及び死亡の外因 0 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 0	耳及び乳様突起の疾患	15
眼及び付属器の疾患 0 妊娠、分娩及び産じょく<褥> 0 傷病及び死亡の外因 0 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 0	先天奇形、変形及び染色体異常	12
妊娠、分娩及び産じょ<<褥> 0 傷病及び死亡の外因 0 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 0	周産期に発生した病態	2
傷病及び死亡の外因         0           健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用         0	眼及び付属器の疾患	0
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 0	妊娠、分娩及び産じょく<褥>	0
	傷病及び死亡の外因	0
2,073	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0
		2, 073



	元年度	30年度
高知市	1,705	1,677
いの町	55	47
南国市	47	52
土佐市	43	46
香南市	36	32
須崎市	23	14
香美市	22	20
日高村	18	25
佐川町	14	14
越知町	11	10
大豊町	11	6
四万十市	9	11
仁淀川町	9	7
四万十町	8	14
土佐町	6	6
安芸市	6	5
黒潮町	5	6
奈半利町	5	2
宿毛市	5	2
室戸市	4	11
中土佐町	4	6
土佐清水市	3	9
田野町	3	0
大川村	2	5
本山町	2	4
大月町	2	3
梼原町	2	2
安田町	2	0
津野町	1	4
東洋町	1	0
芸西村	0	5
三原村	0	1
馬路村	0	0
北川村	0	0
その他(県外)	9	15
合計	2,073	2, 061



	元年度	30年度
旭街	321	302
小高坂	210	198
初月	178	170
鴨田	165	166
朝倉	130	110
潮江	125	142
長浜	95	117
一宮	70	57
秦	65	84
春野町	63	57
上街	52	59
江ノロ	52	50
高知街	31	20
下知	28	40
高須	24	20
三里	20	25
北街	15	7
南街	13	6
大津	12	8
介良	11	17
五台山	10	9
鏡	6	5
浦戸	4	1
土佐山	2	3
布師田	2	2
福井	1	0
御畳瀬	0	2
合計	1, 705	1, 677



(文責:診療情報課長 山本 淑恵)

# 企画課

# 1 概要

所属長名:門田 紘和

構成職員:2名

合計人数 2名

## 2活動内容・目標に対する達成状況

企画課は、仁生会5カ年ビジョンおよび細木病院の理念を実現すべく、行動計画の達成に向けて、その作成や進捗管理、各種データの分析を行い、病院全体が最高のパフォーマンスを発揮できるように最大限にサポートを行うことである。

主な業務は、①事務部長直轄業務、②経営管理に関する業務、③初期研修医および医学部実習生の研修・ 実習の事務局業務で構成されている。

令和元年度の企画課の活動は、以下の通りである。

### 1. 事業計画・収支計画の立案および提案

平成30年度監査法人監査が始まった。会計基準などの変更などがあり、令和元年度に同監査最初の決算報告がなされた。それを受けて、企画課は、まず初めに、4~6月にかけて、収益性向上アクションプランの立案やDPC病棟の課題について整理・提案を行い、事務部門内で検討に参加した。次に、その検討を踏まえ、収支5カ年計画や計画達成に向けたこれからの取り組みについて、8月の理事会や外部説明などを行うため、事務部長を中心に、経営管理部、人事部、企画課が集まり、企画会と称し、企画課から提案などを行い、「仁生会 収支5カ年計画」の作成を行った。

また、10月には、新事業である「ほそぎハートセンター」の立ち上げに向けて、循環器内科の今後の展開について日本能率協会総合研究所と協議を行い、企画会メンバーとともに取りまとめた。そして、12



月に、「仁生会 収支5カ年計画」と「循環器内科の 今後の展開について」を考慮した『ほそぎハートセンターの立ち上げと「第2次・仁生会収支5カ年計画」』の取りまとめを行い、理事会や外部説明などを 行った。

### 2. ほそぎハートセンターの設立

令和2年6月の開設に向けて、設計、ハートセンター準備委員会(各種ワーキング)などに参加し、進行するための提案や各部署との取りまとめを行った。また、高額医療機器などの交渉や院内調整を行い、心臓リハビリテーションに用いる使用機器や運用への理解のため事務部長などと施設見学や意見交換を行った。

# 3. 令和2年度医師臨床研修制度への対応

令和2年度の医師臨床研修制度の見直しに伴い、 指導医ガイドラインの理解やプログラムの運用の準備を行った。また、オンライン臨床教育評価システム EPOC2の理解促進のため運用説明会へ参加し、それを基に運用案を作成した。

4. IMAJIN活動 令和元年度新たな取り組み 細木病院グループは、平成30年度までIMAJIN活動として2年半にわたり中期計画の立案に取り

組んできた。令和元年度の下期は、各部署単位の各論の課題解決のため、現場に強いコンサルとともに活動を行った。企画課は、その窓口および課題の検討および進行の提案などを行い、各部署の取りまとめを行った。

#### 5. 外部活動

①門田 紘和(研修医:砥上 幸樹、中尾 朋美):レジナビフェア2019東京、千葉県、令和元年6月23日 ※高知県の初期臨床研修医確保ため、高知県臨床研修連絡協議会の取り組みへ参加

# ③ 今後の課題

1. 第2次・仁生会収支5カ年計画の実行・管理 第2次・仁生会収支5カ年計画の確実な実行のた め、実績の管理および今後の課題の整理、それへの 対応などが必要である。また、令和2年6月に「ほ そぎハートセンター」がスタートし、早期に経営の 安定化を目指して、経営課題への対応に取り組む。 2. 令和2年度医師臨床研修制度への対応

令和2年度の開始に向けて、プログラムの安定稼働に向けて、プログラム責任者をはじめ指導医、研修医と密なコミュニケーションを図り、確実な実行を行っていく。また、高知県の基幹型病院との連携を図り、情報収集を行いながら、高知県の医師臨床研修制度へ貢献をしていく。

 1 M A J I N活動 細木病院プロジェクト2020へ の取り組み

細木病院プロジェクト2020は、①稼働アップ、② 単価アップ、③在宅サービス、④病棟再編の4つの テーマからなる。これらを確実に実行していくた め、財務の視点、顧客の視点、業務プロセスの視点、 学習と成長の視点のバランスを考えながら、細木病 院グループの経営戦略につながるよう企画課から発 信し、貢献していきたい。

(文責:企画課長 門田 紘和)

# ■ 健康管理センター



健康管理センター部長 森下 延真



名誉副院長 松田 勇蔵



内科長 弘瀬 祥子



副院長 上地 一平



医局長/外科部長 尾﨑 信三

# 1業務内容

## ①健康診断

全国健康保険協会管掌健康保険(協会けんぼ)生活習慣病予防健診、事業主健診(企業健診)、人間ドック、特定健康診査(特定健診)、高知市の乳がん検診、子宮頸がん検診、大腸がん検診、前立腺がん検診、肝炎ウイルス検査、一般健診、福寿園への出張健診など

#### ②職員健診

細木病院職員の定期健康診断、新採用者、中途採用者の健診、ストレスチェックの実施

## 2 令和元年度の実績

令和元年度の健康管理センターの総業務件数は5,644件(0.6%増)であった。内訳では健診部分が4,336件(0.7%増)、職員健診は1,300件(同数)であった。福利厚生費からの支出となる職員健診(9,025,462円分)を除いた総収入は54,798,022円で、昨年と比べると1,046,997円(1.9%)の増益であった。

# 3まとめ

令和元年度は、働き方改革関連法案の影響で、受診者数の制限も危惧されたが、松田名誉副院長にも診察に加わっていただき、前年の実績を維持することができた。医療を取り巻く状況は厳しさを増すばかりであ



るが、引き続き、丁寧な情報提供、質の高い健診を目指して、職員一同、一層努力を続けていきたいと考えている。この場をかりて、日頃より多大なご助力をいただいている臨床検査室、内視鏡センター、放射線室、医事課、および健康管理センターのスタッフに心より感謝申し上げます。

# 4 常勤医師

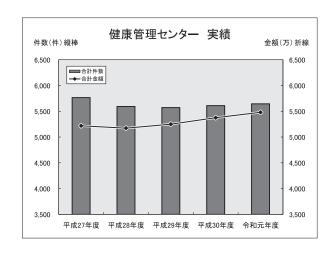
診察担当 森下 延真、弘瀬 祥子

松田 勇蔵

乳がん検診担当 上地 一平、尾崎 信三

### 5 非常勤医師

子宮がん検診担当 濱脇 弘暉



# 健康管理センター 実績 件数

	ドック	協会けんぽ 健診	企業健診	健康診断	乳がん検診	子宮がん検診	特定健診	保健指導	健診分 小計	予防接種	職員健診	合計件数
平成27年度	233	1, 259	1, 317	90	662	489	381	20	4, 451	68	1, 246	5, 765
平成28年度	219	1, 271	1, 151	98	713	501	391	22	4, 366	6	1, 220	5, 592
平成29年度	231	1, 293	1, 146	129	617	486	395	28	4, 325	7	1, 239	5, 571
平成30年度	234	1, 318	1,094	93	614	514	431	8	4, 306	3	1, 300	5, 609
令和元年度	247	1, 286	1, 150	100	639	501	413	0	4, 336	8	1, 300	5, 644

# 健康管理センター 実績 金額

	ドック	協会けんぽ 健診	企業健診	健康診断	乳がん検診	子宮がん検診	特定健診	保健指導	健診分 小計	予防接種	合計金額	職員健診
平成27年度	8, 605, 713	22, 408, 090	12, 945, 709	155, 308	3, 503, 475	1, 774, 519	2, 671, 951	46, 008	52, 110, 773	70, 986	52, 181, 759	7, 634, 462
平成28年度	8, 130, 146	22, 703, 927	11, 863, 816	205, 843	3, 455, 189	2, 496, 778	2, 759, 937	72, 792	51, 688, 428	31,060	51, 719, 488	7, 843, 200
平成29年度	8, 364, 012	23, 570, 640	11, 760, 851	411, 690	2, 890, 374	2, 552, 197	2, 774, 570	122, 335	52, 446, 669	41,960	52, 488, 629	8, 057, 621
平成30年度	8, 441, 585	25, 072, 155	11, 194, 796	221, 653	2, 896, 786	2, 804, 168	3, 055, 630	45, 792	53, 732, 565	18, 460	53, 751, 025	9, 025, 462
令和元年度	8, 961, 001	24, 563, 874	12, 115, 144	327, 581	2, 949, 185	2, 857, 635	2, 987, 602	0	54, 762, 022	36, 000	54, 798, 022	9, 025, 462

(文責 健康管理センター部長 森下 延真)

# **宣 ほそぎ連携センター**



副院長 糖尿病・内分泌内科部長 ほそぎ連携センター長 西岡 達矢



## 1 概要

平成31年3月に、ほそぎ連携センターと名称改め、4月には、細木病院と細木ユニティ病院の統合があり一般科・精神科と業務分担を行いそれぞれの専門性を発揮しほそぎ連携センター内でも連携強化・業務補完を行い活動してきました。

今年度の課題では、地域医療機関との連携強化、地域包括ケアシステムを構築していくという課題に取り組みました。地域医療機関・介護施設などとの関係づくりのためには、当院の果たす医療的役割、ケアミックス病院としての機能を踏まえた紹介患者の受け入れに対して、迅速な対応ができるように前方連携窓口強化に取り組みました。また、住み慣れた地域で生活できるように患者サポート室では、退院支援に取り組み、後方連携として地域の医療機関、介護施設などとの連携強化を進めてきました。

ほそぎ連携センターの連携業務は、前方連携、後方連携が軸となります。そこで、より明確な体制づくりのために、令和2年には、前方連携を入退院サポート室(名称変更)、後方連携を患者サポート室として活動し、センターの名称は"ほそぎ入退院サポートセンター"に変更を行います。新たに、入院前支援にも取り組み「入院前から入院中、退院に至る切れ目のない質の高い支援」をコンセプトに掲げ取り組んでいきます。連携業務のデータの可視化にも力を注ぎ、分析から具体的な課題立案を行い、地域医療連携機能が高められること、そして、ベットコントロール機能強化が進み病床稼働アップにつながることを目指していきます。

所属長名:西岡 達矢

構成職員:

センター長 医師 1名

患者サポート室 社会福祉士 8名

ソーシャルワーカー 1名

精神保健福祉士 8名

病診連携室 看護師 1名

事務員 2名

病床管理室 看護師 2名

# (こころのセンター担当

精神保健福祉士 1名 准看護師 1名)合計人数 25名

# 2活動内容

### 【ほそぎ連携センター】

病院広報、営業活動、医療機関や在宅・介護施設な どへの訪問、行政連携、地域連携カンファレンス、地 域連携交流会などへの参加

#### 〈患者サポート室〉

退院支援、就労支援、緩和相談、苦情相談、各種 相談支援

#### 〈病床管理室〉

入院・転院相談、ベットコントロール、退院支援 (スクリーニング)

#### 〈病診連携室〉

外来患者紹介(診察・検査)、逆紹介、診療情報提供書管理、紹介患者データーベース管理、オープンシステム管理、広報活動

詳しい活動内容は各室報告を参照してください。

#### 3 今後の課題

1. 前方連携、後方連携を軸とした地域連携機能の強化

地域に根差したケアミックス機能を持つ医療機関として、紹介患者さんの治療、療養目的にそった迅速な受け入れを促進するとともに、入院された患者さんが住み慣れた地域で生活できることを目指した支援を行い地域とのつながりを強化する。

2. ほそぎ入退院サポートセンターのコンセプト "入 院前~入院中~退院に至る切れ目のない質の高い 支援"を実現する

入院前支援から退院支援に向けて担当職員が切れ 目なくつながり、患者さんが不安なく安心して、入 院から入院中、退院後まで過ごせるように支援す る。

(文責:ほそぎ連携センター長 西岡 達矢)



# 湯 病床管理室

# 1 概要

所属長名:永野 亜希子

構成職員:看護師 3名

> 精神保健福祉十 1名 合計人数 4名

# 2活動内容・目標に対する達成状況

- 1. 地域の病院や診療所・在宅事業所との連携の強化 については、急性期病院からのリハビリや療養目 的、診療所や在宅からは治療やMSS目的の相 談、精神科は緊急の入院相談や行政からの相談を 中心に入院の受け入れを行った。特に入院ベッド をもたない診療所からは、受け入れが可能なのか 返事が早く欲しいと要望が多かったため、15~30 分以内の調整を目指し医師との連携の運用を一部 変更した。結果、時間の短縮と返信は以前より早 くなった。また、急性期病院との連携は密になっ てきたが、診療所や在宅関連については、相談件 数も少なく強化まで至らなかった。
- 2. 経営基盤の安定・強化を図るについては、コンサ ルタントが介入し、稼働アップ、単価アップ、病 棟編成のグループワーキングに参加した。特に稼 働アップでは、ほそぎ連携センターが中心となり

各課題に対して取り組みを行い、来年度より実動 できるよう進めている。単価アップでは、DPC 病棟と地域包括ケア病棟の過去データより入院の 振り分けや転棟調整期間が適正であったかを検証 した。結果、もう少し早い段階での転棟調整で単 価アップにつながるケースもあり、データに基づ いたベッドコントロールの重要性が理解できた。 病棟編成については、今後の医療界の展望も見据 え、何度も協議を重ね、南1病棟の医療療養1へ の変更と北2病棟の閉鎖を決定。それに伴う転棟 調整を各関連部署と連携し実施できた。

# ③今後の課題

コンサルタントの介入より、今後の地域連携のあり 方や自分たちがするべきことが整理できた。

次年度より病診連携室と合併し、入退院サポート室 として再出発となる。コンサルタント介入により新し い試みもあり、地域の病院や診療所、在宅とのさらな る連携の強化を目指したい。また、来年の診療報酬改 定を受け、ベッドコントロールによる単価アップを他 部門と連携を取りながら強化したい。

(文責:病床管理室長 永野 亜希子)



# 病診連携室

# 1 概要

所属長名:柏井 早生吏 構成職員:看護師 1名

> 2名 事務員 合計人数 3名

## 2活動内容・目標に対する達成状況

1. "連携課題検討ワーキング"戦略的課題達成への取 り組み

課題として取り組んできた法人内連携の強化にお いては、外来受診・入院調整ともに適時受け入れを 行えた。医療機関との連携強化に向けては、病院訪 問と令和2年度に開設予定となった「ほそぎハート センタートのPRを行い浸透できるように努めた。 地域医療機関からの紹介においては、2月から始 まった新型コロナウイルス感染症の影響を受けなが らも、総件数(一般科)2,834件(前年比42件増)と 連携促進は図れたと考える。

2. 平成30年度地域医療機関に向けてのアンケート結 果から見えてきた課題への取り組み

当院の機能がわからない、積極的な取り組みは何 かなどのご意見に対して広報すべく"連携広報誌" 「しなやか」を発行し医療機関向けに病院広報を開 始した。また、地域医療機関から当院に期待するこ とは、どのようなことかを探るため、みなみの風診 療所今井稔也院長に「在宅医療の現状とケアミック ス病院(2次救急病院)との今後の連携について」 講演会を依頼し当院のあり方について共通理解する 機会が得られた。

#### 3 今後の課題

今後、病診連携室と病床管理室が統合され、前方連 携強化を図るとともに入院前からの支援の強化と現行 の退院支援のつながりをもたせ患者さんが"安心して 地域で生活できるように"サポートに努めていく。

(文責:病診連携室長 柏井 早生吏)



# ■ 患者サポート室

# 1 概要

所属長名: 计 美知子

構成職員:患者サポート室 14名

(うち こころのセンター 5名)

病床管理室 1名 精神科デイケア 1名 重度認知症患者デイケア 1名 精神科グループホーム 1名 合計人数 18名

# |2||活動内容・目標に対する達成状況

1. 病院再統合を先行し、3月に「ほそぎ連携セン ター」と改組され、患者サポート室の構成員が増 え、担当領域が広がった。入院・通院の患者さん やご家族の療養上の相談窓口である新館地下1 階、こころのセンター北館3階の「患者サポート 室」のほか、こころのセンターへの受診・入院相 談窓□である「病床管理室」、「精神科デイケア」 「重度認知症デイケア」「グループホーム」などの 在宅部門にスタッフが配置となった。再統合に伴 い、院内掲示やリーフレットなどの見直しのほ か、スタッフ間の相互理解や、基本業務が統一で きるよう主任会や定期ミーティングで情報共有 し、専門部分を生かし、統合の効果が得られるよ う体制作りを行った。業務手順や記録方法など課 題について、今後、検討しながら取り組んでいき たい。

地域貢献の取り組みとして、地域の方々を対象 に、脳血管疾患についての学習、当法人施設紹介、 院内見学会について企画運営に参加した。多職種 で企画することで、それぞれの専門性を生かした アイデアの提案やすり合わせの大変さや楽しさを 学ぶことができた。広報や参加募集方法など課題 は残るものの、実際に現場で出向いてもらい情報 提供することで、パンフレットなどでは周知しづ

らい内容も、より理解を深めていただけたと思わ れる。また、幅広い年齢層の方に参加いただき、 当院に対する生の意見や感想が聞くことができ、 今後の取り組みに参考になる意見をいただいた。

2. ソーシャルワーカーとしての資質向上のため、教 育・人つくり

知識や技術向上のため、診療報酬や介護報酬、そ の他関連の講演会など、院内外研修に積極的に参 加し、習得に努めた。

今年度も引き続き、法人内全体のソーシャルワー カー連絡会を開催した。感染対策の関係から、年 度末に講師を招く学習会は実施できなかったが、 円滑な連携ができるよう各所属機関トピックスの 情報共有、症例検討など、相互研修を行うことが できた。

後進の教育のため、県立大学社会福祉学科や看護 専門学校など学生実習の受け入れも継続できてい

## 3今後の課題

再統合2年目は、「ほそぎ入退院サポートセンター」 と再改組し、前方連携を担う「入退院サポート室」、後 方連携を担う「患者サポート室」で構成し、入院前か ら入院中、退院に至るまで切れ目のない質の高い支援 を行うことをコンセプトとしている。院内の各部署と 情報交換や密な連携を行いながら、患者さんやご家族 の病気や治療や生活上の心配や問題に対し、誠実な相 談対応を心掛けている。また、当センターが、多職種 で構成されていることのメリットを最大限に生かし、 相談内容により、医師、看護師、社会福祉士(ソーシャ ルワーカー)、精神保健福祉士など連携し、安心して治 療や療養生活が送れるよう相談支援していきたい。

(文責:患者サポート室長 辻 美知子)

# 宣 在宅部

## 1 概要

所属長名:廣井 三紀

構成職員:

看護師 23名 介護職員 133名 事務員 4名 合計人数 160名



在宅部長 廣井 三紀



# ②活動内容・目標に対する達成状況

- 1. 健全で安定した事業所の運営をする。
  - ①病院や他事業所との連携を密にし、在宅の利用者 数・実績増につなげる。
  - ②各事業所の実績の推移を職員間で共有し、安定した経営状態を維持していくために、早めの対処をしていく。

# 【達成状況】

全体の実績としては、対前年比105%で、利用者数ともに前年を上回った結果であった。東部に位置するデイサービスいちご学校の利用者増に向けて対策を講じ、増収につなげることができた。職員間で実績推移の共有をして事業所の利用者増に向けて一丸となって取り組むことについては、居宅介護事業所の法人内連携率に、ケアマネジャーの中でも考え方に個人差があることが、今後の課題と考えられる。また、職員の高齢化、一般的な介護職離れに対する課題に対しては、事業所のダウンサイジングも視野に入れて検討していかなければならない時期に来ていると思う。

# 2. 安全で信頼される質の高い看護・介護サービスの提供と働きやすい職場づくり。

- ①知識の習得、適切な判断能力を養うため、全員が 院内外の研修会や学会に計画的積極的に参加し、 質の高い看護・介護を提供する。
- ②質の高いコミュニケーションスキルを身に付け、 お互いに良好な人間関係を保ち、部署内外の連携 を良くする。
- ③働きやすい職場に向けて、日頃から気付きを言い合える風土を構築する。

## 【達成状況】

職員の年間教育計画を立て、毎月の研修会を始め、個別の研修を実施、さらに、院外の学会参加に向けて、教育担当係長の役割が果たせていた。今後も事業所単位での課題を見出しそれについて改善していき、さらに質の高い介護が提供できるように、教育研修していく。アクシデント事例は、転倒による骨折であり、8件発生した。ほかにも服薬に関するインシデント事例も10件と多かった。服薬については、マニュアル通りの指差

し呼称を正確にしていたら防げた事故であり、事業所内でお互いに気付きを言い合える風土は、事業所によってばらつきがあると思われた。

# 3. 安心して生活できる地域づくりに向けた関わりを する。

- ①細木病院の理念のもと、地域づくりに貢献できる ように、ネットワークを広げ幅広い視野でさまざ まな機関や人と良好なつながりを持つ。
- ②全職員が日ごろからの備えを実行し、事業所内外で防災活動を地域と共に行う。
- ③まっことネット細木の活動を各自が責任を持って 関われる。

# 【達成状況】

まっことネット細木の地域活動は、定着しており、各事業所からの担当者は、役割を果たせた。 出前講座も好評で、23件の依頼があり、専門的な内容の講座の開催ができた。BCP委員会の継続、地域防災活動も継続できていた。新型コロナウイルス感染症対策で、一時期、高齢者の集まる活動を中止し、学童を預かったり、地域へ運動パンフレットの配布をしたことなど、臨機応変な対応ができたことは、BCPの観点からも評価できると思う。

## 3今後の課題

- 1. 病院の稼働率向上、地域密着の病院の位置付けを目的に、「細木病院ナースカー」を軌道に乗せていき、病院との連携をさらに強化していきたい。
- 2. 訪問看護ステーションほそぎのサテライトを、三 愛病院に立ち上げて、訪問の幅を広げて増収、法 人内連携強化につなげる。
- 3. 全職員が、法人の理念、病院や在宅部の目標という同じ方向に向かって、業務できる組織にしていきたい。
- 4. 新しい生活様式を念頭に、オンライン会議を定着したり、直行直帰を取り入れたり、柔軟に対応していく。

(文責:在宅部長 廣井 三紀)



# 學●まっことネット細木

# 1 概要

所属長名:在宅部長 廣井 三紀 構成職員:マッサージ師 2名

+ 在宅部職員 158名 (交替で担当)

合計人数 160名

# 2活動内容・目標に対する達成状況

平成29年6月1日に細木病院在宅部の組織として新 設され、3年目となる令和元年度は、年間のべ2,182 人、月平均180人(前年度比110%)の方が来所された。 月~金曜日まで、職員が交替で担当し在宅部全体で運 営している。活動内容は、大きくわけて、介護相談対 応や情報発信など職員が主体となる活動と、地域の方 に活動の場を提供しサポートしていく地域主体の活動 の二つである。今年度は職員主体の活動に、新たに 『終活』と『生け花教室』が加わった。

### 【職員が主体となる活動】

- ①介護相談:月~金曜日 9時~16時まで電話や面 談での介護相談に対応し、必要に応じて専門相談 窓口を紹介している。
- ②まっこと講座:職員が交代で月2回、趣味活動や 健康増進につながるようなミニ講座を開催してい る。
- ③生きがい交流広場:月1回、予約制の食事会を開 催し、1人で食事することの多い地域の高齢者を 中心にみんなで温かい食事を囲んでいる。
- ④防災教室:防災をテーマに地域の方々と災害用備 蓄や応急手当などを学んでいる。
- ⑤マインドフルネス:月1回 産業カウンセラーや ポラリティセラピーの資格を持つ講師による、マ インドフルネス体験会。静かなリラクゼーション の時間である。
- ⑥まっこと出前講座:ご依頼により院内の専門職員 が地域に出向き講座を開催している。
- (アマッサージ:予約制のマッサージ施術やデイサー ビスへの出張マッサージを行っている。
- ⑧終活講座:お寺のご住職や終活コディネーターに よる、より良く生きるための終活について学んで いる。
- ⑨生け花教室:まっこと講座で好評であった生け花 教室を月1回開催している。講師は小原流一級の

資格を持つ職員で、毎回季節のお花を思い思いに 活けている。

#### 【地域主体の活動】

- ①いきいき百歳体操:お世話役を中心に、週2回、 地域の高齢者が集い一緒に体操している。
- ②子育て広場:民生委員が主となり、地域の親子が 自由に遊べる広場を月1回開催している。

活動は回数を重ねるたびに参加者が増え、賑やかな 日が多くなった印象である。さまざまな方が来所され るため、開所当時は、職員が戸惑う場面もあったが、 徐々に来所される方と顔見知りとなり「最近、○○さ んは見かけないけど元気かな?」「●●君、久しぶり ね。」と対応に余裕が感じられる。また、平成30年5月 から開始した出前講座は、さまざまな方からのご依頼 により公民館や小学校へ出向き、感染予防や飲み薬の 胃腸に対する影響、転倒予防体操など、23講座を開催 した。介良小学校からは、2年連続でご依頼いただ き、防災参観日に小学校2年生の学童と保護者を対象 に日用品で応急手当講座を開催した。地域へ出る機会 が増え、活動の幅が広がっている。年度末の2月から は、新型コロナウイルス感染拡大により一時的に閉鎖 せざるを得なかったが、「いつ開くの?」との問い合わ せもいただき、活動が地域に馴染んできたことを感じ t-0

# 3今後の課題

気軽に立ち寄れる・相談できる・情報をつなげる場 となり、細木病院職員として地域包括ケアシステムの 土台となる地域づくりに貢献するという活動コンセプ トを維持しつつ、活動内容を少し拡大し自分たちの対 応方法のレベルアップに努めた1年間だったと思う。 課題の一つであった病院との連携については、まっこ と出前講座への講師など、協力いただく場面も増えて きた。今後は地域と病院をうまくつなげられるよう ナースカーの展開も検討している。

感染対策をしっかり実施しつつ、地域の方々のご意 見を伺いながら、長く活動を継続していきたいと考え ている。

(文責:在宅部課長 池上 美幸)



# **タュ** ケアサポートセンターほそぎ

# 1 概要

所属長名:木村 まり

構成職員:主任介護支援専門員 2名

> 介護支援専門員 6名

> > (常勤8名)

合計人数 8名

# 2活動内容・目標に対する達成状況

1. 安定した事業所運営を効率的に行う。

新件依頼については断ることなく受け入れを行 い、前年と同レベルの利用実績を維持することがで きた。当院や他の医療機関との連携を図り、在宅生 活への移行がスムーズに行えるようにした。医療連 携加算や退院時連携加算・ターミナルケア加算など 必要な加算の算定を行い、安定した事業所運営がで きたが、法人内の介護事業所への調整率について は、個人のバラツキがみられている。

2. 多職種と連携し質の高いチームケアが提供できる マネジメントを実践する。

ご利用者のさまざまなニーズに応えられるよう、 院内外の研修への参加や多職種との連携、他事業所 との事例検討会により、さまざまなケースへの対応 を学び、ケアマネージメントの質の向上に努めてい る。また、担当以外のご利用者のケースに対し部署内 での情報共有を図っている。困難事例については、 地域包括支援センターとも連携して対応している。

3. 幅広い視野で地域づくりに貢献する。

院内や他事業所での防災訓練に参加したり、独居 世帯や高齢者世帯を訪問の際には、災害に備えて室 内の環境整備の提案や避難場所の声掛けなどを行っ ている。 また、まっことネット細木では、地域の相



談窓口として窓口としての役割を積極的に担ってい る。今後もまっことネット細木を通じて地域づくり に貢献していきたいと考えている。

# 3今後の課題

- 1. 医療依存度の高いご利用者や独居のご利用者、認 知症の方など、さまざまな課題を抱えながらも、 住み慣れた地域や住み慣れた家で生活することを 希望される方が今後も増えていくことと思われ る。地域包括支援センターが実施する事例検討会 や院内外の研修に積極的に参加して自己研鑽に努 め、多職種と連携を図ることで、利用者やご家族 の望む生活を少しでもお手伝いできればと思う。
- 2. 地域とのかかわりに目を向け、防災活動や地域行 事への参加を通じて、地域づくりに貢献するとと もに、地域の皆さまに選ばれ、信頼していただけ る事業所を目指したいと思う。
- 3. 法人や病院の在宅部の目標に向けスタッフが一丸 となって取り組めるようにしたい。

(文責:ケアサポートセンターほそぎ主任

木村 まり)

# **◎** 訪問看護ステーションほそぎ

# 1 概要

所属長名:石本 智枝

構成職員:看護師 6名

(常勤·非常勤)

理学療法士 5名(非常勤)

作業療法十

(常勤·非常勤)

1名(非常勤) 言語聴覚士

合計人数 15名

# 2活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

当事業所では、かかりつけ医の指示書にもとづい



て各専門職が生活の場に出向き利用者が同意した訪 問看護計画書に沿ってサービスを展開している。統 合により、精神科訪問の実績も多くなり、今年度の 訪問件数は564件/月であった。高齢・独居での自宅 生活継続希望の利用者が増えてきており、個別対応 やリハビリテーションを行うなど多職種で連携しな がら生活支援を行っている。

#### 2. 目標に対する達成状況

①個別性を尊重した質の高い看護サービスを展開す る。

カンファレンスなどで主治医などの多職種と協 働し個別的な看護の提供を行った。在宅看取りは 1名であったが、少しでも長く自宅生活を続けた いという意向を持つターミナルの方への訪問も多 かった。新型コロナウイルス感染症による影響を 受け後半は研修会への参加が少なかったが、今後 も自己研鑽に努めていきたい。

②安全性を考慮しながらリスクの早期発見に努め、 働きやすい職場づくりを行いながらチームケアを 継続する。

褥瘡発生リスクが高かったり、褥瘡を持つ利用 者が多い中でも、予防的な介入や早期に処置を行 うことで褥瘡の発生や悪化を防ぐことができた。 精神科訪問においても状態変化のアセスメントを

行いながら、医師などの多職種と連携をとり早期 に対応を行った。確認指導などの管理が行き届い ていないこともあったため、今後はマニュアルを 整理し、今一度働きやすい職場づくりに取り組ん でいきたい。

③効率的で安定した事業所運営を行い、地域づくり に貢献する。

退職や勤務異動により人員減となったが、ス タッフの頑張りがあり、新件獲得もできた。BC P委員会に参加できていないことがあったが、今 後は各自の防災意識の向上と地域づくりに向けた 関わりを持っていきたい。

# 3 今後の課題

- 1. 医療での訪問を中心とし、看護の質の向上と連携 を強めることができるよう、自己研鑽に努める。
- 2. 在宅部、事業所内で情報共有でき、何でも報告・ 連絡・相談できる明るい職場風土をつくっていく。

(文責:訪問看護ステーションほそぎ主任

石本 智枝)

# 🚱 細木病院訪問リハビリテーション事業所

# 1 概要

所属長名:リハビリテーション課長 藤本 弘昭

管理者名:橋田 寿恵

構成職員:理学療法士(PT) 7名

作業療法士(OT) 1名

言語聴覚士(ST) 1名(非専従)

合計人数 9名

# 2活動内容・目標に対する達成状況

1. 各種加算の取得

作業療法士が常勤となり幅広いサービス提供を行 うことで、修了者の37.5%を社会参加につなげるこ とができ、前年度より良い結果を出すことができ た。また、要支援者の身体能力維持向上も評価さ れ、次年度も社会参加支援加算、事業所評価加算が 取得できることとなった。

- 2. 在宅部門リハビリ専門職の役割を果たす 通所介護、グループホーム利用者や職員に対し、3 カ月ごとのアセスメントと運動指導などを行い、利 用者の身体機能維持向上、ADL向上に貢献できた。
- 3. スタッフ、他職種との連携

スタッフ間で利用者の目標共有やリハの進捗状況 を共有することで、統一したリハの提供が行え、早 期の修了や目標を達成することができた。また、リ ハ課内で入院部門と情報共有を行うことで当院退院 後から継続して訪問リハビリを利用される患者が増 加した。



4. 報・連・相の徹底

非常勤勤務者の介入時の提供時間の間違いが数回 あり、朝礼での訪問予定者の確認や声掛け方法の改 善を行った。

#### 3今後の課題

- 1. リハ部門においては少しずつ医療介護連携ができ るようになってきており、今年度は過去最高の実 績をあげることができた。退院後からシームレス なリハの提供を行える件数が増えてきていると思 われる。今後も継続して医療在宅連携を強化して
- 2. 目標設定を明確にし、利用者と共有することで、 効果的効率的なリハの提供を行う。アウトカム評 価を『見える化』し、利用者へのフィードバック をすることで、自立への意識を高め社会参加につ なげていく。

(文責:リハビリテーション課在宅担当係長

橋田 寿恵)



# **墾** ホームヘルパーステーション城西

# 1 概要

所属長名:横山 数恵

構成職員:介護福祉士 5名

> ヘルパー2級 3名 合計人数 8名

# 2活動内容・目標に対する達成状況 活動内容:

介護保険法に基づきケアマネージャーが作成した ケアプランをもとに個別援助計画書を作成し援助を 行っています。内容は生活援助(買い物・掃除など) と身体介護に分かれ(着替え・身体介護・入浴介助 など)、利用される方の在宅生活を支えています。 その他、障害福祉サービスにも対応しています。

# 目標に対する達成状況

目標1. 実績を意識し、地域に根差した事業所を目 指す。

評価 職員全員で新件調整に取り組み、訪問件数 を共有している。

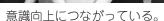
> 在宅部所属の事業所として、実績の積み重 ねが地域からの信頼につながるものと思わ れ、今後も新件調整に取り組んでいく。

目標2.介護サービスの質の向上

評価 職員の経験年数に合わせた研修計画を立て ている。

> また月例会などで職員全員が参加した伝達 講習も行っている。

> 伝達講習を受けることで、個々の職員の サービスを振りかえり、サービスに対する



目標3. 地域の一員として業務に努める。

評価 まっことネット細木の活動を通じて地域包 括ケアシステムに基づいた視点を養うこと ができ、日々の業務に対する意識改革や自 己成長につながっている。防災活動にも参 加し、得た知識は利用者へのケアに生かす ようにしている。

# 3今後の課題

- 1. 職員の実績に対する意識が変化し、全員が新件調 整に対して取り組むことができるようになってき ている。今後も今のペースを維持できるようにし ていく。
- 2. 新たな感染症や災害など、日常の突発的な事象に 対応できる知識や対処能力の養成が必要と思われ る。報告・連絡・相談を密にし、チーム力の充実 を図っていきたい。

また、そのためにも地域に必要とされる事業所つ くりを行っていく。

(文責:ホームヘルパーステーション城西主任 横山 数恵)

# **デイケアゆうゆう**

## 1 概要

所属長名:管理代行者兼務看護師:

入交 喜美子

1名

構成職員:理学療法士 1名

> 1名 作業療法士 正看護師 2名

11名 介護福祉十

言語聴覚士(非常勤) 1名

合計人数 17名

# 2活動内容・目標に対する達成状況

准看護師

1. 活動内容

要支援1から要介護5の介護認定を受けた利用者



が通所し、多職種で利用者一人ひとりの生活を基準 に生活目標を定め、リハビリテーション職員による 自宅訪問や退院・退所後の短期集中リハビリテー ション実施加算などによりスムーズな在宅生活への 移行を支援している。このほか、リズム体操・失禁 予防体操・□腔体操・転倒予防体操・筋力トレーニ

ング・屋外歩行を行い、身体機能の維持を図ってい る。また、月に1回おやつレクリレーションを行う ほか、その個人に合わせた調理訓練や、木工活動、 園芸活動なども個別で行っている。送迎・入浴・食 事サービスを行うとともに、絵画・華道・茶道など の趣味活動をとおして日常生活動作の回復を図り、 地域社会で元気に暮らせるようサポートしている。

#### 目標1. 健全で安全な事業運営

広報活動については、外部の居宅介護支援事業所 へのチラシ配布を行い、広報活動を行った。主任が 交代したこともあり、顔と名前を覚えてもらうとこ から始まったが、以前からチラシ配りを行ってくれ ていた経過もあり、そのおかげで連携も取りやす く、新規利用者38人中、15人が外部からの紹介で あった。

感染予防については、インフルエンザにかかる職 員も利用者さんもいなかった。3月以降は新型コロ ナウイルス感染症の予防のため、これまで以上に感 染対策を強化し、現在も引き続き対応している。新 型コロナウイルス感染症の影響により3月はお休み される利用者さんもいたが、一時的なものでありす ぐに回復できている。

目標2. 安全で信頼される質の高い介護・医療サービ スの提供と意見を言いやすい職場

職員全員が院内外の研修会に参加できた。また帰 りのカンファレンスでも多職種で気付いたことを話 し合い、情報共有することで一人ひとりの利用者さ んに合ったサービスが行えるよう取り組めた。

主任の交代やスタッフの異動も多くあり、大変な 部分も多くみられたが、古くからいるスタッフのサ ポートなどもあり、部署内の連携が取れるよう努力 は行えたと思われる。

新しいスタッフが増えたこともあり、話し合える 環境が十分でなかったかもしれないが、引き続きス タッフ間で話やすい環境づくりを行い、働きやすい 職場づくりを目指したいと考える。

目標3. 安心して生活できる地域づくりに向けた関わ

BCP委員を中心に定期的にシェイクアウトなど 行ったり、アクションカードを用いて常時携帯する など、日ごろより防災意識を高めるよう取り組んで いる。

まっことネットに細木ついては、全職員が交代で 当番に行き活動に関わるようにしている。また生き がい交流広場では食事づくりに職員1名が調理に参 加している。

これらの活動を継続していくことで地域の方々が 安心して生活できるようこれからも貢献していきた ()

# 3 今後の課題

- 1. 新型コロナウイルス感染症に伴う感染リスクを防 ぎ、職員、利用者から感染者を出さないよう感染 対策を徹底して行っていく。
- 2. 職員間で気付いたことなどを帰りのカンファレン スや詰所会などで共有し、インシデントやアクシ デントを起こさないよう、医療安全に取り組んで ()<0
- 3. 医療・介護を取り巻く情勢の変化に対応できるよ う情報を収集し、利用者の自立支援に向け取り組 み、必要に応じたリハビリテーションマネジメン ト加算や短期集中リハビリテーション実施加算の 算定など利用者に寄り添いながら、効率的な事業 所運営に努める。
- 4. 広報活動で情報を発信し、当事業所のことを多く の方に理解していただけるよう取り組み、新規利 用者獲得につなげていく。

(文責:デイケアゆうゆう主任 入交 喜美子)

# ・ディサービス赤とんぼ =

# 1 概要

所属長名:筒井 章恵

構成職員:管理者、相談員、介護福祉士兼務 1名

> 1名 看護師、機能訓練員兼務

准看護師、機能訓練員兼務 1名

介護福祉十 4名

介護職員 1名

介護アルバイト 1名

調理員 1名

運転手 1名

合計人数 11名



2活動内容・目標に対する達成状況

# 1. 活動内容

当事業所では認知症の診断を受けたご利用者が安 心して通ってこられるような場所を提供できるよう に心掛けている。ご利用者の方々に喜んでいただけるような外出レクリエーションやおやつ作り、お誕生日会、手芸、また季節にちなんだ行事も毎月開催している。昼食は調理員が毎回手作りをしており、デイサービスの前にある赤とんぼ農園の野菜も使っている。自然豊かな場所にある立地を生かし近所を散歩するなど、元気に過ごしていただけるよう工夫している。

#### 2. 目標に対する達成状況

①安定した事業所運営を継続していく。

送迎時よりご利用者の体調や変化には気を付け、他事業所と連携を図りながら早めの対応を行ったり、外部の居宅介護支援事業所に出向いての広報活動を定期的に行ったりするなど実績の安定に努めた。

②常に介護専門職としての意識を持ちながらサービスを提供する。

介護職としての意識は職員個々には持っており、コミュニケーションも取れているが連携したサービスの提供には十分ではない所もある。自己

研鑚や研修に積極的に参加していき、意識を高めていきたい。

③地域に寄り添い信頼される事業所を目指す。

行事や野菜作りを通しての地域住民との交流や介護に関する相談窓口になるなど当事業所の存在が地域に周知されてきたように思われる。今後も地域住民と共に防災活動を継続して取り組み、地域に寄り添い信頼される事業所を目指して取り組んでいきたい。

# 3今後の課題

- 1. 高齢のご利用者が増えているので、異常の早期発見・対応ができるよう職員間で連携した関わりを行い、ご利用者とご家族が信頼・安心して利用できる事業所を目指す。
- 2. 職員全員が同じ方向を向き、責任と自覚を持って ご利用者のケアに関われるよう研修や勉強会に参 加することで、個々のスキルアップをしていきた い。

(文責:デイサービス赤とんぼ主任 筒井 章恵)

# **デイサービスさくらんぼ**

# 1 概要

所属長名:相談員・看護師兼務 山口 三喜

構成職員:介護福祉士 4名

看護師2名准看護師1名介護アルバイト2名調理員1名運転手1名合計人数12名

## 2活動内容・目標に対する達成状況

# 1. 活動内容

「遊びをあきらめない。」をキャッチコピーとして掲げ、ご利用者に寄り添い・同じ時間を一緒に楽しむことを目指し、職員全員で取り組んでいる。利用者の高齢化や認知症状の進行により段々と重度化傾向が見られるが、職員一同個別ケアの重要性を意識付け、介護の質を高めるよう日々研鑽と努力を積み重ね症状に合わせた対応を心掛けている。

#### 2. 目標に対する達成状況

①認知症介護について知識や理解を深めサービスにいかしていく。

利用者の高齢化と介護の重度化が進み、認知面の対応もより個別化したものが必要となってきている。認知症介護では個々の対応の難しさも感じることがあるが、職員は研修を受け、知識を習得



したり、物事の考え方を含めて、互いに情報共有 していくためのミニカンファレンスを毎日行って いる。

また、令和元年12月~令和2年1月には、令和元年度厚生労働省老人保健健康増進等事業「認知症患者及び家族支援における認知症看護認定看護師等の活用に関する調査研究事業」の一環である「認知症看護認定看護等によるサービス提供施行事業」に参加した。近森病院から老人看護専門看護師と精神看護専門看護師の訪問があり、専門的視点からのアドバイスなど参考意見をもらい当事業所内のケア基礎マニュアル作成やケアの再確認にもつなげることができた。

②職員間の連携を深め事務連絡や、利用者に状況報告を抜かりなく行う。

利用者・家族から体調や気付きを少しでも多く 聞く姿勢を日々意識付け、利用中の状態観察を

行った。家族やケアマネジャーへの情報提供で は、職員同士の報・連・相を基本とし、職員が一体と なり関わっていった。特に職員間は、朝・夕のミ ニカンファレンス時の報・連・相を重視して、職員 個々が努力し情報共有への配慮を心掛けることが できた。それにより事故防止にもつなげることが できたと思うので、今後も継続して行っていく。

③地域防災や、交流の場としてDSさくらんぼを位 置付けていけるよう環境を整える。

グループホームさくらんぼや地域の方との防災 合同訓練は、津波避難ビルの設置備品の初展示会 や非常食の試食会、本番さながらの訓練を実施し た。参加した方々から「臨場感や危機感が体験で きて良かった」との高評価が聞かれ、津波避難場 所としての役割も地域の方々に知ってもらえるよ い機会ともなった。地域の方も高齢になり行事へ の参加が以前より少なくなってきているが、地域 との関係性を継続するためにも今後も定期的に開 催していきたい。

# 3 今後の課題

- 1. 利用者の高齢化と介護の重度化が進み、ショート ステイ利用や長期入院になるケースが多くなって きている。できるだけ利用者の体調変化に留意し キャンセルを振替利用につなげ、業績につなげる よう職員一同で努力していきたい。
- 2. 長期戦になりつつある新型コロナウイルス感染症 の対策予防を継続し、安全安心して通所できる環 境を提供しながら地域と定期的な防災訓練などを 含め、関係性を図っていく。
- 3. 利用者全員・家族・地域の方・専門職などの方々 と集い合う場所として、認知症カフェ「さくらん ぼカフェ」を平成30年度まで行ってきた。現在は 休止をしているが、認知症を正しく理解しお互い に支え合いができる町づくりに向けて認知症力 フェを再スタートする必要があると考える。

(文責:デイサービスさくらんぼ主任 山口 三喜)



# **№** グループホーム赤とんぼ

# 1 概要

管理者名:齋藤 顕良

構成職員:介護支援専門員:計画作成担当者 1名

> 看護師 1名

> 介護福祉十 7名

> ヘルパー 2名

> 合計人数 11名

## 2活動内容・目標に対する達成状況

### 1. 活動内容

要介護1~5の利用者が入居しており、各利用者 の体調や状況に合わせて、ドライブや買い物などの 外出支援や、室内で行える家事活動・レクリエー ションが行えるように対応している。個別での対応 が多くなっており、落ち着いて過ごせるための環境 づくりや、レクリエーションの内容を工夫して行っ ている。また、ボランティアによる演奏や歌のコン サートなどのイベントもあり、当事業所での生活 が、自分らしく楽しいものになるように努めてい <。

#### 2. 目標に対する達成状況

①利用者や家族から、安全で信頼される質の高い介 護サービスを提供する。

利用者のADLやその時の状態に合わせた対応 を行い、その都度、担当医や看護師、家族などと 連携を行った。認知症により体調や心身の不調を 自分で訴えることができない方もおり、体調変化 の早期発見が重要である。入院された際にも、担



当医や看護師、患者サポート室などの関係機関と 連携を行い、早期の退院支援も行った。

②家族や地域の方と良好な関係を気付き、地域に愛 される事業所を目指す。

地域で行われている行事には積極的に参加し、 当事業所で行う秋祭りなどの行事も地域の方から たくさんの参加があった。当事業所での取り組み を、家族や地域の方にも知ってもらえるように、 今後も防災訓練や、畑作業、赤とんぼ祭りなどの 行事を継続し、宣伝活動を行っていく。

③専門職として、知識・技術の向上を図る。 全職員が院内外の研修に参加した。今後も、介 護や医療に関する研修以外にも積極的に参加し、 知識や技術の向上に努めていく。

#### 3 今後の課題

昨年度は、4名の利用者が持病の悪化や、急変など の理由により退居となった。認知症以外にも、高血圧 や糖尿病・心不全などの病気を患っているので、利用 者と家族へのACPを実践し、担当医や看護師などと 連携を行い、少しでも穏やかな生活が今後も継続して 送れるように支援していく。また、職員も専門職とし ての自覚を持ち、知識や技術などの向上に励み、日々 の認知症ケアにつなげていきたい。

(文責:グループホーム赤とんぼ主任 齋藤 顕良)

# **№** グループホームさくらんぼ

# 1 概要

所属長名:小原 純子

構成職員:管理者:介護福祉士 1名

計画作成・介護支援専門員・介護福祉士

1名 計画作成・介護福祉士 1名 介護福祉士 12名 看護師 1名 ヘルパー 2名 調理 1名 合計人数 19名

# 2活動内容・目標に対する達成状況

## 1. 活動内容

ご利用者との関わりを多く持ち、体操・レクリ エーションもマンネリ化しないよう職員が交代で関 わり工夫をしている。活動量の向上や認知症予防に も重点を置き、生きがいのある生活ができるよう取 り組んでいる。当事業所でもご利用者の高齢化が進 んでいる中、ご利用者が元気に100歳のお誕生日を 迎えるという大変嬉しいニュースもあった。2 F 3 Fのご利用者やご家族の参加もある中、賑やかなお 誕生会を開くことができた。それが他のご利用者に も良い刺激となるよう今後もご利用者の体調管理に 努め、当事業所での生活をできるだけ長く続けるこ とができるよう支援していく。

### 2. 目標に対する達成状況

- ①健全で安定した事業所運営
- ・在宅部会での事業所の実績を毎月職員会で伝達し 全職員で協力し入院・退居時は早め早めの対応に より収益維持に取り組むことができた。
- ・運営の危機意識を持ちながら業務に取り組み、当 院と医療連携を図り収益増に努めた。
- ②医療との連携を密に図り、ご利用者が安心・安全 に生活できるサービスの提供
- ・個々の自己研鑽で研修に参加し、参加できなかっ た職員には伝達を行い専門職としてサービスの質 向上に努めている。
- ・ご利用者の異変時は、積極的に医療機関と連携し



早め早めの対応により重度化予防に努めている。

- ・高齢化に伴い下肢筋力の低下が著明となり、介助 の必要なご利用者が複数おり、夜勤職員のみの朝 の起床介助時に転倒事故が多く発生しているた め、当院訪問リハビリテーション職員介入のも と、介護職による機能訓練を実施し、下肢筋力維 持向上に努めている。その結果、生活機能連携向 上加算の算定ができている。
- ③地域の中の事業所として「人が集まる介護事業所」 を目指し情報を公表していく
- ・ブログや地域の交流を積極的に行い、交流の輪が 広がっている。
- ・耐震工事が終了し、令和元年6月には、津波発生 時における緊急避難場所としての津波避難場所と して、施設の使用に関する協定を高知市と締結し た。当事業所の屋上、4階職員休憩室および会議 室の合計66.6㎡が使用場所として指定された。

# 3 今後の課題

年度末には高知県内でも新型コロナウイルス感染症 の感染拡大が起こり、ご家族との面会禁止や外出の自 粛などご利用者が今まで経験のない生活となった。 徐々に元の生活に戻りつつあるものの、新しい生活様 式を取り入れ施設で感染が絶対起こらないよう、全職 員で気を抜かず感染予防に今後も努めていく。

またACPを全職員で理解し、不安なく看取りが実 施できるよう研修参加や多職種との連携に努め、安 心・安全な施設づくりを目指していく。

(文責:グループホームさくらんぼ主任 小原 純子)



# **喚 グループホーム「にこにこ西町」「のびのび西町」**

# 1 概要

所属長名:藤野 めぐみ

構成職員:

管理者(介護福祉十兼務) 1名

1名(兼務) 計画作成(介護支援専門員) 計画作成(介護福祉士) 1名(兼務)

11名 (兼務2名) 介護福祉士

ヘルパー 6名 合計人数 20名



# き、専門的知識の習得や質の向上が図れた。

2) 安心して生活できる地域づくりに貢献し、信頼 される事業所運営を行う。

にこにこ西町は町内会の会計監査、のびのび 西町は町内会の班長を務め、高知市7河川一斉 清掃への参加や不燃物当番を担ったり、近所の 美容室・肉屋・魚屋を利用したりと地域住民と しての役割を持つことができた。年に2回の消 防訓練やシェイクアウト訓練・トランシーバー での被災状況訓練の実施、県政出前講座開催の 際には地域の方4名が参加された。秋にはフラ ダンスとお茶会を開催し、ご家族や地域の方の 参加もあり楽しまれ地域の一員として関係性を 築いている。

3) 健全で安定した事業所運営ができる。

業務改善を行い利用者一人ひとりに関わる時 間を持ちケアの充実が図れた。令和元年6月よ り当院歯科医師と歯科衛生士の介入による口腔 衛生管理体制加算を算定開始し、同年12月から は当院医師による訪問診療も開始となった。こ れらにより医療体制の充実や外来受診の負担軽 減につながった。

# 2活動内容・目標に対する達成状況

#### 1. 活動内容

日々の生活の中で入居者さんが役割を持ち、ゴミ 捨てや洗濯畳みなどの家事活動に参加し、散歩時に は「地域見守リパトロール」や防災訓練では地域の 方の参加を呼び掛け、存在感のある事業所活動を共 に行ってきた。

またご家族や地域の方が参加できる行事も企画し お花見やお茶会ではフラダンスを楽しまれ、ご家族 や近隣の方との交流を深めることができた。定期的 に防災訓練を実施、災害用備蓄品の確認など職員全 員が防災への意識を高め、災害時に備えて対応でき るよう取り組んだ。

#### 2. 目標に対する達成状況

1) 入居者・ご家族のニーズに応じた質の高いケア を提供できる。

家族との交流を大切にしており、面会時や体 調不良時など、適宜状態を報告し要望や意向な ど確認している。地域運営推進会ではご家族、 町内会長、民生委員、地域包括支援センター、 担当看護師の参加を呼び掛け、ご意見や要望を いただき職員全員で改善への取り組みを実施し てきた。

また、令和元年12月~令和2年1月には、令 和元年度厚生労働省老人保健健康増進等事業 「認知症患者及び家族支援における認知症看護 認定看護師等の活用に関する調査研究事業」の 一環である「認知症看護認定看護等によるサー ビス提供施行事業」に参加した。近森病院から 老人看護専門看護師と精神看護専門看護師の訪 問があり、認知症ケアに関する助言をいただ

# 3 今後の課題

加齢に伴い、身体機能の低下・認知症状の進行が見 られますが、ご利用者一人ひとりに寄り添い定期的に ご家族の意向も確認しながら、最期まで安心してホー ムでの生活が送れるよう専門職として職員のスキル アップを図りたい。利用者・ご家族・職員が共にグルー プホーム西町で良かったと感じていただけるよう努め ていきたい。

(文責:グループホーム西町主任 藤野 めぐみ)



# № グループホーム ハッピー万々

# 1 概要

所属長名:堀本 佐知(介護福祉士)

構成職員:介護支援専門員(介護福祉士) 1名

(介護福祉十) 1名 計画作成 1名 看護師

介護福祉士 9名

実務者研修修了者 1名 ヘルパー 6名

合計人数 19名

# 2活動内容・目標に対する達成状況

- 1. 個別支援を行うことで「その人らしい生活」を継
  - ①利用者のリスクを的確に判断し「インシデント・ アクシデント」を最小限にできる職場づくりに努 めた。前年度の発生件数はヒヤリハット1件、イ ンシデント11件、アクシデント1件で本年度はヒ ヤリハット3件、インシデント4件、アクシデン トの件であり、職員の対応力と連携の向上だと感 じる。
  - ②生活機能向上連携加算算定と口腔衛生管理体制加 算算定に取り組み専門職の助言をいただくことに よって職員のスキルアップにつながり、入居者の 生活の質の向上が目指せたと思う。
- 2. 入居者と共に災害時の対応を実践し、行動に移せ るように訓練を行う。
  - (1)訓練の評価・課題などを検討することによって、 個々の役割を認識でき、対応力を身に付けること ができたが、全員ではないため今後も継続した取 り組みが必要である。



- 3. 家族・地域・他事業所との交流を深める。
  - ①外部評価・家族アンケート結果をふまえて、コミュ ニケーションの大切さを感じ、入居者の状態報告 など、家族対応の内容は職員間で共有に努めた。
  - ②他事業所での催し物や地域推進運営会議には満遍 なく入居者が参加できた。

# 3今後の課題

①生活機能向上連携加算算定および口腔衛生管理体制 加算算定への取り組みは大きな成果として職員全体 のスキルアップにつながった。専門職の助言によ り、気付きを得ることができ、入居者の身体・精神 面にも効果がみられた。

今後も継続することで、結果として「健康で安心し た生活 を提供できるように努める。

②グループホームの「重度化・看取りに関する指針」 をもとにACP (アドバンスケアプランニング)を 職員が十分に理解をして、本人・家族への説明・意向 の確認が柔軟に行えるように、職員間で研鑽する。

(文責:グループホーム担当係長 グループホームハッピー万々(兼務)

堀本 佐知)

# **№** デイサービス いちご学校

7名

## 1 概要

所属長名:嶋内 良江

構成職員:管理者 看護師(兼務) 1名

1名 看護師 介護福祉士 4名 理学療法十 1名 作業療法十 1名

合計人数

2活動内容・目標に対する達成状況

# (活動内容)

いちご学校は、地域密着型デイサービスとなり3年 が経過した。収益が低迷している中、今年度は収益増





加に向けて業務改善やサービスのマンネリ化改善に向 けて職員一丸となり取り組んできた。

法人内や地域の居宅介護支援事業所から新規利用者 の紹介もあり、収益増加を達成し事業所を継続するこ とができた。

### (目標に対する達成状況)

1. 地域に密着した事業所運営

地域の方からの百歳体操を始めたいとの申し出を 受け、地域住民主体による百歳体操を1 F交流ス ペースで令和元年12月より開始することができ、デ イサービスの利用者も参加させていただいている。 また、駐車場の一角にあるいちご農園では、作業の 一環として利用者と共に育てた野菜を良心市で地域 の方に安値で販売し喜ばれている。一宮ふれあいま つりへの出展も毎年継続している。地域住民の方々 に向けた行事をイチゴいちえと共同し1カ月に1度 のペースで継続しているが、近隣から参加してくだ さる方は少数にとどまっている。今後は現在のイベ ントに加え、地域のニーズに合った取り組みを立案 していく必要があると考える。

2. 看護・介護の専門性と接遇マナーの向上

介護福祉士、看護師、理学療法士、作業療法士が 協働して、利用者の個別性を重視し、参加と活動に 力を注いできました。各々の専門性を発揮し、知 識・技術を共有できるよう部署内での勉強会や研修 後の伝達講習を継続している。

また、接遇マナーでは、アンケート結果において

言葉遣いが丁寧、笑顔で接してくれるなどと、一定 の評価を得ている。

3. 利用者に寄り添い、個々のニーズに対応した介護

日ごろから職員間の情報共有を図るため、連絡 ノートの活用やミーティングを実施し、利用者の状 態変化に応じたケアを実施できるよう努めてきた。 また、情報共有を密に行うことで事故防止を図って いる。利用者の希望を作業レクリエーションやおや つレクリエーションに取り入れ、喜ばれるサービス を提供できるよう柔軟に対応している。利用者の状 態に合わせ、時間短縮での利用も可能な限り対応し ている。

## 3 今後の課題

いちご学校の周辺地域である介良、高須、大津地区 は通所系サービスの密度が高く激戦区となっている が、広報活動を積極的に行い、安定した事業を継続し ていきたいと思う。また地域で選ばれるデイサービス を目指し、在宅生活を支援するデイサービスとしての 役割を果たしていけるよう取り組んでいきたいと思

(文責:デイサービスいちご学校主任 嶋内 良江)

# **🎨 サービス付き高齢者向け住宅「イチゴいちえ」**

## 1 概要

所属長名:野口 優子

構成職員:管理者 看護師 1名

> 介護福祉士 2名 ヘルパー 4名 学生(アルバイト) 1名 合計人数 8名

# 2活動内容・目標に対する達成状況

#### (活動内容)

入居者様が安心・安全に生活できる環境づくりとと もに、6月から細木病院医師による訪問診療を開始 し、体調面でのサポートに努めた。また地域住民との 交流を図るために定期的にまっこと出前講座を開催 し、津波避難ビルの周知に向け住民参加の合同防災訓 練も実施した。

#### (目標に対する達成状況)

- 1. 安定した事業所運営をする。
  - ・各事業所への広報活動を継続し、満室を維持する。
  - ・事業所の実績推移を職員間で共有し、職員一人ひ とりが経営に参画する意識を持つ。

#### (評価)

病院や居宅へ空室状況をお知らせしたり、また



電話での問い合わせなどもあり新規入居者を獲得 することができ、令和元年5月には満室となっ た。退去後もすぐに次の入居につなげるように努 め、稼働率98%以上を維持している。

毎月の実績を職員一人ひとりが意識し、入居者 が増え忙しい中にも職業人としての責任と自覚を 持って業務に取り組んだ。

- 2. 看護・介護の専門性と意見を言いやすい職場づく りをする。
  - ・院内外の研修へ積極的に参加し、スタッフ個々の スキルアップに努める。必要時、質の高い看護・ 介護を提供する。
  - ・コミュニケーションスキルの向上を図り、職員間 の良好な人間関係を築く。
  - ・マニュアルを遵守し、事故を未然に防ぐ。

#### (評価)

院内研修には全員が交代で参加し、伝達講習することで知識を深め、日々の業務に役立てることができた。しかし外部研修への参加が少なかったので自己研鑽のために参加を促していきたい。

職員の移動があり業務が煩雑にならないように、連絡ノートの活用や日々の意見交換で情報共有を行い、事故防止に努めた。

- 3. 安心して生活できる場の提供、地域づくりに向けた関わりを持つ。
  - ・入居者・家族の意見を取り入れ居心地の良い場を 提供できるようにする。
  - ・定期的にまっこと出前講座を開催し地域住民にも参加を呼びかける。
  - ・引き続きBCPの見直しと作成・訓練を行う。 (評価)

運営懇談会で出された意見や日々の入居者から

の要望に対応し、安心して生活できる環境づくりができた。まっこと出前講座を定期的に開催し、近隣へのチラシ配布などで地域住民の参加もみられるようになった。令和元年12月の防災訓練では民生委員や地域住民など総勢27名が参加し、合同で津波避難訓練や備蓄品の説明、応急給水の出前講座などを実施した。

# ③今後の課題

入居者の高齢化が進み、身体機能・認知機能の低下により介護負担も増えており、訪問診療の定着と介護型施設への転居がスムーズに行えるよう各事業所との連携強化に努める。

(文責:サービス付き高齢者向け住宅 イチゴいちえ主任 野口 優子)

# 🌯 精神障害者グループホーム「介援隊」「やまもも寮」「介援隊2」 =

## 1 概要

所属長名:坂本 万理

構成職員:管理者兼サービス管理責任者 1名

世話人 6名

生活支援員 1名

(患者サポート室兼任)

合計人数 8名

### 2活動内容・目標に対する達成状況

1. 利用者の権利を擁護し、グループホームで安心して生活を送れる支援を提供する。

権利擁護を学ぶ研修会へ参加することができた。 利用者が安心して地域生活が送れるために必要な社 会資源や制度の情報収集を行い、利用者・職員間で の情報共有ができた。

2. 各利用者の障害や疾患の特性を理解し、個別性を 重視した支援を行う。

職員は日々の利用者との関わりの中で、障害や疾患の特性を理解することを意識的に行った。個別性を生かした支援内容を検討し、個別支援計画に反映させていくことができた。長期入院患者の地域移行支援に向けて多職種と連携し、精神障害者地域移行特別加算(1年以上の長期入院患者がグループホームへ入所した際の加算)を算定することができた。利用者の特性を理解し、入所後在宅生活で起こるさまざまな不安なことへ支援を行ったことにより利用者がグループホームで安定した生活を継続することができた。

3. 在宅部のBCP活動の取り組みを学習し、災害時に備えて今後できる準備をしていく。 BCP活動の取り組みに参加しながら、利用者・



職員の防災意識を高めることができた。また、グループホームの中でできる転倒防止などの防災対策を実施することができた。

## 3 今後の課題

- 1. 障害者の人権や権利についての研修会に参加する こと。また、利用者が安心してグループホームで の生活を送るために必要な社会資源や制度につい て今後も利用者・職員間で情報共有の機会を増や す。
- 2. 利用者のセルフケア能力向上のため、日課表・体 重測定表・万歩計表の活用が継続できている。各 利用者の能力に応じた内容になっているか、定期 的に利用者・職員間で確認し改善していく。
- 3. 引き続きBCP活動への取り組みを学習し、利用者・職員の防災意識を高めていく。今後、BCP活動の中で、各グループホームのアクションカードを作成し災害訓練に活用する。

(文責:グループホーム管理者・サービス管理責任者 坂本 万理)



# 

# 1 概要

これまで高知市より委託を受け、高知市北部地域高 齢者支援センター城西出張所として活動してきたが、 令和2年2月より高知市上街・高知街・小高坂地域包 括支援センターとして運営開始となり、看護師を増員 し3名の職員で新たな体制となった。上街・高知街・ 小高坂地域の住民の皆さまの身近な相談窓口として、 介護や生活に関する全般的な相談対応、権利擁護、虐 待防止支援、介護予防活動の普及・啓発、地域のネッ トワークづくりなどの業務に携わっている。

所属長名:在宅部長 廣井 三紀

構成職員:看護師:介護支援専門員 1名

> 歯科衛生士·介護支援専門員 1名

> 介護福祉十・介護支援専門員 1名

> 合計人数 3名

# <担当地区(令和2年4月1日現在)>

	総人口	高齢者 人口	65歳以上 世帯数	独居 高齢者数	高齢化率
上街·高知街· 小高坂地区	17, 471	5, 634	4, 378	2, 522	32.00%

# <対応件数>

相 談 延べ件数	訪問	来所	電話	会議	同行
2, 898	974	154	1, 565	17	177

## 2活動内容・目標に対する達成状況

- 1. 知識や質の高いコミュニケーションスキルを身に 付け、住民からの相談に応じ支援する。
  - ・地域包括支援センター開設に向けた、さまざまな 研修を受け、認知症や虐待、成年後見制度などの 相談に対応できるようになった。
- 2. 地域の高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮ら し続けられるよう、住民による地域での支え合い の仕組みを住民とともに行う。
  - ・小高坂しばてん祭りの開催支援や医療生協小高坂 支部・社会福祉協議会と協働で社会資源マップを 作り、地域課題について話し合いを行った。
  - ・新屋敷サロンの継続支援を行った。
  - ・独居や認知症があり、介護予防の普及啓発の充実 に努める。
  - ・いきいき百歳体操の継続支援や出前講座を4回 行った。
  - ・いきいき百歳体操会場でミニ健康講座を行った。
  - ・独居で支援者がおらず、精神疾患や認知症を抱 え、経済的に困窮したり、足の踏み場がないよう



な自宅環境となって生活が成り立たなくなってい る方たちに対し、支援の受け入れが困難な中、地 道に関わりを継続し、医療機関や介護サービス、 地域の見守り支援につなげて、在宅生活が継続で きるよう取り組めた。

- 3. 介護予防の普及・啓発に努める。
  - ・いきいき百歳体操の継続支援や出前講座を4回
  - ・いきいき百歳体操会場でミニ健康講座を行った。
- 4. BCPの見直しを継続しながら、災害時にできる ことを予測し、準備を行う。
  - ・八反町西町で高知市や社会福祉協議会、地域の自 主防災組織と協働で地域支え合いマップを作成 し、要支援者の把握を行った。

# 3今後の課題

- 1. 支援者のいない独居の認知症高齢者や精神疾患の 事例や、孤立した家庭環境の中で虐待疑いの事例 が増えてきている。平成29年4月~令和元年11月 までの相談支援の実態を分析した結果、生活上の 課題を抱える方が地域で生活していくためには地 域住民の力が欠かせないことが明らかとなった。 地域住民の力を引き出すために、相談窓口として の地域包括支援センターの役割についての周知活 動を実施し、認知症高齢者や虐待事例の早期発 見・早期対応を充実するため、地域住民への認知 症理解を促進する働きかけや近隣からの情報発信 の協力の推進に取り組むとともに、地域住民の助 け合いの関係性を築き、孤立を予防し、地域・行 政機関と協働して高齢者の権利擁護・虐待予防に 努めていきたい。
- 2. 地域包括支援センターとしての機能を発揮するた め、地域ケア会議を開催し、地域の課題や実態の 把握、解決に向けた話し合いに取り組み、地域住 民・多職種間のネットワークづくりにつなげてい きたい。

(文責:上街・高知街・小高坂地域包括支援センター 主任 筒井 千津子)

# 宣 こころ診療部



# 精神科



副院長・こころのセンター長 吉岡 隆興



こころのセンター診療部長 徳岡 雅嘉



こころのセンター 医局長・心療内科長 岡村 龍一郎



精神科 橋田 侑樹

# | 1 | 活動内容・目標に対する達成状況

細木ユニティ病院は、平成31年4月に、細木病院こころのセンター(細木病院北館)として、細木病院に統合されました。それに伴い、北2病棟(一般、療養型病棟)は令和2年3月に閉鎖され、同病棟の入院患者は、南館や北館の他の病棟に転棟となりました。また、統合と同時に導入されました電子カルテには、多くの問題点も認められ、苦悩しながらも、よく使う機能には、次第に習熟もしてきております。

本年度は、院内でも新型コロナウイルスの感染者が出たことで、大きな脅威を感じたことであったが、院内での感染拡大は認めなかった。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う感染対策を行う上で、身体科と合同で対策を取ることができたことは、細木病院に統合されたことのメリットでもあったと思われます。

北3病棟は、急性期治療病棟の施設基準を継続し、 患者さんの受け入れを増やすよう努力してまいりました。また、高知県精神科救急の輪番に参画しております。

令和元年度の精神病床での統計では、平均入院患者数は161.0人で、病床利用率は、平成30年度は平均85.8%でしたが、令和元年度は平均87.5%まで上昇してきております。

平均在院日数は、精神病床では286.9日で、以前より 長くなってきております。

令和元年度には、細木病院より2名(のべ3回)の 研修医が当院で精神科の研修を行いました。 平成31年4月より、橋田侑樹先生が精神科常勤医師 として着任されました。また、平成31年4月より、北代 晶帆先生が精神科非常勤医師として着任されました。

筆者といたしましては医学生時代からともなります、当院にも長年の間、ご尽力とご指導をいただきました、池田久男先生は、令和元年6月に退職されました。

平成4年から27年以上にわたりまして、多大なご貢献をいただき、大変ユニークでもあられました、弘井正先生は、令和元年8月に退職されました。

非常勤で勤務されていました、永野孝昌先生は、令和元年8月1日に精神科常勤医師として着任され、ご尽力いただきましたが、令和元年12月31日に退職されました。

また、非常勤で外来にてご尽力いただきました、須 賀楓介先生は、令和2年3月に退職されました。

## 2 今後の課題

細木病院に統合後、精神科と他の診療科との連携は 良好と思われるが、ケース自体の特殊性もあって、対 応に苦慮する例も見受けられる。また、新型コロナウ イルス感染症の再度拡大流行も予想される。今後も、 他科との連携、感染対策に一層の留意をしながら、地 域医療に貢献をしていきたい。

## 3常勤医師の氏名

吉岡 隆興

德岡 雅嘉

岡村 龍一郎

橋田 侑樹

弘井 正

(平成4年4月1日~令和元年8月31日:退職)

永野 孝昌

(令和元年8月1日~令和元年12月31日:退職)

## 4 非常勤医師の氏名

池田 久男

(平成15年11月1日~常勤。平成30年1月16日~ 令和元年6月15日:非常勤。退職)

北代 晶帆(高知大学より派遣)

(平成31年4月1日~)

須賀 楓介(高知大学より派遣)

(平成30年10月26日~令和2年3月31日:退職)

小南 博資(平成25年8月7日~)

永野 孝昌

(平成29年4月22日~令和元年7月31日) 樫林 哲雄(高知大学より派遣) (平成31年1月8日~)

小松 静香(高知大学より派遣) (平成31年4月1日~令和2年3月31日:退職)

(文責:医局長:心療内科長 岡村 龍一郎)







副院長・こころのセンター 内科部長 松田 幸彦

# |1||活動内容・目標に対する達成状況

令和元年4月から細木ユニティ病院は細木病院と統 合して細木病院こころのセンターとして再出発するこ とになった。統合にあたり電子カルテ導入が必須とな り、診療業務内容には大きな変化はないが、手続き業 務内容が大きく変化した。このシステム再構築(ここ ろのセンター様式)がこの1年の最大目標となった。

元来、精神科医と協力して患者の早期回復・状態維 持を図ってきたが、この業務一つとっても、従来の口 頭連携では不適切と指導され、電子カルテに「対診依 頼」「対診返事」を記述せねばならない。新しいシステ ムを導入したときは辛いものだと覚悟していた以上の しんどさがあった。いまだ電子カルテのありがたみを 実感する場面に遭遇することはなく、達成感もなく疲 労感がのしかかった1年であった。

#### 2 今後の課題

病院統合・電子カルテ導入の大イベントのため「昨

年の今後の課題」が「今年の今後の課題」にずれ込ん でしまった。よって、重要なことであるから再度掲載 することとする。

「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドラ インー人工的水分・栄養補給の導入を中心として一」 は平成24年に日本老年医学会から、「人生の最終段階 における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラ イン」は平成30年(改訂版)に厚労省から「高齢者の 終末期の医療及びケア」についての指針が報告されて いる。しかし、医療スタッフにおける周知・利用は当 院のみならず全国的に滞っているようである。「そん な指針なんて知らない」という医療従事者が結構存在 する。医療者側がこのような状況であるので、患者・ 家族の上記ガイドラインの認知はさらに後れを取って いることと考える。そのような患者・家族と今後どの ようにして接していくかが、今後の高齢化社会におけ る大きな課題であると考えている。

## |3|常勤医師の氏名

松田 幸彦

#### 4 非常勤医師の氏名

仁尾 裕(月水金担当)

(文責:副院長・内科部長 松田 幸彦)







細木 弓子

#### 1 活動内容・目標に対する達成状況

平成31年4月に細木病院と細木ユニティ病院の再統 合により、歯科への対診依頼が増加しました。入院中 の患者さんご本人より、歯科医院に向かうことができ ず、入院している間に歯科診療が受けられた、と言う 喜びの声も聞かせていただいております。患者さんの 増加に伴い、往診対応では時間的に対応しにくくな



り、同時に現診療室が手狭で、十分な診察ができない ため、令和元年9月に昔の細木ユニティ病院検査室跡 へ移転しました。11月21日には、歯科ユニットの導入

にこぎつけ、診療室がリニューアルしました。

一般病棟の新館や、南館へと診療範囲が拡大し、各病棟スタッフの皆さまのご協力のお陰で、身体的に移動可能な患者さんは歯科診察室までお越しいただき、診療の効率化を図ることができました。各病棟の主治医、看護師、コメディカルの方々には、ご配慮とご尽力に心から感謝申し上げます。

同時に、歯科医師認知症対応向上研修も受講終了 し、認知症の方々の依頼があれば、積極的に診療に当 たっています。また、施設基準を満たすための研修会 への参加、依頼の多い総義歯、歯周病、悪性腫瘍など の研修会などへも参加し、自己研鑽に努めています。

受付からレセプト業務までのシステム構築には、まだ問題点が多く残され解決できていません。いまだ歯科のみで行っておりますが、令和2年度には医事課の積極的なご協力を得て、治療を希望されている多くの

患者さんの診察に携わりたいと思っています。

### 2 今後の課題

歯科診療と、それ以外の事務作業の分離化による診療数の増加を図る。患者増加に伴い、適切に対応するため、歯科ユニットの回転率の向上。医事課と連携を密にし、歯科医、歯科衛生士が各々の業務に専念できる環境を整える。今後、周術期の患者さんの診療に寄与したい。また、パノラマCTの導入も考慮している。

(令和2年10月導入)

### 3常勤医師の氏名

歯科医師 細木 弓子

(文責:歯科医師 細木 弓子)

# ≧ こころ看護部

### 1 概要

所属長名:岡崎 郁子 構成職員:看護師 1名 合計人数 1名

### 2 2019(令和元)年度 目的・目標

- 1. 細木病院看護部と協力し、患者、家族、地域の皆 さまに信頼していただける看護・介護を提供する
- 2. 新細木病院の経営安定・強化に向けて積極的に参 加する
- 3. 働きやすく、働き甲斐のある環境づくりを目指す

# 3目標に対する取り組み

- 1. 平成31年4月、細木病院と再統合し、電子カルテ 導入や各種委員会は合同開催など新たな1歩を踏 み出した。電子カルテ導入時は混乱したが徐々に 慣れ、細木病院看護部との連携を強化し、より質 の高い看護・介護ケアを提供するためにマニュア ルを活用し取り組んだ。医療安全について内服薬 管理方法によるインシデントや転倒によるアクシ デントが発生し、各部署や委員会にて原因分析や 業務改善を実施しスタッフ間に周知を図り再発防 止に取り組んだ。院内感染では、病棟でノロウイ ルスによるアウトブレイクもあり、入院受け入れ 中止や面会制限などで対処した。また、新型コロ ナウイルス対策に患者・家族の方々に面会制限な どのご協力のお願いをした。看護教育や看護委員 会の運営や指導は教育担当副部長が中心となって 実施してきた。接遇および療養環境面において、 患者・ご家族よりご指摘やご意見をいただき、各 部署でカンファレンスを行い接遇意識の向上や業 務改善に取り組んでいる。
- 2. 部門間との連携を図り、年間病床稼働率85.2%の



こころのセンター 看護部長 岡崎 郁子

目標として取り組んできた。こころのセンター内 では患者・職員の連携を図り経営意識をもって取 り組み目標達成はできた。病院全体として今年度 は83.9%と目標達成はできなかった。令和2年3 月末、病棟再編を行うにあたり北2病棟が閉鎖さ れた。患者・家族の協力を得て、医療区分により 患者の病棟移動や退院調整を実施した。また、細 木病院と協力し職員の異動を行った。長期入院患 者には個々の能力評価を行い、スタッフ協働で地 域移行支援に積極的に展開をしてきた。

3. 働きやすく働き甲斐のある職場環境の改善のため に、定期的なカンファレンスを実施し職員間のコ ミュニケーションを図り年次休暇の取得、公平な 勤務シフトや個人の希望に配慮した勤務表作成へ の支援を行った。

#### 4次年度の課題

- 1. 地域移行強化病棟の円滑な運営
- 2. 専門的ケア提供ができるように精神機能・精神科 看護の向上
- 3. 倫理的配慮に基づいた接遇
- 4. 働きやすい職場環境の改善

(文責:こころのセンター看護部長 岡崎 郁子)

# 北3病棟

#### 1 概要

病棟形態:精神科急性期治療病棟

病 床 数:40床

所属長名:窪内 淳子

構成職員:看護師 17名

> 准看護師 1名 看護補助者 6名 合計人数 24名

# 2 2019(令和元)年度 目的・目標

目 的





うに、精神科急性期病棟としての役割を果たす。

#### 目標

- 1. 患者の人権を尊重した専門的看護ケアを提供す
- 2. 精神科救急がスムーズ、かつ安全に行えるよう、 精神科急性期病棟としての機能を充実させる。
- 3. 患者にとって安心・安全・安楽な環境を整える。
- 4. 院内外の研修・分散教育に参加し、自己研鑽に努 める。
- 5. 実習生に対して、教育的環境を提供し協力する。

# ③目標に対する取り組み

- 1. 患者・家族の心理的負担を理解し、患者・家族の 声に耳を傾け援助を行う。患者・家族に対し分か りやすい言葉で説明し、同意を得ながら看護ケア を展開していく。
- 2. 患者の自己決定を支えるノーマライゼーション実

- 現のための援助ができる。他病院・外来との連携 を図りながら常に患者の受け入れができるよう調 整する。看護展開を適切に行い早期に退院ができ るように個別的な援助を行う。
- 3. 患者と個別的な関わりを持ち信頼関係を構築しな がら、安全で安心できる治療環境の提供を保証す
- 4. 分散教育は担当者を決めて行い、原則として全員 参加とし、自己研鑽につなげる。
- 5. 看護学生を受け入れ、実習指導者のみならず全ス タッフが実習生に対して、教育的関わりを持つ。

### 4次年度の課題

患者の早期退院を目指し、退院後地域定着できるよ うに、精神科急性期治療病棟としての役割を果たす。

#### 北 3 病棟 2019(令和元)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	精神科における様々な倫理(倫理、道徳、法 律とは)	川崎看護師 津野ヘルパー	48%		
5月	コミュニケーションの技法と倫理	山崎看護師 永野介護福祉士	40%		
6月	行動制限「行動制限の定義、隔離や身体拘束 を行う病状とは」	渡辺·森澤看護師	48%		
7月	身体拘束の技法と観察	竹田看護師 山下ヘルパー 富田介護福祉士	84%		
8月	精神科における身体合併症	山崎看護師	58%		
9月	薬剤通過法	薬剤室	50%		
10月					
11月	障害者や高齢者への虐待防止	大藪・筒井看護師	54%		
12月					
1月	発達障害について「広汎性発達障害について」	松岡看護師	60%		
2月	早期退院に向けた取り組み等について	秋田看護師 松田介護福祉士	68%		
3月	反省会		76%		

(文責:北3病棟師長 窪内 淳子)



# 思北4病棟

#### 1 概要

病棟形態:精神病棟 病 床 数:53床

所属長名:戸田 陽子

構成職員:看護師 16名

> 准看護師 2名 介護福祉十 2名 ヘルパー

5名 合計人数 25名

## 2 2019(令和元)年度 目的・目標

1. 患者の尊厳を守り、患者・家族の立場に立った優 しいケアを提供します。



- 2. 他職種との連携を図り、患者の日常生活動作の維 持拡大と退院に向けての支援を提供します。
- 3. 質の高い、アセスメントに基づいたケアを提供で

きるよう、スタッフ全員で勉強していきます。

- 4. 他部署と積極的な交流を行い、職員間の連携を強 化します。
- 5. ワークライフバランスを推進し、働きやすい職場 を目指します。

### 3目標に対する取り組み

- 1. 病院職員として礼節を欠いた発言が時々聞かれる ことがあった。接遇、マナー、倫理に関する学習 会、研修会への参加への促しを行い、接遇の意識 向上につなげられるように定期的な事例による ディスカッションを実施し話し合いがもてるよう にしていく。
- 2. 上期13名、下期10名の患者が退院した。下期は病 棟内でノロウイルスによるアウトブレイクもあり 病棟閉鎖までに至った。入院患者の長期化、高齢 化もあり退院調整が難しい状況もあるが、多職種 と連携を図りながら個々の患者にあった生活の場 を検討していく。
- 3. 毎月の分散教育の内容を病棟のニーズに沿った内 容で担当を決め学習を行った。院外研修は救急や ノーリフティングに関する研修への参加者があり

- 病棟内での伝達講習を実施し日々のケアにつな げ、自己研鑚につながっている。研修参加に関し ては偏りが見られるため今後も情報を提供し参加 を促していく。
- 4. 入院、転入、退院支援など、多職種との連携を図 りながら病棟管理を行った。定期的なカンファレ ンスの実施を行い、問題を共有していくことで職 員の意識改革にもつながってきている。
- 5. 職員の病欠時の助け合いや、急な勤務交代などの 場面が時々あったが、お互い協力し合いながら勤 務を継続することができた。有給休暇やリフレッ シュ休暇取得は公平性を保てるように努め5日以 上の取得はできた。介護職員の退職者が数名あっ たが、今後も継続して働きやすい職場を提供し離 職防止に努めていきたい。

# 4次年度の課題

- 1. 専門知識を深め、安全、信頼していただける看護・ 介護を提供できる
- 2. 安全、安心できる看護・介護を提供する
- 3. スタッフ全員が経営に参画する
- 4. 働きがいがもてる職場環境を整える

#### 北 4 病棟 2019(令和元)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	排泄ケア	上田 元美・久保 美砂	77%		
5月	口腔ケアについて	歯科衛生士	55%		
6月	認知症について	蒲原 帆奈美・有澤 瑞記	74%		
7月	精神科及び高齢者の倫理	橋田 千恵子・山本 和樹	74%		
8月	ポジショニング	濱中 敏恵・眞田 博	73%		
9月	開通法	薬剤室	38%		
10月	精神科の薬物療法	第十 宏太・山中 由衣	88%		
11月	感染対策	中田 優里・足達 智子	66%		
12月	救急対応	中嶋 りさ・島本 和人	73%		
1月	ノロウイルス対策	戸田 陽子	80%		
2月	ノーリフトケアについて	足達 智子・橋田 千恵子	83%		
3月	心不全の看護	曽谷 大夢・岡林 まなみ	91%		

(文責:北4病棟師長 戸田 陽子)

# 思北5病棟

## 1 概要

病棟形態:精神病棟 病 床 数:55床

所属長名:藤原 奈津子 構成員数:看護師 13名

> 5名 准看護師 介護福祉士 3名 ヘルパー 4名

合計人数 25名



#### 2 2019(令和元)年度 目的・目標

- 1. 患者、家族・地域の皆さまから信頼していただける看護・介護を提供する。
  - 1)精神保健福祉法に基づく患者の人権を尊重した質の高い看護・介護を提供する。
  - 2) 電子カルテの操作をマスターし、看護計画の立 案・実施・評価ができ適切な看護が提供できる。
  - 3) 病棟の特殊性を理解し、インシデント、アクシ デントンが予防でき、また事故発生時の早期対 応と原因分析・再発防止に取り組むことができ る。
  - 4) ICTの指導のもと、スタッフ個々が感染予防 対策に努める。
- 2. 経営基盤の安定・強化に積極的に参加する。
  - 1) 他部署との連携を図り、効率的に病床管理ができ年間病棟稼働率85.2%以上を達成する。
  - 2)診療報酬加算の学習会を行い加算取得への協力ができる。
  - 3)地域移行推進チームで計画的に長期入院患者の退院支援を行う。
- 3. 職員が働きやすく、働き甲斐のある職場づくりを 目指す。
  - 1) 自部署の職場環境を見直し、働きやすい環境を整える。
  - 2) 働きやすい勤務シフトを考慮し、公平な対応を行う。
  - 3) 資格取得など、研修会に積極的に参加し自己研 鑚に努めるように勤務支援を行う。

#### ③目標に対する取り組み

1. 精神保健福祉法にもとづく、患者の人権や倫理、接遇の研修会に参加を促し、専門的な知識を習得

- し、患者の立場にたったケアを常に心掛け、看護・介護を提供できた。また、患者家族が来院時には日ごろの状態や近況報告をし、こちらから積極的にコミュニケーションを図るようにした。また、患者の生活の場として生活しやすいスペースを確保し、患者や家族の意向を取り入れた対応に努めた。療養環境では危険の察知に努め、病室の整理、整頓を行い、安全の確保に努めた。インシデント事象は80件あったが重大インシデントにおいてはSHEL分析にて原因分析を行い、改善策を立案し、スタッフに周知し取り組むことができた。感染対策では標準予防対策をスタッフ個々に指導し感染予防にも努めたがインフルエンザを患者4名職員2名が発症した。
- 2. 医師や他部署との連携を図り、積極的に患者の受け入れを行い、病床稼働率は90%以上で達成できた。地域移行推進チームで5年以上入院している患者の退院促進を行い、2名の患者を施設や地域へつなげることができた。
- 3. 勤務シフトは本人の希望を考慮し公平に作成し、 休暇も有給休暇、リフレッシュ休暇を含め全員5 日以上の取得はできた。院内・院外の研修会は毎 月スタッフに提示し、必要な研修会については個 別に声掛けを行い、参加意欲を高めた。看護研究 の成果は院内看護研究発表会や学術集会in細木 で発表することができた。

## 4次年度の課題

- 1. 地域移行機能強化病棟への病棟再編の取り組みを行う
- 2. 長期入院患者の退院促進を計画的に行う
- 3. 安全で安心できる看護・介護を提供する

#### 北5病棟 2019(令和元)年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	姿勢管理(腰痛予防・ポジショニング)	沖看護師 中村・濱口ヘルパー	61%		
5月	精神科で使用する薬について (副作用、C P換算等)	川村·北川看護師	65%		
6月	不穏時の対応について(身体拘束演習等)	酒井・沖・那須・小野看護師	83%		
7月	急変時の対応について (緊急時呼び出し・AED使用等)	福永・岡村看護師 畠中ヘルパー	68%		
8月	排泄ケア	近藤看護師 中尾・岡部ヘルパー	66%		
9月	接遇・マナー(患者・家族様への対応等)	岡林・高橋看護師 小笠原ヘルパー	83%		
10月	薬剤開通法	小松薬剤師	68%		
11月	褥瘡について	笠原·橋本看護師	80%		
12月	認知症の対応	坂本看護師	60%		
1月	退院支援(社会資源等)	野村PSW	73%		
2月	エンゼルケア	大西・山下・友村看護師	68%		
3月	反省会		80%		

(文責:北5病棟師長 藤原 奈津子)



# 精神科外来

### 1 概要

所属長名:川田 留美

構成職員:看護師 3名

> 准看護師 2名 合計人数 5名

### 22019(令和元)年度 目的・目標

- 1. 細木病院の看護部と患者、家族、地域の皆 さまに安全・安心・信頼していただける外 来看護の提供をする。
- 2. 新細木病院の経営安定とその組織強化に向けて積 極的に取り組む。
- 3. 外来職員が働きやすく働き甲斐、やりがいのある 職場環境をつくる。

### 3目標に対する取り組み

- 1. について、細木病院看護部との協力体制を整え、 外来職員は積極的に各種委員会に参加し統一され た看護の提供をしている。当科患者の特殊性を理 解し安全に留意した対応を心掛けながら医療安全 対策に取り組み、感染予防については、マニュア ルに沿った外来看護を展開している。常に安心、 安全な外来環境の調整に努め、患者と家族や地域 の方々に信頼できる外来看護を提供している。
- 2. について他部署との連携を強化し細木病院全体で 利用できる組織内の有効で効率的な活用を見いだ し連携しながら患者や家族への支援をしている。 そして地域包括ケアの中でそれぞれの関係する部 署との連携を目指し、他部署や在宅部他施設など との連携を積極的に行うようにしている。外来職 員全員が経営意識を持ち、診療報酬加算などにつ いて対応し各病棟や在宅関連部門の特殊性につい て理解し知識を得るようにして、外来看護の展開 を行い経営的な貢献に努めている。また受診相談



窓口の機能により、新患患者や入院患者への対応 について情報収集が事前に充分に得られるため、 患者の病状と適合する専門性の医師への受診につ なげることができ、入院については急性期入院や 長期入院可能な病棟への入院検討ができることな どで経営的介入をしている。

3. については公平な勤務体制を心掛け、職員間のコ ミュニケーションを良好に保ち、働きやすい職場 環境の調整に努めている。院内で決定した新たな 感染症対策について遵守の徹底を心掛け、常に職 員の体調管理や健康増進への支援を行い、新たな 感染症対策事項などの周知徹底に努めて健康管理 に努めている。また院内接遇や院外接遇に充分配 慮し接遇向上に心掛けている。

# 4次年度の課題

- 1. 地域包括ケアを推進し、外来看護の視点を持ち他 部署との連携強化に努め、入院前・退院前カン ファレンスなどへの積極的な参加を行い看護の継 続的支援を行う。
- 2. 常に倫理的感性を持ち、人権や尊厳を守り丁寧な 対応を心掛けていく。

(文責:精神科外来師長 川田 留美)

# 局 精神科デイケア・ショートケア「フレンズ」

# 1 概要

所属長名:大場 教子

構成職員:看護師 3名

> 作業療法十 3名 心理十 2名

精神保健福祉士 1名

合計人数 9名

#### 2 2019(令和元)年度 目的・目標

1)新・細木病院として、組織を運営・強化



するために、各専門職種の専門性を生かして、デ イケアを運営する。

- 2) 個々の夢実現に向けて、強みを引き出し、地域で の生活を生かして、自立へつながるプログラムを 継続する。
- 3) デイケア利用者の安全を守り、安心・安楽な環境を整える。
- 4)院内外の関連部門との連携し、利用者が地域定着できるようにする。
- 5) ハローワークとのモデル事業・就労支援関係機関 と連携して、就労導入から就労が継続できるよう 支援する。
- 6)費用対効果を考慮しデイケア運営を行う。

### 3目標に対する取り組み

- 1) 平成31年4月より細木病院と統合し、組織的にはデイケアフレンズは看護部所属となった。各職種別に部門長がいるという体制で統合前と変わらず、各職種の専門性を生かし一つのチームとして運営ができた。電子カルテ導入では、フレンズの業務上の運営ルールを細かく検討し、電子カルテ使用時の必要事項を作成・実施した。デイケア担当医師の協力体制もあり、運用できている。
- 2) メンバーの個々の目的にあったクッキングのプログラムでは、個別に目標に向けて実施するAコース、食を通して季節感を楽しむBコースを開始した。このことから、認知機能<集中力・記憶・判断力・段取りを考える力・問題を考える力>が改善する効果が期待できた。
- 3) 医療安全では、災害対策で令和元年9月に防災月間を意識してシェイクアウト訓練を実施、利用者にも地震の対策の知識を伝え地震を想定してのシミュレーションを行った。

感染では、マニュアルやICTラウンドで、指導された内容を改善し朝のミーティングで共し実施

- した。環境面では、5 Sを意識しスタッフ全員が 環境調整を実施し、整理整頓を重視した。
- 4) 院内外との連携では、第2回の家族を交えたお茶会や病棟交流会を開催し、入院中の方を招待し、デイケアプログラムを身近にしていただけた。
- 5) ハローワークモデル事業では、2年目に入り、現在3名のメンバーが就労につながった。今後も就労に向けて支援中であり、ハローワークと障害者職業センターのスタッフと連携しながら支援継続の予定。
- 6) デイケアの運営、費用対効果では新規獲得のために、外来の掲示板、ホームページ、院内広報誌でも活動内容を報告する機会を作っている。上半期は、新規利用者が11名であったが、下半期は2名であった。新型コロナウイルスの感染の影響で、令和2年3月は参加人数も減っている。

### 4次年度の課題

- 1)電子カルテで、第3者に支援内容や経過が分かる記録にする。
- 2) デイケア利用者の安全を守り、安心・安楽な環境を整える。
- 3) プログラムを充実させ、メンバーが目的にあった プログラムを選択でき、スタッフ間でもプログラ ム内容を共有できる。
- 4) ハローワークとのモデル事業・就労支援関係機関 と連携して、就労導入から就労が継続できるよう 支援と改善すべき内容を検討する。
- 5)費用対効果を考慮し、デイケアを運営する。
- 6) 研修および分散教育等に積極的に参加し、自己研 鑚に努める。

(文責:精神科デイケア・ショートケア「フレンズ」室主任 永野 吉昭)

# 重度認知症患者デイ・ケア「デイ・アルテン」=

#### 1 概要

所属長名:八木 真己人

構成職員:

ヘルパー

看護師4名作業療法士2名介護福祉士1名

精神保健福祉士 1名

運転手 2名(パート) 合計人数 11名

1名

(パート運転手 2 名含む)



# 22019(令和元)年度 目的・目標

- 1. 高齢者、認知症患者の人権を守る
- 2. 家族ケア

- 3. チーム医療の実践
- 4. 医療従事者および専門職として自己研鑽ができる

## 3目標に対する取り組み

- 1. デイ・アルテンでは、個別性を重視したプログラムの中に機能訓練やレクリエーションを組み込み自分らしさを大切にした生活を送れることを目的としている。デイ・アルテンを利用されている認知症患者に対しては、接遇に気をつけ言葉遣いや対応に常に注意を払い尊厳を傷つけない対応を心掛けている。
- 2. 家族の介護負担を少しでも軽くしながら、家庭での生活を続けられるようにするために、家族との信頼関係を確立する。そのうえで定期的に面会時間をつくり、家族の気持ちの傾聴や家族のマンパワー、家族の介護疲れなどを把握することができている。
- 3. 認知症患者の在宅生活を支える際、関係諸機関と

- の信頼関係を確立するため、担当者会議など連携 する会議には積極的に参加することで、情報共有 が円滑に行えケアに生かすことができている。 加えて他職種との密な情報交換を行い、デイ・ア ルテン利用者に不利益のないように配慮してい る。
- 4. 自己研鑽は個々に行い、知識・技術の向上に努めている。また、得た知識は分散教育などで伝達講習を行い職員間で情報共有を行っている。

### 4次年度の課題

- 1. 細木病院内・部署間の連携の強化
- 2. 重度認知症患者デイ・ケアの安定した運営
- 3. 家族ケアの充実
- 4. 職員のワークライフバランスの実現

(文責: 重度認知症患者デイ・ケア「デイ・アルテン」 看護師長 八木 真己人)

# 宣 医療技術部

# 河 こころ栄養管理室

# 1 概要

所属長名:前田 光代

構成職員:管理栄養士 2名

栄養士1名調理師9名合計人数12名

## 2活動内容・目標に対する達成状況

1. 新・細木病院の円滑な運営開始と統合効果の発揮電子カルテの運用は新館管理栄養士の支援もあり特に問題なく軌道に乗せることができた。

しかし、給食献立システムへの移行は次年度に持ち越しとなった。

2. 経営基盤の安定

育休取得や10月には突然の離職者があり給食運営が厳しい現状となった。さらなるカット野菜など食材の発掘を行い積極的に取り入れたため材料費の高騰を危惧したが目標は達成できた。また、勤怠に関する調整も職員と協議を重ね負担の軽減に努めた。

3. 働きやすく、働き甲斐のある職場づくり 初めて職員満足度調査を行い部署内の課題を認識 することができた。2名の欠員により有給休暇は時 間休暇を合わせて目標の5日間を達成したが、リフ レッシュ休暇の取得率は低かった。職員全員が使命 感をもち精力的に活躍してくれた。

4. IMAJIN活動の継続と実行



再統合後のホームページにこころ栄養管理室の活動状況も発信できた。

5. 非常時の対応力強化

統合前の各施設備蓄食品に関する方針が異なり、 具体的には次年度へ持ち越しとなったが、1日の食 事回数(2回)や日数(3日間)提供者(患者のみ) が決定した。そこで、こころでは期限内消費以降の 備蓄食品の補充数量の調整を開始した。

## ③今後の課題

- 1. 適正な人員を確保しスキルを磨く環境整備、職員の考えに傾聴し、働きやすく、働き甲斐のある職場づくりを目指す
- 給食献立システムへの移行、介護食のクックチル 導入を軌道にのせる

#### ▼デイ・アルテンの誕生会(抜粋)



6月



10月



12月



1 月

(文責:こころ栄養管理室室長 前田 光代)

# 有 精神科作業療法室

1 概要

所属長名:吉村 康世

構成職員:作業療法士 7名

音楽療法士 1名

講師 1名

合計人数 9名

## 2活動内容・目標に対する達成状況

- 1. 働きやすい職場づくりを目指して業務改善を行い、有給消化率を増加させる
- 2. 現在のプログラムの維持、充実を図り、日常生活に必要な活動の再体験の場を提供する
- 3. 個人のニーズに合わせたプログラムの立案、実施、評価を行い、個別作業療法の充実を図る
- 4. 多職種との連携を図り、より的確な治療、支援を行う

#### 達成状況

今年度も人事異動や産休入りのため、スタッフ減少はあったが業務改善を行い、有給消化率を増加させることができた。また前年度と比較して、作業療法に参加した患者数はやや減少しているが、従来のプログラムの維持を図るとともに、個別作業療法の充実化、生活の質の向上に努めた。そして多職種との連携を図り、情報共有を密に行いながら退院後のフォローアップに取り組むことで、外来作業療法にて継続的に利用する患者さんも増加した。

### 3 今後の課題

スタッフの増減はあったが、プログラムの維持を図るとともに、個別性の高い治療を心掛けて患者さん一人ひとりのニーズに合わせて取り組むことができた。 今後は病棟再編に伴った南館への精神科作業療法介入が課題となっているため、さらなる多職種との連携を図り、新規プログラムの運営、見直し改善を目指す。 また、現在は定期的にミーティングを開催してスタッ



フ間で情報共有を行い、カンファレンスなどに参加 し、作業療法評価を口頭で提示しているが、評価表を 用いての提示ができていない状態である。今後、より 良い情報共有を行えるよう定期的に評価表を用いて明 確化する必要がある。

年度末から新型コロナウイルスが流行し、それに伴い全体でのプログラムを中止し、各病棟で活動内容を変更して運営している。今後も新型コロナウイルス対応を含めた院内感染対策を行い、各スタッフの身体管理、使用する物品管理の徹底を強化する。感染対策に伴い、入院患者さんは行動範囲が制限されており、ストレスを発散させにくい状況となっている。そのため、スタッフの調整が可能な場合は、既存プログラムだけでなく、できるだけ病棟へ出向き作業活動が行えるよう臨機応変に対応し、生活の質の向上、退院支援に取り組んでいきたい。

(文責:精神科作業療法室主任 吉村 康世)

# 細木ユニティ病院コンサート 平成30年(2018年)

	開催月	内容	出演
391	1	初舞	伝統文化子供教室他
392	1	輪(Rin)で広がるお話の世界	朗読劇団「輪(Rin)」
393	2	弾き語りライブ~雪どけのピアノ~	個人出演
394	2	あたたかコーラス宅急便	高知コーラス合笑団
395	3	春の息吹コンサート	輪音
396	4	歌の集り	ジーラソーレ
397	4	フルートとピアノによる音の万華鏡	個人出演
398	5	アロハで楽しく!!	ルアナと楽しい仲間たち
399	6	ゆったり、まったり~おりんの響き~	おりんユニット ひびき
400	6	フルートとピアノで贈るクラシックの名曲と想い出の歌	個人出演
401	7	心躍る愛しのメロディ	四国二期会高知支部
402	8	HOTな音楽2018~熱い夏!楽しい音楽で乗りきろう~	個人出演
403	8	オペラティックライブ2018みんなで歌おう!童謡100年	個人出演
404	9	弦楽の魅力〜ソロからアンサンブルまで〜	個人出演
405	9	うたで綴る 世界音楽の旅	個人出演
406	10	ジャズフルートトリオ 秋のコンサート	個人出演
407	10	アンデスの風	WAYNO
408	11	色づく秋を奏でる ビタミンコンサート	デュオナトゥール
409	11	ジャズコンサート2018	クニ三上トリオ
410	12	金管楽器の秘密	トリオ オーブ

# 細木ユニティ病院コンサート 令和元年(2019年)

	開催月	内容	出演
411	1	フルートとギターによる初春の調べ	個人出演
412	1	初舞	伝統文化子供教室他
413	2	あたたかコーラス宅急便	高知コーラス合笑団
414	3	春うらら♪元気もりもりコンサート	高知ファミリーコーラス
415	7	HOTな音楽2019~熱い夏!楽しい音楽で乗りきろう~	個人出演
416	8	令和元年におくる魅惑の昭和歌謡	個人出演
417	9	Rintocco Concert〜物語を彩った音楽たち〜	Rintocco
418	10	フォルクローレ&ラテン音楽 アンデスの風を感じるコンサート	WAYNO JAPAN
419	11	秋のジャズフルートコンサート	小島のり子ジャズフルート・トリオ
420	12	クリスマスコンサート	四国二期会 高知支部

細木ユニティ病院では、6階多目的ホールにて音楽療法の一環として院内コンサートを開催してきました。

平成9年6月から月に1、2回のペースで開催しました。入院、外来の患者さまはじめ、地域にも無料で開放し一般のお客さまにも広く音楽を楽しんでもらう機会となりました。

出演者の方々は県内外で活動しているアマチュア・

プロの演奏家や団体で、クラシック、ジャズ、民族音楽など多くのジャンルのコンサートを開催しました。

6階多目的ホールは舞台と観客との距離が近く、出演者の皆さまと患者さまとの音楽のみならず、さまざまな交流を持つことができます。楽しみにしている患者さまも多く、今後も継続できればと考えます。

(文責:音楽療法士 上内 明里)



# 臨床心理室

### 1 概要

所属長名:野瀬 一央

構成職員:公認心理師 5名 合計人数 5名

## 2活動内容・目標に対する達成状況

# 1. チーム医療の推進

院内外のカンファレンスにおいて公認心理師としての見立て・介入を積極的に提案し、多職種間での役割分担と必要な治療的介入を行うことができた。 関連機関としては子ども家庭支援センター、児童相談所、療育福祉センター、学校、就労支援事業所などとの連携をとっている。

薬物療法のみでは改善の難しいうつ病やパーソナリティ障害の患者に対して、医師からの依頼、他職種の相談に応じて迅速に認知行動療法を実施できるよう、作業療法士およびデイケアスタッフの協力のもと治療的環境の設定を行い、継続したグループ治療を実施できた。グループ治療と個人心理面接を併用することで薬物量を減らすことができ、職場復帰などにも貢献できた。

また入院から外来治療まで途切れなく支援が継続 できるようスタッフ間での情報共有を行い、治療計 画を実行することができた。

#### 2. 心理検査、心理面接に随時応じ対応・実施

心理検査の年間件数は684件で前年比では114件減少した。心理検査は精神科初診時に実施することが多い。年度当初に電子カルテが導入され、初診患者



の受け入れを制限していたこと、8月には心理検査の依頼頻度の高かった精神科医師が1名退職したことが年間件数の減少に大きく影響した。

一方、心理面接の年間件数は前年度1,813件に対し本年度は1,981件に増加した。発達障害を持つ患者が増えていることで心理面接の依頼が増えたこと、集中的な治療を行うため入院治療へ切り替えることにより心理面接頻度が増えることなどが影響していると考えられる。

心理検査、心理面接とも依頼に応じ迅速に対応できた。

# 3. 業務管理の徹底

業務の見直しを行い、できるだけ業務時間内に仕事を終えられるように各自意識して取り組むことができた。平成31年4月に電子カルテが導入され、効率的に業務を遂行することができるようになった。

4. アクシデント・インシデントの減少

電子カルテに不慣れな時期に予約の抜かりなどは あったが、個人情報保護などに関する重大なアクシ デント・インシデントは生じなかった。

### 3 今後の課題

精神科では職場や学校で不適応を起こして受診する 発達障害の患者が増えており、患者本人、家族、関連 機関への対応が複雑化している。多職種協働のチーム により迅速な対応を行うことで重症化せずに改善する 場合が多い。さらに早い段階での介入ができるよう、 小児科との連携システムの構築が必要であると考え

(文責:臨床心理室主任 池田 貴美)

# 国 歯科衛生室

# 1 概要

所属長名:医療技術部長 田中照夫 構成職員: 歯科衛生士 1名 デンタルアシスタント 1名 合計人数 2名

## 2活動内容・目標に対する達成状況

1. 再統合後の円滑な歯科介入を行うための体制づく L)

これまでは北館のみで活動を行ってきたが、4月 から新たに、新館、南館にも介入していくことと なった。それに伴い、短期入院病棟やリハビリ病棟 など各病棟の特色を把握した上での歯科介入が必要 となった。看護部だけでなく、リハビリテーション 課や医事課などの他職種の協力も得ながら、歯科受 診が円滑に行える体制づくりを行い、現在のところ 問題なく運営できている。歯科治療終了時には、電 子カルテ内に治療内容を報告することで、患者に関 わる職種全てが歯科の治療内容などを把握できるよ うに取り組んでいる。

#### 2. ご家族、他職種との連携

患者さんにとってより良い歯科介入ができるよう 努めた。できる限り、入院中に口腔内の状態を整え ることを目標とし、困難な場合は事前に本人とご家 族と相談を行い、意向に沿った形を目指した。必要 に応じて家族への指導を行い、家族にも口腔内に関 心を持ってもらえるように努めた。患者サポート室



とは患者の退院後の生活を考慮すべく連絡を取り、 看護部とは生活場面の聞き取りを行うなど、情報を 得ながら介入を進めた。

3. 在宅部での口腔衛生管理の取り組み

グループホーム入居者への介入を開始した。施設 職員の口腔に関する視点の強化と衛生管理の向上に も努めた。グループホームからの積極的な質問や歯 科受診も増加し、意識の向上を実感しているところ である。

# 3今後の課題

- 1. 自己研鑽を積み、患者さんに対して、より質の良 い介入を提供できるよう努める。
- 2. 役割を明確化し、設備の整理整頓を心掛け、歯科 衛生室としての無駄がないよう業務の見直しを 行っていく必要がある。

(文責: 歯科衛生士 内平 真実)

# 事務部

# ■ こころ医事課

# 1 概要

所属長名:浅津 里衣 構成職員:7名

合計人数 7名

# ②活動内容・目標に対する達成状況

- 接遇のレベルの向上とともに、「品」のある対応を 目指す
- 2. 技術力の強化・プロ意識
- 3. 連携
- 4. 業務改善

平成31年4月1日より細木病院と統合し、それに伴い電子カルテも導入することとなった。当初は入力に時間がかかり待ち時間が長くなっていたが、本院医事課スタッフに助けてもらい、大きなトラブルはなく順調な導入となった。

また、本院と合同でのレセプト反省会は、他科の診療報酬点数算定方法など勉強するところが多くスキルアップにつながっている。



## ③今後の課題

診療報酬請求業務では、統合により診療内容が複雑になったこともあり、今後は医事の知識を強化し、返 戻や査定減に貢献したい。

また、電子カルテ導入によって業務が短縮された部分を生かし、業務改善を行いさらに超過勤務削減につなげていきたい。

(文責:医事課長 浅津 里衣)

# 委員会

診療運営会議
経営会議
幹部会議
医局会議
倫理委員会
⇒臨床倫理部会
診療記録開示検討委員会
臨床研修管理委員会
⇒臨床研修関係者会議
⇒臨床研修WG
医療安全管理委員会
⇒医療安全管理室会議
⇒医療安全推進委員会
院内感染対策委員会
⇒ICT委員会
大規模災害対策委員会
医療ガス安全・管理委員会
臨床検査適正化委員会
褥瘡対策委員会
身体抑制委員会

NST委員会
リハビリテーション委員会
回復期リハ病棟システム委員会
⇒回復期リハプロセス委員会
⇒脳卒中パス委員会
栄養管理委員会
情報システム委員会
診療情報管理委員会
⇒クリニカルパス委員会
⇒DPC管理委員会
手術麻酔管理委員会
輸血療法委員会
薬事委員会
図書委員会
安全衛生委員会
健康管理センター会議
救急委員会
地域連携推進委員会
虐待等対策委員会
接遇向上委員会

委	抗がん剤レジメン管理委員会
委員会	院内行動制限最小化委員会
会	研修委員会
	認知症ケアチーム委員会
1-	事務連絡会
仁生会全体	広報委員会
会	仁生会教育委員会
吞	人事制度検討委員会
	仁生会年報編集委員会
看	看護部師長会
看護	看護部師長会 看護部主任会
看護部内	
看護部内委	看護部主任会
看護部内委員会	看護部主任会 看護教育委員会
看護部内委員会	看護部主任会 看護教育委員会 看護部業務委員会
看護部内委員会	看護部主任会 看護教育委員会 看護部業務委員会 看護部医療安全委員会
看護部内委員会	看護部主任会 看護教育委員会 看護部業務委員会 看護部医療安全委員会 看護部・褥瘡対策委員会
看護部内委員会	看護部主任会 看護教育委員会 看護部業務委員会 看護部医療安全委員会 看護部・褥瘡対策委員会 看護部記録委員会

※上記の「⇒」は、委員会の下部組織です。

# ※ 医療安全管理委員会/医療安全管理室

委員会

### 12019(令和元)年度 目的・目標

- 1. 医療事故発生時の適切な対処と医療 事故を未然に防ぐための対策の検討 を行う。
- 2. 医療事故発生時の対処の適正化と医 療事故発生の防止、安全文化の醸成 を図る。

#### 2活動内容・目標に対する達成状況

医療安全管理室は、病院における医療 事故の防止および医療の安全性の向上に関する体制の 強化を図り、実践的活動を行うことを目的とし、医療 安全管理室長 1 名 (医療安全管理委員長・兼任)、医療 安全管理副室長(専従医療安全管理者)1名、他、各 部門より代表の職員10名の構成メンバーで取り組んで いる。

本年度より、細木ユニティ病院との再統合を行い、 新医療事故報告書を活用している。報告件数は、1.503 件(インシデント1.463件、アクシデント40件)であっ た。在宅部においては、124件(インシデント117件、ア クシデント8件)であった。院内の報告種類は、療養 上の世話801件(53%)、薬剤関係382件(26%)、ドレー ン・チューブ管理139件(9%)などであった。

医療安全管理委員会は、月1回の定例会議で毎月の 事故集計結果報告やレベル3 b以上の事故報告、薬剤



事例に関する内容、院内巡視結果報告などを行い検討 した。また、日本医療機能評価機構の医療安全情報を 伝達し情報共有を行った。

また、厚生労働省の「医療安全推進週間」に合わせ、 職員から「医療安全川柳」を募集し掲示した。医療安 全研修会は、7月「2018年度医療事故報告」「医療安全 の基本的知識」、2月「医療安全の基本的知識Part 2」 について研修会を行った。医療安全研修会への職員参 加率は97~98%を維持することができ院内全体で研修 参加への意識が高くなっている。その他、他院で発生 した医療事故や当院でのインシデントに対するニュー スを職員が情報共有できるよう医療安全情報として全 部署へ発信した。事故発生時には各部署でのカンファ レンスに参加することで要因分析や対策を検討するこ とができた。

また昨年度より、医療安全対策地域連携加算1を取 得し、本年度も加算1・2施設との相互訪問評価を受 けることにより連携を図ることができた。

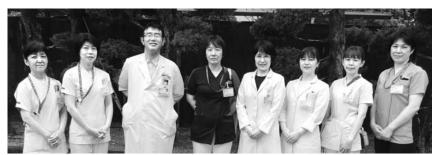
再統合により病床数および職員数も多くなった。ま た、一般科とは異なる精神科独特の環境がある中で、 医療安全管理者 · 医薬品安全管理責任者 · 医療機器安 全管理責任者と協力し、職員からの声に耳を傾けると ともに職員へ医療安全に関する情報を発信し、安全な 医療・介護が提供できる環境を整えていきたい。

(文責:医療安全管理者 井上 富美)

# 院内感染対策委員会/院内感染対策室

# 12019(令和元)年度 目的・目標

- 1. HU統合後、感染防止対策の システムの統一化に向けた取 り組みを行う
- 2. 他施設との連携、指摘事項へ の改善を行う



2活動内容・目標に対する達成状 況

- 1. 院内感染対策委員会(以下、ICC) および感染
- 対策チーム(以下、ICT)会議開催 2. 感染対策研修会Ⅰ(年3回)、感染対策研修会Ⅱ
- (年2回)、AST研修会(年2回)の開催 3. 薬剤耐性菌、職員感染、アルコール使用量、デバ イスサーベイランス、針刺し事故サーベイランス
- 4. アウトブレイク対応(インフルエンザ、ノロウイ ルス)
- 5. 感染情報週報の発行(毎週)
- 6. ICTラウンド(週1回)

(毎月)

- 7. 感染防止対策加算2施設との合同カンファレンス 開催(年4回)
- 8. 地域連携加算施設(加算1施設)との相互訪問 (年3回)
- 9. 職員のワクチン接種の推進(インフルエンザ、B 型肝炎)
- 10. 感染マニュアルの改訂
- 11. 抗菌薬適正使用支援チーム(AST)による抗菌

### 薬カンファレンス(週1回)

- 12. 感染リンクスタッフ会の開催(月1回)
- 13. 新型コロナウイルス感染症対応

今年度は、細木病院とユニティ病院が統合したこと で、精神科領域における感染対策に関わるようになっ たが、令和2年1月のインフルエンザとノロウイルス のアウトブレイク対応で、一般科と違った感染対策が 必要であることが分かった。今後は、共通する部分と 精神科特有で必要な対策について取り組んでいく予定 である。

### 3新型コロナウイルス感染症対応

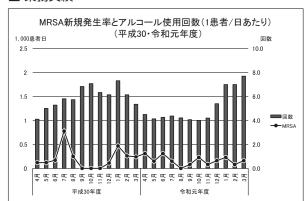
令和2年2月29日、高知県内で新型コロナウイルス 感染症 1 例目発生があり、新型コロナウイルス感染症 への対応が急務となり現在も対策を継続している状況 である。当初は、このウイルスに関する情報などがな く、罹患患者の症状からインフルエンザと同様の対策 (飛沫予防策、接触予防策)を実施していた。新型コ ロナウイルスの感染力が強く初めて経験する感染拡大 状況であり、混乱の中手探りでの対応策となったが、

#### ■ 2019(令和元)年度 感染対策研修会開催実績

月	テーマ	講師	参加人数
5月	抗微生物薬適正使用に関して	AST 医師	83名
6月	当院の感染対策について知って いますか?	ICN	832名 (94%)
7月	感染予防と環境整備	看護師	88名
8月	2018年度細木病院 アンチバイオグラムと近年の検出菌傾向	臨床検査 技師	66名
9月	当院の抗菌薬適正使用指針 〜各論を中心に〜	AST 薬剤師	46名
10月	インフルエンザ対策	ICN	840名 (96%)
11月	吐物処理(演習)3回	リンクス タッフ会	141名

( )は参加率

#### ■ 業務実績



今回のことで日々の標準予防策の徹底についてあらためてその重要性を理解することができた。今回のように世界中で感染が拡大してしまうと、感染対策で必要な個人防護具や消毒液などの使用量が増え品物が不足し枯渇するため、医療事業の継続を行うためにも災害対策に準じて備蓄を行っていく必要がある。今後は、

長期的に対応できる新型コロナウイルス感染症を踏ま えた新しい対応策が継続できるよう取り組んでいきた い。

(文責:院内感染管理者 土居 世知)

# 認知症対策室/認知症ケアチーム委員会

# 12019(令和元)年度 目的・目標

- 1. 診療報酬 認知症ケア加算1の施設基準の取得
  - 1) 認知症ケアチームの立ち上げ
  - 2) 認知症ケアチームラウンドの実施
- 2. 認知症ケアの浸透

# 2活動内容・目標に対する達成状況

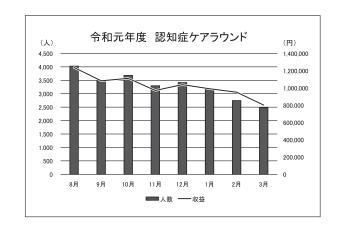
- 1. 令和元年8月より、診療報酬、認知症ケア加算2から認知症ケア加算1へ変更することができた。
  - 1) 認知症ケア加算1の施設基準には、病院内に認知症ケアチーム(以後DCTと記載)が設置されていることが必須条件である。こころのセンター長吉岡医師が認知症対策室室長を兼任。DCTメンバーには、診療報酬上必ず必要な職種に参入してもらい、DCTを立ち上げることができた。
  - 2) DCTラウンドを行うにあたり、DCT委員会 (メンバーは、関連部署から選出された者で構成されている)を開催。DCTの活動内容など話し合いながら、DCTラウンド対象病棟のスタッフと協力し、週1回DCTラウンドを実施できた。

DCTラウンドは、週1回月曜日南館、水曜日 新館と2回に分けて行っている。

精神科医師をはじめとし多職種の協力のお陰で、DCTラウンドを軌道に乗せることができ

たと感じている。

2. 今年度は、DCTが立ち上がったばかりで、認知症ケアが浸透するまでには至っていない。今年度は認知症ケアの基本である、「見当識に働きかけるケア」に重点を置きアドバイス・実施してきた。また、DCTラウンドを行うことにより、認知症のBPSD(行動・心理症状)に対する抗精神病薬の使い方のアドバイスなど精神科医師に受けやすい状況になってきている。その強みを生かしながら、皆で考える認知症ケアを目指し、実施していきたい。



(文責:認知症対策室 室長 医師 吉岡 隆興 認知症対策室 看護師長 中山 充代)

# 褥瘡対策委員会

# 12019(令和元)年度 目的・目標

#### 目的

病院全体での褥瘡発生・予防および発症後早期からの適切な褥瘡対策を討議・検討し、その効果かつ 効率的な推進を図る

#### 目標

- 1. 推定院内発生率 1%以下
- 2. スタッフ教育を行い、褥瘡をはじめとする創傷に関する知識の向上
- 3. 創傷ケアマニュアルの完成

# 2活動内容・目標に対する達成状況

#### 活動内容

- 1. 毎月 第3月曜日 定例会
- 2. 每週 月曜日 全病棟対象褥瘡回診 回診者:専任Dr(外科) 血管外科Dr WO C 管理栄養十 皮膚科Dr(月1回)
- 3. 創傷ケアマニュアルの作成
- 4. 集合教育の開催

## 目標に対する達成状況

推定発生率1.74% 褥瘡発生数55名と前年と比較 してあまり発生率・数ともに減少に至っていない。 発生要因としては、「ポジショニング・体位変換不足」「皮膚の脆弱性」「全身状態の悪化」などが多く上がっている。

スタッフ教育としては、前年に行った体験型のポジショニング研修を北館で開催。新館・南館では感染症などの流行もあり実施できなかった。発生要因で「適切なポジショニング不足」が一番多く挙げられているため、今後もリハビリテーション課と協力してポジショニング研修を継続して行っていきたい。また、看護部のみ対象で計4回創傷ケアに関する研修を実施。平均40名の参加があった。定期的に研修を行い、テーマを変えることで、興味のある内

容に参加をしてもらえることができたと考える。

本年は、創傷ケアマニュアル完成のために専門分野で分担し作成を行った。不足している項目もあるが完成することができ、必要部署への配布をすることができた。マニュアルがあることで、統一されたケア提供や、記録・報告方法などを新人や中途採用者にも説明しやすくなったのではないかと考える。次年度は改定を行い、より使用しやすい物になるよう取り組んでいきたい。

(文責:褥瘡対策委員会委員長 上地 一平)



# NST委員会

# 12019(令和元)年度 目的・目標

### 目的

- 1. 入院患者の"低栄養状態"を早期に発見し改善するために院内の体制を整える
- 2. チームで低栄養状態に関する評価を行い適切な 栄養療法を提案・実施する

#### 目標

「統合後のスムーズなNST活動に向けての体制整備」

# ②活動内容・目標に対する達成状況 活動内容

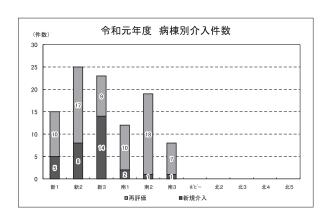
- 1. 毎週木曜日 多職種参加のラウンドとカンファレンス
- 2. 2カ月に1回委員会、毎月の勉強会
- 3. 年1回NSTセミナー

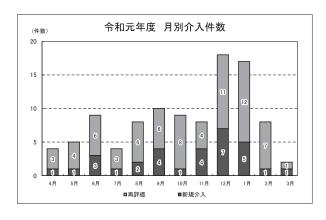
#### 目標に対する達成状況

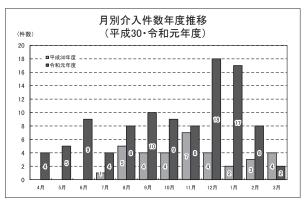
統合後のNST委員会のあり方については、統合 前年度よりワーキンググループを立ち上げ、体制整 備に努めた。その結果、統合後の大きな問題もなく スムーズに委員会およびラウンドとカンファレンス を実施できた。前年度と比較しNST新規介入件数 は155%と増加し、院内勉強会においても参加人数は 前年度の1回あたり平均34名より今年度は平均50名 と大幅に増加し活気あふれる勉強会の開催となっ た。今年度は統合後円滑なスタートを踏み出し、来 年度の全館NSTに向けての土台づくりとなったと 考える。令和元年度の診療報酬改定では地域包括ケ アシステム推進のための取り組みとしての多職種連 携・協働の取り組みが推進されており、栄養管理の評 価が随所に盛り込まれている。今後も低栄養状態の 予防および改善により、患者さんが安心して退院し、 早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるよ うにするため委員会としての役割を果たしていきた ()0

#### 2019(令和元)年度 NST委員会 勉強会一覧

実施月	勉強会の内容	演者					
5月	NST活動について	三愛病院 中村寿宏副 院長					
6月	誤嚥防止と嚥下食の学会分類 について(NSTセミナー)	(株)フードケア					
7月	脱水・水分管理	大塚製薬工場					
8月	食欲と漢方	(株)ツムラ					
9月	乳酸菌プロバイオティクスと プレバイオティクス	四国明治(株)					
10月	サルコペニアとリハビリテー ション栄養 (動画配信)	大塚製薬工場(熊本リ ハビリテーション病院 吉村芳弘先生)					
11月	当院採用の経腸栄養剤と補助 栄養食品について	栄養管理室 安丸あい					
1月	症例報告	南 2 病棟 大田和明					
2月	症例報告	リハビリテーション課 作業療法士 小笠原清貴					







(文責:NST委員 安岡 美佐)

# ※ 薬事委員会

# 12019(令和元)年度 目的・目標

### 目的

- 1. 医薬品の採用・削除を審議する。
- 2. 医薬品使用の適正化並びに円滑化を図る。

# |2||活動内容・目標に対する達成状況 活動内容

- 1. 委員会を4回(5月、8月、11月、2月)開催し た。その結果、新規採用薬56品目(うち、院外 処方専用薬からの切り替えが11品目)、新規院 外処方専用薬38品目(うち、採用薬からの切り 替えが12品目)、採用中止薬(院外専用薬を含 む)45品目の決定と臨時採用薬243品目の承認を 行った。令和元年度末での採用医薬品数は 1,113品目である。
- 2. 新たに後発医薬品へ32品目の変更を行った。後 発医薬品使用体制加算は細木ユニティ病院との 統合により加算1 (後発医薬品の使用割合85% 以上)から加算2(後発医薬品の使用割合80%

以上)に減算となったが、精神科領域で使用頻 度の高い先発医薬品を後発医薬品に変更するこ とで、10月より加算1を算定することができる ようになった。

- 3. 今年度は製薬会社からの通知で一時供給停止と なった医薬品が多く、4品目は代替薬に一時銘 柄変更することで対応した。
- 4. 診療科の要望を受けて薬効別採用薬一覧を作成 し、電子カルテの初期画面に「DI情報」とし て掲載した。
- 5. 未承認薬・禁忌薬・医薬品の適応外使用の業務 手順書を作成し、委員会で承認を得た。
- 6. 院内で発生した副作用報告は薬剤部が一元管理 しており、今年度は18件の報告があった。薬事 委員会で報告するとともに診療運営会議で情報 共有を図った。今後も医局会などで副作用報告 の啓発を行っていく予定である。

(文責:委員長 田中 照夫)

# 😽 安全衛生委員会

当委員会は、職員の安全衛生に関する計画作成と実 施、評価を行い、職員の労働災害・健康障害の防止お よび健康増進を図ることを目的に設置された労働法に 基づく法定委員会です。

令和元年度の主な取り組みについて、以下に報告し ます。

## 12019(令和元)年度の主な取り組み

①令和元年4月1日に、細木病院と細木ユニティ病院 が再統合したため、両院の当委員会も統合し、活動 を開始する初年度となった。

- ②具体的な活動は、年間活動計画に沿って行った。 ⇒表を参照
  - ・6項目の重点実施項目を定め、活動を行う。本年 度も引き続き予防接種の勧奨に取り組むことと し、院内感染対策委員会と連携し、職員のインフ ルエンザ接種は、講堂を使った集団接種とした。
  - ・ストレスチェックの集団分析を元に、高ストレス 集団の高ストレスの分析とその集団への聞き取り と支援を行った。
  - ・健康増進法の改正に伴う、受動喫煙対策と喫煙室 の設置を行った。

### ■ 2019(令和元)年度 安全衛生管理計画書

									20	19年月	医 細木	病院 安	全衛生	管理	計画相	<b>(3</b>	E)		
基本士	目指	1 安全衛生体制を確立し、ゼロ災害を 目指すこと。					状 況	犬 況											
方針			「生教 i 包する		健康診断を計画		3月末労働 者数	時間数	- 2	死亡	休業4日 以上	休業4日 未満	8†	損失	日数	度数	革 強	度率	
事	業場	ጀ	社会區	療法人	仁生会 細木病院				Н	0	5	10	15				Т		
-	C 14		atr An		T37 Tel 822-7211				U	0	1	4	5						
,	听在地	,	高知	7人暦四	37 IEL 822-7211				計	0	6	14	20						
			損失	日数三	業務災害による休	業日	数×300÷3	65 度数率	<u>= 1</u> ,	,000,000	)×死傷件	数÷在籍	労働者の	延労値	肺間	数强	â度率	=1,00	(
重	. <sub>.</sub>	<b>+</b>	施 :	百 <sub>日</sub>	具	t	* 的	実		施	項	E				実		行	Ī
31		大	me .	貝 口	六	ν	נים 4	大		nu.	坝	=	1	4月	5月	6月	7月	8月	Ī
					1)安全衛生の年間計画および基本事項の				審議						0				

	(30人以工)
産業医氏名	森下 延真
衛生管理者氏名	豊田 邦江・荻島 美奈子 井上 加奈子・橋本奈生子
安全・衛生委員会開催有無	有 無
計画書について、安全・衛生 委員会での審議の有無	有 無

(FO L DI L)

損失日数=非	業務災害による	休業日数×	300÷365	度数率=	1,000,000 >	· 死傷件数÷	在籍労働者の	延労伸	肺間	数引	強度率=	=1,00	10×損	失日数	女÷在	籍労働	者の	延労働	時間	数
重点実施項目	<b></b>	体	的	実	施	項	B			実		行			計		画			担当
主	77	lst.	нэ	~	ЛE	-71	П	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	15 3
1. 安全衛生管理体制の確 立・強化	1)安全衛生( 2)安全衛生( 3)北館および 4)災害事例( 5)ストレスチ	委員会の開 が在宅部も に基づく再会	催(月1回) 含めた安全, 発防止対策の	パトロール <i>の</i> D検討実施	)実施			<b>+</b>	0			0	<b> </b>						<b>→</b>	安全衛生委員会 安全衛生委員会 施設課·衛生管理者 安全衛生委員会 病院全体
2. 安全衛生教育の充実	6)新採用研 7)採用時、音 8)業務上お。 9)安全衛生 10)針刺し事も	『署変更時 よび通勤時 数育のため	および業務家 の交通事故  の講習会	変更時の職 防止のため	場教育の多	€施	<u> </u>	0 <b>↓ ↓</b>		0			0	0	0				<b>→</b>	教育委員会 部署管理者 安全衛生委員会·安全運転管理 安全衛生委員会 安全衛生委員会·院内認彔管理
3. 健康診断の実施	11)採用時健原 12)定期健康 13)定期健康 13)定期健康 14)調理に従 15)予防接種(	診断(年1回 診断(年2回 事するもの)	  の職員対象  必要な夜勤  こ対する検例	従事者対 (月1回)の	り確認(業績			0 ++			0	<b>→</b>		0	<b>+</b>		0	<b></b>	<b>-</b>	健康管理センター 健康管理センター 健康管理センター 栄養管理室 安全衛生委員会
4. 機械設備などの改善	16)機器の点 17)作業方法( 18)X線発生場	の改善(改	善提案に基づ	づき随時)	除(安全に	実施)		<b>+ +</b>											<b></b>	施設課·部署管理者 部署管理者·安全衛生委員 放射線室
5. 職場施設·労働環境改善	19)X線発生装 20)病理検查 21)労働環境( 22)危険防止。 23)残業時間 24)腰痛予防	室のホルム の改善(改 対策(危険) 調査と削減	アルデヒド測 善提案および 箇所や危険作 対策の推進	  定の実施  環境測定	こ基づき随			0		0 00	<b>+</b>			0		0			<b>-</b>	放射線室 病理検査室 部署管理者·安全衛生委員 部署管理者·安全衛生委員 部署管理者·安全衛生委員 部署管理者·安全衛生委員 部署管理者·安全衛生委員
6. 健康増進活動の推進	25)職員のステ 26)禁煙の推 27)職員の「高	進と受動喫	煙対策の徹	-	Œ			<b>+</b>											<b>→</b>	総務課·安全衛生委員会 安全衛生委員会 安全衛生委員会

(文責:事務部長 宮地 耕一郎)

# 大規模災害委員会

当委員会は、高知県災害医療救護計画および高知市 支部災害医療救護計画並びに細木病院消防計画および 大規模災害対策計画に基づき、病院における大規模災 害対策の総合的な推進を図ることを目的としていま す。令和元年度の主な取り組みは、以下です。

# 12019(令和元)年度の主な取り組み

- ①災害用簡易トイレの管理手順書の作成と承認
- ②委員会規程の見直しとWGの編成の承認
- ③アクションカードの作成と配布
- ④CSCA図上訓練(9月21日)の企画と実施
- ⑤職員の各種災害対策訓練への参加
  - ·災害時用通信機器(衛星携帯電話·MCA無線)

取り扱い訓練への参加

- ・EMIS情報入力訓練への参加
- ・高知県シェイクアウト訓練への参加
- ・もみのき病院災害訓練(11月17日)への参加
- ⑥災害時の患者搬送用エアーストレッチャー(4台) の導入
- ⑦「救護病院・防災研修会」(1月7日)の開催
  - ・(テーマ)救護病院の役割と実際に行動するポイン ト・心構え
  - ・(講 師)高知医療センター齋坂雄一先生と岡崎敬 看護科長

(文責:事務部長 宮地 耕一郎)

# リハビリテーション委員会

#### 12019(令和元)年度 目的・目標

- 1. 昨年度決定した方針にのっとり、偶数月にリハビリテーション関連の検討事項を協議する場とし、 奇数月は各病棟ユニットからの報告と業務改善提 案などのプレゼンテーションの場とする。
- 2. 令和2年度に控えた病院機能評価に備えるべく、 リハビリテーション関連の議題はこの場を通じて

協議の場を展開していく。

- 3. 令和2年度早期に運用が開始される『ほそぎハートセンター』でのリハビリテーション部門の動き方を協議していく。
- 4. その他、日々の業務で起こっている諸問題について解決策を練っていく。

### 2活動内容・目標に対する達成状況

- 1. 偶数月に開催されるリハビリテーション関連の協議事項は、うれしいことに大きな課題を抱えることはなかった。奇数月に開催される各病棟ユニットからの報告に対しては、医師も病棟職員も興味深く聞き入れていただくとともに相談に乗ってもらうことができ、とても有意義な会の開催となっている。
- 2. 病院機能評価に関連する協議は、『リハビリテーションマニュアル』を見直すことから始め、対応が必要な箇所に関しては、関連部署が集まり解決する方法をとっている。現在のところ、医師の業務支援に関するところの協議が多く、医師事務作業補助者(臨床支援課)には多大な協力をいただき、円滑な業務遂行ができている。
- 3. ほそぎハートセンターは、心大血管疾患リハビリテーションを展開するべく、別途開催された「心臓リハビリテーション・ワーキンググループ」で

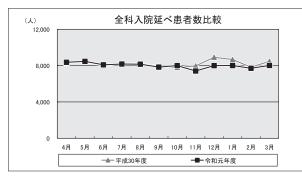
- 協議した内容を情報提供する形で進めてきた。施設基準取得のために四国厚生支局高知事務所にも事務部長、診療情報課長、医事課長、リハビリテーション課長で出向き、必要な情報を直接たずねるなどの活動も行った。
- 4. その他、日々の業務上での諸問題は、各病棟ユニットにリハビリテーション課主任職が令和元年 12月に適正配置されてからは、会の議題で検討することはなく現場レベルで集まって解決するようになっている。
  - ※1年間を振り返ると、とても充実した課題提起と 課題解決のプロセスを踏むことができたのではな いかと思っている。これからも現場からの意見を 抽出し、患者ファーストかつ現場職員目線で問題 解決と業務改善に取り組んでいきたいと考えてい る。

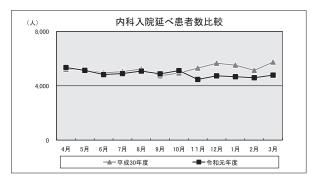
(文責:リハビリテーション委員長 藤本 弘昭)

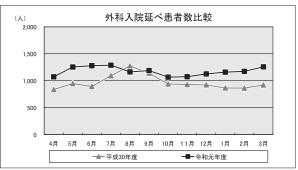
# **診療部**

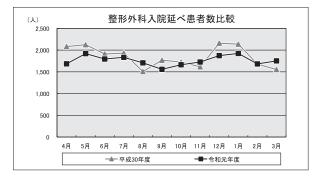
## 2019(令和元)年度 入院患者数統計

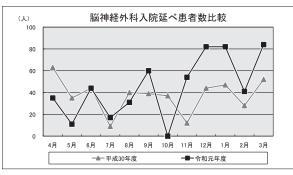
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均合計
稼 働 率(%)	86.8	85.9	85.7	84. 2	83. 1	83. 2	84.8	81.8	82.5	82. 5	84. 7	82. 1	83. 9
延べ患者数(人)	8, 364	8, 466	8, 086	8, 173	8, 155	7, 835	7, 999	7, 407	7, 999	8,009	7, 704	8, 020	96, 217
平均患者数(人)	278.8	273. 1	269.5	263.6	263. 1	261.2	258. 0	246. 9	258. 0	258. 4	265.7	258. 7	3, 155

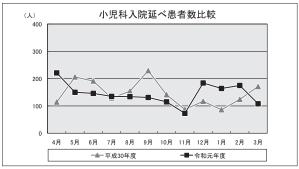


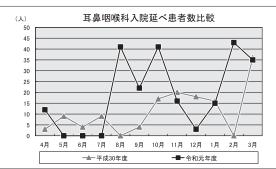








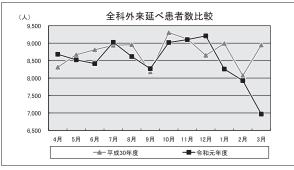


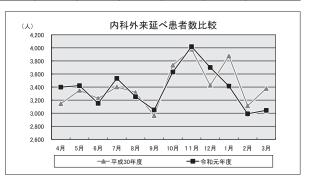


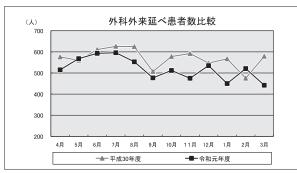
単位:人

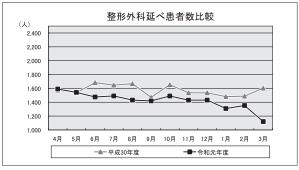
# 2019(令和元)年度 外来患者数統計

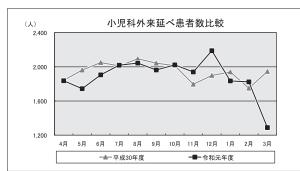
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
実患者数	6, 404	6, 441	6, 287	6, 629	6, 388	6, 188	6, 575	6, 952	6, 879	6, 416	5, 949	5, 322	76, 430
延患者数	8, 682	8, 522	8, 414	9, 026	8, 618	8, 270	9, 019	9, 102	9, 209	8, 259	7, 928	6, 968	102, 017
平均患者数	378. 1	372. 2	342.9	379.5	351.7	367.5	380. 2	399. 5	386. 4	380. 4	364.9	286. 8	4, 390. 1
初診患者数	1, 406	1,506	1, 456	1, 330	1, 342	1, 305	1, 448	1, 538	1, 525	1, 346	1, 195	826	16, 223

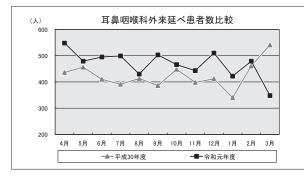


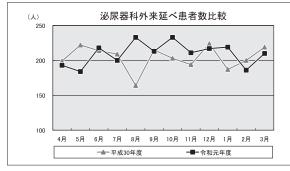


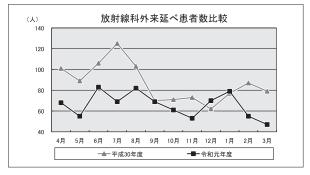


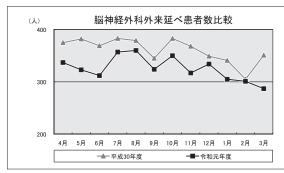


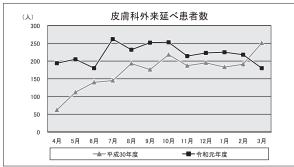












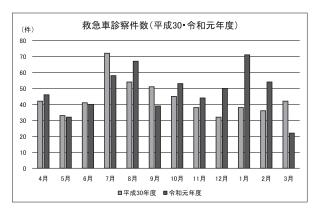
## ■ 2019(令和元)年度 救急件数

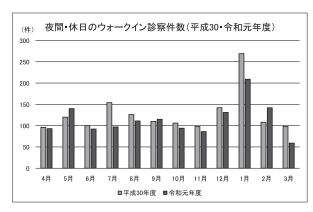
#### 救急車診察件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	42	33	41	72	54	51	45	38	32	38	36	42	524
令和元年度	46	32	40	58	67	39	53	44	50	71	54	22	576

## 夜間・休日のウォークイン診察件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成30年度	96	120	100	154	126	110	106	98	142	269	108	98	1, 527
令和元年度	93	140	92	97	111	115	94	86	131	209	142	59	1, 369





# 検査件数(平成31年4月1日~令和2年3月31日)

# ■ 消化器内科(内視鏡手術を含む)

上芒	8消化管内視鏡	(総数1,917)
	内視鏡的粘膜切除術·粘膜下層剥離術	5
	内視鏡的胃ろう造設術	36
	内視鏡的消化管止血術	5
	内視鏡的逆行性胆道膵管造影	32
	内視鏡的食道静脈瘤結さつ術・硬化療法	2
下苔	昭消化管内視鏡	(総数457)
	内視鏡的ポリープ切除術・粘膜切除術	128
	内視鏡的消化管止血術	5
経局	<b>皮経肝胆嚢ドレナージ</b>	
腹部	80位置 おいまた おいま おいま おいま おいま おいま おいま おいま おいま おいま かんしゅう かんしゅう かいま	
I	コー下肝生検	
	승 計	2, 374

# ■ 糖尿病・内分泌内科(検査)

甲状腺穿刺吸引細胞診	18
合 計	18

### ■ 過去3年間の病理組織検査

	_	_	左	度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
内				科	268	254	279
外				科	113	96	86
整	形	;	外	科	13	24	9
耳		鼻		科	2	0	4
皮		膚		科		25	27
脳	神	経	外	科	1	0	0
歯				科			1
	肣	内	計		397	399	406
Ξ	愛	-	病	院	33	41	40
	合		計		430	440	446

## 手術件数(平成31年4月1日~令和2年3月31日)

## ■ 耳鼻咽喉科(手術)

鼓膜切開術	18
外耳道異物除去術	12
鼓膜チューブ留置術	1
<b>唾石摘出術</b>	1
咽頭異物摘出術	3
下甲介粘膜レーザー焼灼術	1
승 計	36

# ■ 脳神経外科(手術)

脳室―腹腔シャント術	2
慢性硬膜下血腫穿頭洗浄術	3
神経一血管除圧術	1
髄液漏閉鎖術	1
合 計	7

# ■ 循環器科内科(手術)

恒久的ペースメーカー植え込み術	4
ペースメーカー電池交換術	2
	6

# 手術件数(平成31年4月1日~令和2年3月31日)

# ■ 外科(手術)

全麻・腰麻・硬麻	平成30年度	令和元年度
胃癌	179000 172	1070 172
胃全摘術		
開腹	3	
腹腔鏡補助下		
噴門側胃切除術		
結腸癌		
部分切除術	4	5
半側切除術	<u>'</u>	
腹腔鏡補助下		
人工肛門造設術	1	
直腸癌		
高位前方切除術		
	-	2
低位前方切除術	5	2
直腸切断術		1
経肛門的切除術		
人工肛門造設術		1
腹腔鏡補助下		
胆石症	<u> </u>	_
鏡視下胆摘	1	3
鏡視下胆管切石		
開腹胆摘		
胆管切石術		
イレウス		
腸管切除あり		1
腸管切除なし	1	2
胃空腸吻合術		
腸瘻造設·閉鎖		
急性虫垂炎	7	6
成人鼠径ヘルニア	17	17
小児鼠径ヘルニア		1
陰嚢水腫		
腹壁瘢痕ヘルニア	2	1
恥骨上ヘルニア		
大腿ヘルニア	2	
閉鎖孔ヘルニア		
臍ヘルニア		
硬化療法	3	6
結紮切除	2	
	1	
PPH		
	2	
	1	
אמון וער מצו איז אווירה דירי		

直腸脱     デローメ			平成30年度	令和元年度
ガント三輪+Thiersch PPH+Thiersch 開腹術 SSG 肝部分切除術 肝外側区域切除術 肝左葉切除 乳がん 50 40 甲状腺腫瘍 4 1 単純胃切除術 膵頭十二指腸切除術 膵頭十二指腸切除術 膵臓中尾部切除 胆嚢癌 消化管穿孔 腹腔鏡下結腸切除 結腸憩室炎(腸切) 直腸腫瘍切除(経肛門的) 下肢静脈瘤ストリッピング手術 0 1 その他 1 0	直	易脱		
PPH+Thiersch         開腹術         SSG         肝部分切除術         肝外側区域切除術         肝左葉切除         乳がん       50         甲状腺腫瘍       4         単純胃切除術         膵頭十二指腸切除術         膵体尾部切除         胆嚢癌         消化管穿孔         腹腔鏡下結腸切除         結腸憩室炎(陽切)         直腸腫瘍切除(経肛門的)         下肢静脈瘤ストリッピング手術       0       1         その他       1       0		デローメ		
開腹術 SSG 肝部分切除術 肝外側区域切除術 肝左葉切除 乳がん 50 40 甲状腺腫瘍 4 1 単純胃切除術 膵頭十二指腸切除術 膵体尾部切除 腱嚢癌 消化管穿孔 腹腔鏡下結腸切除 結腸憩室炎(腸切) 直腸腫瘍切除(経肛門的) 下肢静脈瘤ストリッピング手術 0 1 その他 1 0		ガント三輪+Thiersch		
SSG  肝部分切除術  肝外側区域切除術  肝左葉切除  乳がん 50 40  甲状腺腫瘍 4 1  単純胃切除術  膵頭十二指腸切除術  膵頭十二指腸切除術  膵体尾部切除  胆嚢癌 消化管穿孔  腹腔鏡下結腸切除  結腸憩室炎 (腸切)  直腸腫瘍切除 (経肛門的)  下肢静脈瘤ストリッピング手術 0 1  その他 1 0		PPH+Thiersch		
肝部分切除術         肝外側区域切除術         肝左葉切除         乳がん       50       40         甲状腺腫瘍       4       1         単純胃切除術       膵頭十二指腸切除術         膵体尾部切除          胆嚢癌       消化管穿孔         腹腔鏡下結腸切除          結腸憩室炎(腸切)          直腸腫瘍切除(経肛門的)          下肢静脈瘤ストリッピング手術       0       1         その他       1       0		開腹術		
肝外側区域切除術         肝左葉切除         乳がん       50       40         甲状腺腫瘍       4       1         単純胃切除術       夢頭十二指腸切除術       上養癌         膵体尾部切除       原腔鏡下結腸切除         結腸憩室炎(腸切)       直腸腫瘍切除(経肛門的)         下肢静脈瘤ストリッピング手術       0       1         その他       1       0	SS	SG		
肝左葉切除       乳がん     50     40       甲状腺腫瘍     4     1       単純胃切除術     #       膵頭十二指腸切除術     #       腱へ尾部切除     #       胆嚢癌     消化管穿孔       腹腔鏡下結腸切除     #       結腸憩室炎(腸切)     #       直腸腫瘍切除(経肛門的)     T       下肢静脈瘤ストリッピング手術     0     1       その他     1     0	肝岩	部分切除術		
<ul> <li>乳がん</li> <li>巨状腺腫瘍</li> <li>単純胃切除術</li> <li>膵頭十二指腸切除術</li> <li>膵体尾部切除</li> <li>胆嚢癌</li> <li>消化管穿孔</li> <li>腹腔鏡下結腸切除</li> <li>結腸憩室炎(陽切)</li> <li>直腸腫瘍切除(経肛門的)</li> <li>下肢静脈瘤ストリッピング手術</li> <li>ひ</li> <li>1</li> <li>0</li> </ul>	肝多	外側区域切除術		
甲状腺腫瘍       4       1         単純胃切除術       膵頭十二指腸切除術         膵体尾部切除       上嚢癌         消化管穿孔       腹腔鏡下結腸切除         糖腸憩室炎(腸切)       直腸腫瘍切除(経肛門的)         下肢静脈瘤ストリッピング手術       0       1         その他       1       0	肝	生葉切除		
単純胃切除術         膵頭十二指腸切除術         膵体尾部切除         胆嚢癌         消化管穿孔         腹腔鏡下結腸切除         結腸憩室炎(腸切)         直腸腫瘍切除(経肛門的)         下肢静脈瘤ストリッピング手術       0         その他       1	乳力	がん	50	40
膵頭十二指腸切除術       膵体尾部切除       胆嚢癌       消化管穿孔       腹腔鏡下結腸切除       結腸憩室炎(腸切)       直腸腫瘍切除(経肛門的)       下肢静脈瘤ストリッピング手術     0       その他     1     0	甲半	犬腺腫瘍	4	1
膵体尾部切除       胆嚢癌       消化管穿孔       腹腔鏡下結腸切除       結腸憩室炎(腸切)       直腸腫瘍切除(経肛門的)       下肢静脈瘤ストリッピング手術     0       その他     1     0	単純	吨胃切除術		
胆嚢癌 消化管穿孔 腹腔鏡下結腸切除 結腸憩室炎 (陽切) 直腸腫瘍切除 (経肛門的) 下肢静脈瘤ストリッピング手術 0 1 その他 1 0	膵頭	頂十二指腸切除術		
消化管穿孔 腹腔鏡下結腸切除 結腸憩室炎 (腸切) 直腸腫瘍切除 (経肛門的) 下肢静脈瘤ストリッピング手術 0 1 その他 1 0	膵体	本尾部切除		
腹腔鏡下結腸切除結腸憩室炎(陽切)直腸腫瘍切除(経肛門的)下肢静脈瘤ストリッピング手術01その他10	胆酮	養癌		
結腸憩室炎(腸切)       直腸腫瘍切除(経肛門的)       下肢静脈瘤ストリッピング手術     0     1       その他     1     0	消化	比管穿孔		
直腸腫瘍切除(経肛門的)       下肢静脈瘤ストリッピング手術     0     1       その他     1     0	腹肌	空鏡下結腸切除		
下肢静脈瘤ストリッピング手術       0       1         その他       1       0	結別	陽憩室炎(腸切)		
その他 1 0	直	陽腫瘍切除(経肛門的)		
1 3	下月	<b></b> 肢静脈瘤ストリッピング手術	0	1
合 計 107 88	70	D他	1	0
		<u></u> 合 計	107	88

乳房腫瘍摘出術	6	9
陷入爪手術		
皮膚皮下腫瘍摘出術	16	14
切開排膿術	3	
創傷処理		1
リンパ節生検	1	
血腫除去	1	
趾切断	1	
リンパ浮腫ドレナージ	3	
その他	6	2
合 計	37	26
2.17.10.71		

# 手術件数(平成31年4月1日~令和2年3月31日)

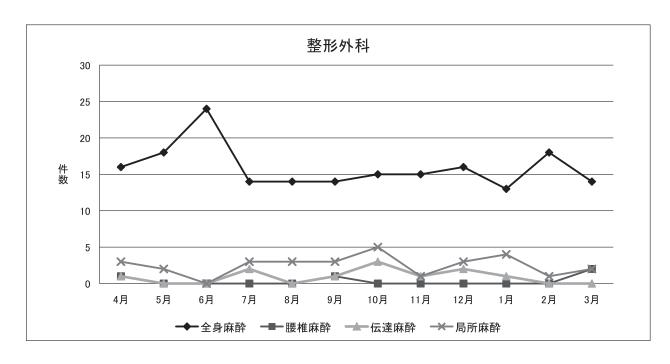
# ■ 整形外科(手術)

Ι.	脊椎手術	
	側弯症手術	0
	頚椎	0
	胸椎	5
	腰椎	47
	脊髄·脊椎腫瘍手術	0
$\mathbb{I}$ .	小児整形	10
$\mathbb{I}$ .	関節手術	
	1)肩関節	13
	2) 肘関節	3
	3)股関節	
	人工関節置換術	8
	その他	11
	4)膝関節	
	人工関節置換術	18
	靭帯縫合・再建	0
	その他	12
	5)足関節手術	2

V.	手・末梢神経手術	
	1)末梢神経手術	20
	2) 手外科手術	7
V.	腫瘍摘出術	
	1)骨腫瘍摘出術	0
	2) 軟部腫瘍摘出術	5
M.	骨髓炎手術	0
VI.	骨接合術	31
W.	バイオプシー	0
X.	その他	42
	合 計	234

# ■ 整形外科(手術)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全身麻酔	16	18	24	14	14	14	15	15	16	13	18	14	191
腰椎麻酔	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2
伝達麻酔	1	0	0	2	0	1	3	1	2	1	0	0	11
局所麻酔	3	2	0	3	3	3	5	1	3	4	1	2	30
												総計	234



# 看護部

# 2019(令和元)年度 病棟別業務実績

# ■ 新 1 病棟(病棟形態:回復期リハビリテーション病棟)

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	90. 1	86. 4	86. 8	85.8	81.1	69. 5	89. 3	80. 4	81.3	79.0	83. 2	90. 9
平均患者数(人)	47. 9	44. 9	45. 1	44. 6	42. 2	36. 1	46. 5	41.8	42.3	41.1	43. 2	47. 3
平均在院日数(日)	78. 7	81.4	80. 6	73. 1	70.3	65. 6	66. 6	69. 3	74. 2	64. 5	62. 9	76. 8

# ■ 新2病棟(病棟形態:地域包括ケア病棟)

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	79. 9	77.5	80.7	84. 1	75. 7	76. 5	71.0	72.9	79. 1	83. 8	85. 2	76. 3
平均患者数(人)	47. 9	46. 5	48. 4	50. 5	45. 4	45. 9	42.6	43.8	47. 5	50. 3	51. 1	45. 8
平均在院日数(日)	25. 2	24.6	25. 2	27. 1	27. 3	29. 3	27.9	29. 3	26. 8	26. 8	26. 9	29. 9

# ■ 新 3 病棟(病棟形態:急性期一般病棟)

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	84. 2	81.5	79.6	71.4	77.5	79. 0	75.3	70.8	73. 6	71.6	74.8	69. 3
平均患者数(人)	50.5	48. 9	47. 7	42.8	46. 5	47. 4	45. 2	42.5	44. 2	42. 9	44. 9	41.6
平均在院日数(日)	15. 9	16.6	16.8	16. 1	14. 6	15. 1	16.8	18.3	16. 7	14. 6	12. 9	14.0

## ■ 南 1 病棟(病棟形態:医療療養病棟)

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	93.0	95.8	91.8	89. 6	92. 2	87. 6	81.5	80.6	82. 2	82. 8	88. 0	81.5
平均患者数(人)	48. 4	49.8	47. 7	46. 6	47. 9	45. 5	42. 4	41.9	42. 7	43. 1	45. 8	42. 4
平均在院日数(日)	426. 4	562.9	590. 4	680. 2	513. 2	477. 3	396. 7	328.0	251.3	290. 2	379. 7	361.4

# ■ 南 2 病棟(病棟形態:医療療養病棟)

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	86.0	82.6	80.7	79. 1	80.8	80. 9	32. 2	74. 2	78. 5	78. 1	82. 9	83. 9
平均患者数(人)	42. 1	40.5	39. 5	38. 8	39. 6	39. 6	40.8	36. 3	38. 5	38. 3	40. 6	41.1
平均在院日数(日)	258. 4	296.8	336.8	364. 3	380. 5	361.8	368.0	262. 4	272. 8	239. 2	355. 6	428. 1

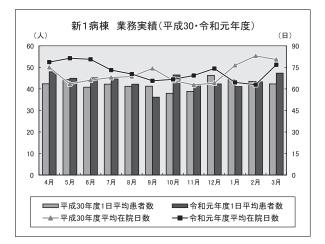
# ■ 南 3 病棟(病棟形態:障害者施設等一般病棟)

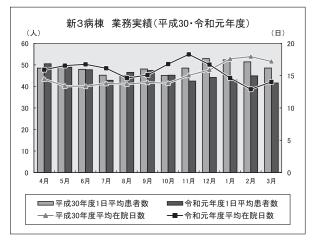
令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	90. 2	89. 0	87.7	79. 9	83. 7	87. 7	85.7	82. 2	83. 0	81.5	82. 5	88.8
平均患者数(人)	27. 1	26. 7	26. 3	24. 0	25. 1	26. 3	25. 7	24. 7	24. 9	24. 5	24. 8	26. 7
平均在院日数(日)	2, 475. 0	1, 668. 7	1, 214. 5	590.0	660.0	660.0	945. 6	664.6	659. 7	648. 6	642. 3	657. 7

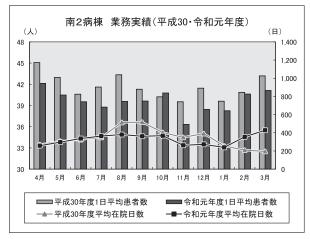
#### ■ ポピー病棟(病棟形態:緩和ケア病棟)

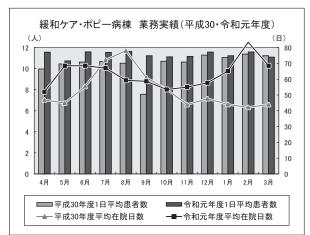
	1.1.0.15.00.	1000 1111 1	71 3 1-1-7									
令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率(%)	96. 4	89. 5	96. 7	96. 2	97. 0	93. 6	92. 7	93. 1	96. 5	93. 6	96. 6	92.5
平均患者数(人)	11.6	10.7	11.6	11.6	11.7	11. 2	11.1	11.2	11.6	11.2	11.6	11.1
平均在院日数(日)	52.0	68. 5	68. 5	67. 0	59. 3	58. 7	53. 5	55.0	57. 7	65. 1	83. 4	68.5

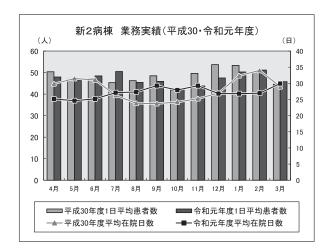
# 1日平均患者数と平均在院日数の前年度比

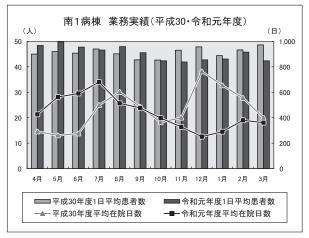


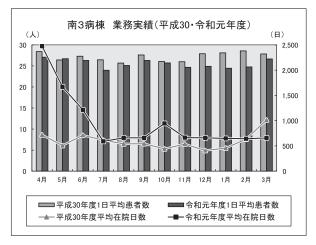








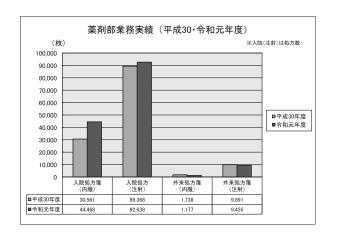


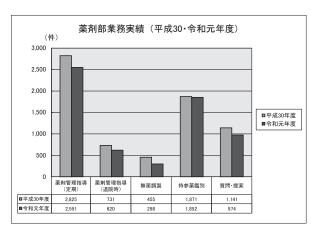


# **三**薬剤部

## ■ 薬剤部 業務実績件数

項目			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院処方	内	服	3, 627	3, 645	3, 783	3, 709	3, 880	3, 651	3, 898	3, 793	3, 729	3, 593	3, 622	3, 538	44, 468
入院処方	注	射	7, 736	8, 284	8, 524	7, 471	7, 623	8, 193	8, 860	7, 546	7, 824	6, 896	7, 093	6, 588	92, 638
外来処方	内	服	80	123	97	113	116	93	92	83	89	113	96	82	1, 177
(院内処方分)	注	射	885	903	942	879	867	791	792	635	791	732	697	521	9, 435
薬剤管理指導	定期指	導	180	217	257	247	286	216	214	214	203	203	179	135	2, 551
采用官连拍等	退院指	導	40	50	62	53	76	52	45	51	50	54	54	33	620
無菌調製			36	29	29	30	23	20	25	16	20	24	19	27	298
医薬品情報	持参薬錠	監別	167	148	178	164	169	147	137	118	156	181	160	127	1,852
医薬品情報	質問、挑	案	63	99	74	99	78	76	99	56	84	98	84	64	974

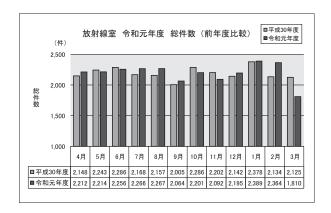


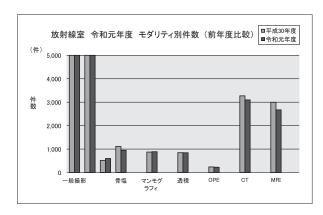


# 宣 医療技術部

### ■ 放射線室 撮影件数表

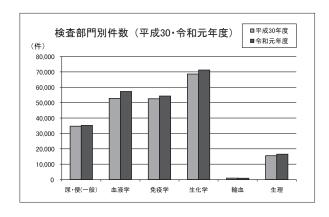
	撮	影	骨塩	マンモ	透視	OPE		健	診			СТ		MF	<b>?</b>
	一般	ポータブル	月塩	グラフィ	匹化	OFL	胸部	胃透視	骨塩	マンモ	単純	造影	心臓	単純	造影
平成30年度	12, 614	1, 424	880	277	282	238	2, 900	564	232	596	2, 876	336	59	2, 839	157
令和元年度	12, 627	1, 524	710	276	353	225	2, 971	489	239	611	2, 729	291	78	2, 529	143
前年度比(%)	100.1	107. 0	80.7	99. 6	125. 2	94. 5	102.4	86. 7	103.0	102.5	94. 9	86. 6	132. 2	89. 1	91. 1





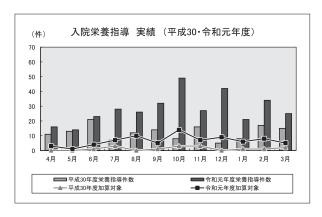
### ■ 臨床検査室 検査部門別件数推移(平成30年度~令和元年度)

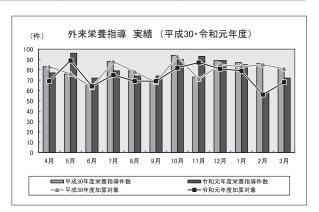
	平成30年度	令和元年度	前年度比
尿·便(一般)	34, 692	35, 204	101.5%
血液学	52, 756	57, 265	108.5%
免疫学	52, 534	54, 290	103.3%
生化学	68, 607	71, 205	103.8%
輸血	949	859	90.5%
生理	15, 518	16, 481	106. 2%



## ■ 栄養管理室 業務実績件数

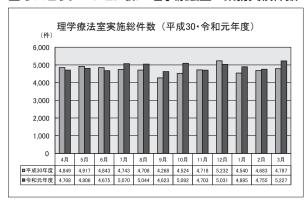
令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院栄養指導(件)	16	14	23	28	26	32	49	27	42	21	34	25
加算対象(件)	3	1	4	7	10	5	14	7	9	6	8	5
令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来栄養指導(件)	77	96	72	79	74	74	90	93	89	85	58	72
加算対象(件)	69	89	64	75	69	69	82	87	81	79	56	68



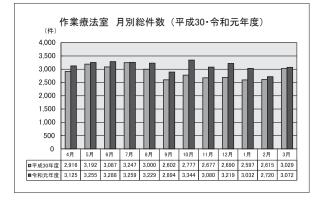


単位:件

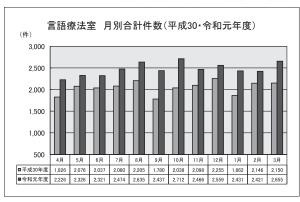
#### ■ リハビリテーション課 理学療法室 業務実績件数



#### ■ リハビリテーション課 作業療法室 業務実績件数



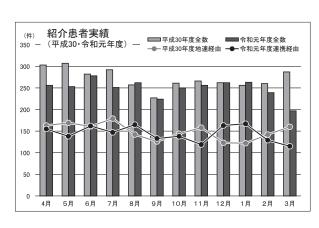
## ■ リハビリテーション課 言語療法室 業務実績件数



# **宣 ほそぎ連携センター**

#### ■ 紹介患者実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度比(%)
A和二左府	全数	256	253	278	251	262	224	250	256	262	263	239	197	2, 991	91.7
令和元年度	ほそぎ連携センター経由	155	138	162	147	165	133	138	119	163	167	129	115	1, 731	96. 8
亚라20年度	全数	303	307	282	292	257	227	261	266	262	256	260	287	3, 260	98. 5
平成30年度	地域連携推進センター経由	163	169	161	179	142	126	144	158	123	122	142	160	1, 789	95. 3



# **宣**在宅部

# 令和元年度 在宅部業務実績

# ■ ケアサポートセンターほそぎ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成30年度介護保険利用者数(人)	233	230	229	222	208	216	225	223	217	210	211	217	2, 641	220
平成30年度介護予防利用者数(人)	5	5	4	6	6	8	8	9	8	7	8	8	82	7
令和元年度介護保険利用者数(人)	215	212	213	215	216	211	214	217	221	219	221	224	2, 598	217
令和元年度介護予防利用者数(人)	7	9	9	10	10	10	10	9	9	10	11	10	114	10

# ■ 訪問看護ステーションほそぎ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成30年度 利用者数(人)											127	140	267	134
平成30年度 のべ回数 (回)											507	565	1,072	536
令和元年度 利用者数(人)	141	129	137	135	135	131	137	133	137	130	123	118	1, 586	132
令和元年度 のべ回数(回)	576	506	561	626	591	533	588	552	607	564	501	570	6, 775	565

# ■ 訪問リハビリテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成30年度 利用者数(人)	41	41	41	41	39	38	42	41	41	37	38	44	484	40
平成30年度 のべ回数(回)	242	270	259	260	257	238	291	299	269	239	239	290	3, 153	263
令和元年度 利用者数(人)	42	47	46	46	45	46	47	47	43	46	48	45	548	46
令和元年度 のべ回数(回)	281	284	282	305	281	280	316	271	255	263	269	265	3, 352	279

## ■ ホームヘルパーステーション城西

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成30年度 利用者数(人)	100	97	98	95	92	91	100	97	94	94	101	106	1, 165	97
平成30年度 のべ回数 (回)	688	773	696	686	687	631	712	661	632	644	703	772	8, 285	690
令和元年度 利用者数(人)	103	101	107	108	105	102	102	96	101	95	93	88	1, 201	100
令和元年度 のべ回数(回)	796	807	752	838	764	751	798	731	751	703	601	610	8, 902	742

# ■ デイケア ゆうゆう

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成30年度 利用者数(人)	69	66	67	63	62	68	70	66	65	67	71	72	806	67
平成30年度 のべ回数(回)	737	734	646	622	641	622	728	646	658	621	639	710	8,004	667
令和元年度 利用者数(人)	73	73	79	78	79	70	69	73	76	74	72	73	889	74
令和元年度 のべ回数(回)	707	772	722	814	702	694	751	777	784	740	726	697	8, 886	741

## ■ デイサービス 赤とんぼ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成30年度 利用者数(人)	26	26	27	25	23	21	22	20	20	23	24	24	281	23
平成30年度 のべ回数(回)	245	279	262	240	219	203	216	209	224	182	226	244	2, 749	229
令和元年度 利用者数(人)	22	23	23	23	23	25	24	25	24	21	20	22	275	23
令和元年度 のべ回数(回)	217	218	223	226	213	236	228	239	225	197	196	213	2, 631	219

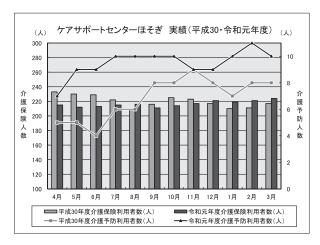
## ■ デイサービス さくらんぼ

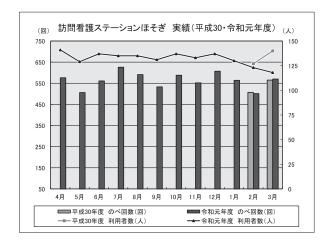
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成30年度 利用者数(人)	21	21	22	20	16	21	23	24	24	23	25	25	265	22
平成30年度 のべ回数 (回)	247	251	256	202	210	229	269	252	241	220	228	262	2, 867	239
令和元年度 利用者数(人)	22	20	19	21	21	22	20	21	21	21	21	20	249	21
令和元年度 のべ回数(回)	242	200	210	253	243	248	256	267	248	238	234	218	2, 857	238

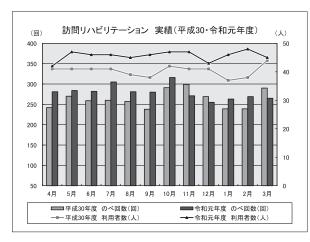
# ■ デイサービス いちご学校

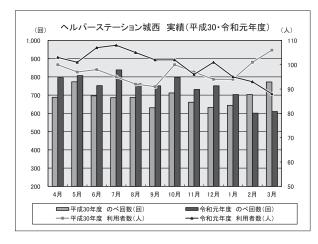
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成30年度 利用者数(人)	22	24	24	24	24	25	25	26	26	26	25	25	296	25
平成30年度 のべ回数(回)	231	244	266	254	256	244	269	251	244	227	232	255	2, 973	248
令和元年度 利用者数(人)	24	24	26	24	22	22	24	24	25	25	32	31	303	25
令和元年度 のべ回数(回)	259	258	245	268	250	243	270	261	229	233	297	299	3, 112	259

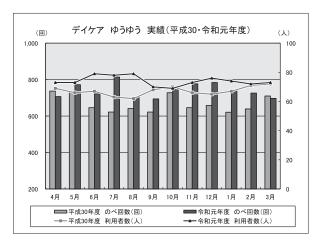
# 在宅部業務実績 前年度比

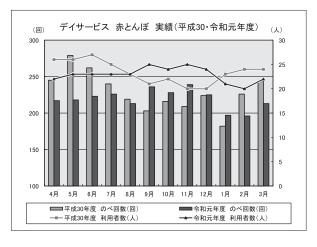


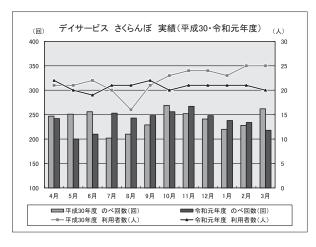


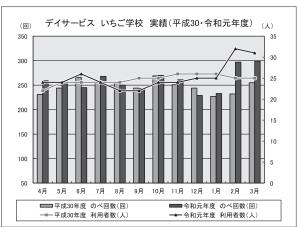












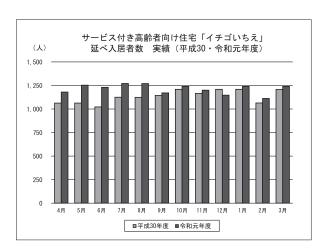
# ■ グループホーム 入居者の概要(令和2年3月31日現在)

事業所名	定員	要介護 1	要介護 2	要介護3	要介護 4	要介護5	男女	平均年齢		
争未別石	上	安川護川	安川磯乙	安川護り	安川 護 4	安川護り	男性	女性	サンツ十 図巾	
西町	17名	4名	3名	5名	1名	2名	1名	14名	88.8歳	
ハッピー万々	15名	4名	2名	5名	3名	1名	0名	15名	86. 2歳	
赤とんぼ	9名	2名	0名	3名	2名	2名	2名	7名	86.5歳	
さくらんぼ	18名	7名	3名	4名	4名	0名	3名	15名	88. 3歳	

# ■ サービス付き高齢者向け住宅「イチゴいちえ」 部屋数:39室

					_								
平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	30. 4
延べ入居者数	1,063	1,063	1,022	1, 125	1, 124	1, 144	1, 209	1, 166	1, 209	1, 209	1,064	1, 207	1, 134
1日平均入居者数	35. 4	34. 3	34. 1	36. 3	36. 3	38. 1	39.0	38. 9	39.0	39.0	38. 0	38.9	37. 3
入居率	90.9%	87.9%	87.4%	93.1%	93.0%	97.8%	100.0%	99. 7%	100.0%	100.0%	97.4%	99.8%	95.6%

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	30. 5
延べ入居者数	1, 180	1, 253	1, 230	1, 271	1, 270	1, 171	1, 240	1, 200	1, 147	1, 240	1, 112	1, 240	1, 213
1日平均入居者数	39. 3	40. 4	41.0	41.0	41.0	39.0	40.0	40.0	37. 0	40.0	38. 3	40.0	39. 8
入居率	100.9%	103.6%	105.1%	105.1%	105.0%	100.1%	102.6%	102.6%	94.9%	102.6%	98.3%	102.6%	101.9%



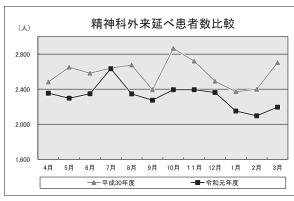
# ▶こころのセンター診療実績・業務実績統計

# 宣 こころ診療部

## ■ 2019(令和元)年度 外来患者数統計

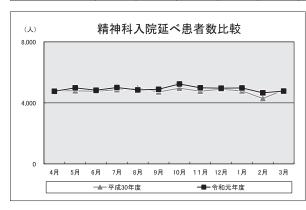
# 単位:人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
実患者数	1, 057	1, 051	1, 073	1, 124	1,060	1, 059	1, 073	1, 167	1, 078	1,024	1, 015	1,038	12, 819
延患者数	2, 354	2, 297	2, 348	2, 634	2, 346	2, 274	2, 394	2, 394	2, 362	2, 151	2, 096	2, 195	27, 845
平均患者数	98. 1	95. 7	90.3	105. 4	90. 2	94.8	95.8	99.8	94. 5	93. 5	91.1	84. 4	1, 133. 6
初診患者数	13	20	30	23	24	23	16	27	14	19	20	16	245

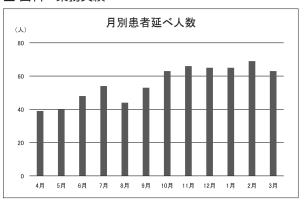


#### ■ 2019(令和元)年度 入院患者数統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均合計
稼 働 率(%)	86. 2%	87. 4%	87.5%	87. 7%	85.0%	88.6%	91.8%	90.3%	87.0%	87. 3%	87. 3%	83. 7%	87.5%
延べ患者数(人)	4, 760	4, 983	4, 829	5, 004	4, 848	4, 890	5, 238	4, 986	4, 963	4, 977	4, 659	4, 773	58, 910
平均患者数(人)	158. 7	160.7	161.0	161.4	156. 4	163. 0	169. 0	166. 2	160. 1	160.5	160.7	154.0	161.0

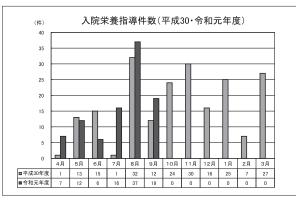


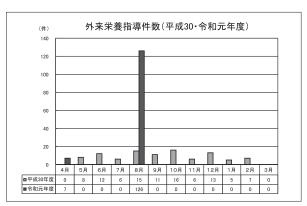
# ■ 歯科 業務実績



# 宣 医療技術部

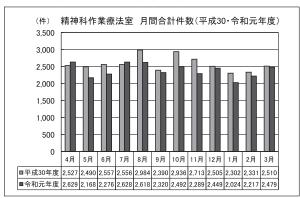
### ■ こころ栄養管理室 栄養指導件数



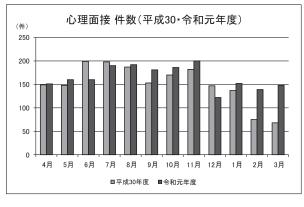


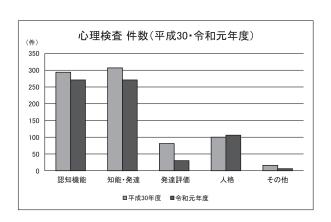
\*栄養ケア・マネジメント加算 対象外のため省略しました

### ■ 精神科作業療法室 月間合計件数



# ■ 臨床心理室 検査・面接実績件数





# 細木病院 「第4回学術集会 i n細木」

開催日:2019年9月10日(火) 開催時間:17時45分~19時10分

開催場所:細木病院 新館地下 高行記念講堂

演題・内容	○発表者
1. 司会進行	岡崎 千佐子
2. 開会の挨拶	院長 堀見 忠司
3. 前半の演題(口演)	座長 上地 一平、上田 祐二
(1)蓄積された退院患者データから見えてくるもの 〜細木病院の疾病分類傾向を読み解く!!〜	事務部 診療情報課 〇山本 淑恵
(2)発達障害を持つ成人への多面的アプローチ	医療技術部 臨床心理室 〇池田 貴美
(3)初めて上部内視鏡検査を受ける患者の看護援助 ー鎮痛剤未使用の患者に焦点をあてて-	看護部 外来 〇織田 さおり
4. 後半の演題(口演)	座長 西岡 達矢、松田 幸彦
(4)閉鎖病棟において看護師が抱く陰性感情とサポー ト体制の検討	看護部 北5病棟 〇岡村 明寿香
(5)通所リハビリテーション事業所における大地震を 想定したBCPへの取り組み	在宅部 老人デイケアゆうゆう 〇竹内 あさみ
(6)洞不全症候群発症を契機に診断に至ったリチウム 中毒の一例	診療部 初期臨床研修医 〇篠田 知周
5. 総評	理事長 細木 秀美
6. 優秀演題の表彰・閉会の挨拶	院長 堀見 忠司

「第4回 学術集会 i n細木」は約200名の参加があり、大変盛会な学術集会となった。この学術集会は、学会発表した内容や各部門の取り組みなどを職員間で共有するとともに、学術活動の質向上を図ることを目的としている。

開会挨拶で堀見忠司院長は「今回は細木病院と細木ユニティ病院が再統合して初めて開催される学術集会です。他の部署の活動を知ることが一番の目的です。ホットなディスカッションを期待しています」と述べられた。座長は4人の副院長が務め、優秀演題の選考は6人の部門長が務めた。優秀演題の選考基準は、①タイトル、②抄録、③インパクト(新規性、発展性、社会的価値)、④内容(方法、考察)、⑤発表態度(表現力、スライド、発表時間、質疑応答)となっており、6人の総合得点で選考された。

今回、最優秀演題に選ばれたのは、医療技術部の池田貴美公認心理師による「発達障害を持つ成人への多面的アプローチ」であった。入院から外来治療への経過を通して多職種による多面的アプローチが有効であった一例が発表された。優秀演題は在宅部老人デイ

ケアゆうゆうの竹内あさみ介護福祉士の「通所リハビリテーション事業所における大地震を想定したBCPへの取り組み」であり、他の発表も得点が高く接戦であった。

細木秀美理事長からは、「6 演題ともとても良かった!」と総評された上で、それぞれの発表について、 感想、アドバイス、期待などが述べられた。今後も年 2回開催する予定である。



最優秀演題に選ばれた医療技術部臨床心理室 池田貴美公認心理師の発表

(文責:薬剤部長・医療技術部長 田中 照夫)

# ■診療部

### 総合診療科

#### □取材

1. 深田順一:「シリーズ 地域医療を考える 細木病院 深田順一院長に聞く 糖尿病」、毎日新聞、2020年 1月31日

### 内科

#### □学会・研究会

- 1. ○藤吉佑樹、丸山博、篠田知周、砥上幸樹、中尾朋未、堀見忠司:「洞不全症候群発症を契機に診断に至ったリチウム中毒の一例」、第72回高知県医師会医学会、高知県高知市、2019年8月24日
- 2. ○丸山博、篠原雅幸、品原正幸、熊谷千鶴、中村寿宏、西岡達矢:「2型糖尿病治療中にアルコール性ケトアシドーシスを発症した一例」、第19回日本内分泌学会四国支部学術集会、高知市、2019年9月14日
- 3. ○品原正幸、西岡達矢、熊谷千鶴、丸山博、篠原雅幸:「亜急性甲状腺炎を合併し可溶性IL-2受容体高値を 呈したバセドウ病の一例」、第19回日本内分泌学会四国支部学術集会、高知県高知市、2019年9月14日

#### □座 長

1. 西岡達矢:「原発性副甲状腺機能亢進症における内科的治療」、今西康雄、第19回日本内分泌学会四国支部学術集会(会長 西岡)、高知県高知市、2019年9月14日

### 呼吸器内科

#### □講義(講師、院外研修指導者含む)

1. 小林誠:「肺真菌症」、高知大学医学部臨床講義(3年生)、南国市、2019年5月17日

#### 消化器内科

### □学会・研究会

1. ○上田祐二:演題名:極めつけの1例 「今でも記憶に残る症例」、第227回大腸疾患研究会、大阪市、2019 年4月5日

### □講演(講習会を含む)

- 1. 上田祐二:「内服薬による消化管傷害 Part1」、高知中央ロータリークラブ定例会、高知市、2019年5月9日
- 2. 上田祐二:「内服薬による消化管傷害 Part2」、高知中央ロータリークラブ定例会、高知市、2019年10月 31日
- 3. 上田祐二:「内服薬による消化管傷害 Part3」、高知中央ロータリークラブ定例会、高知市、2020年1月23日

# 循環器内科

#### □誌上発表

- 1. 山本哲史: [Intravascular Ultrasound Guided Switchback Wiring For Chronic Total Occlusion]、24th CARDIOVASCULAR SUMMIT Transcatheter Cardiovascular Therapeutics Asia Pacific (TCTAP)、2019月4月28日
- 2. 山本哲史:「近森病院の心房細動アブレーションにおける2nd sessionの解析」、不整脈治療セミナー 2019、2019年6月20日
- 3. 山本哲史:「不整脈治療に起因した合併症」、CCIT Chu-Shikoku Conference for Interventional Therapeutics 2019、2019年9月6日
- 4. 山本哲史:「『私の1週間』: Case Presentation Session 『令和のPCI~これからのPCIはこれだ!』第10 回中四国YES Club -Youthful Educational Spirits-」、2019年12月13日
- 5. 古川敦子: [HFrEFをみたら考える疾患とは?]、月刊心エコー Vol. 21 No. 1 P. 14-22、2020年1月
- 6. 古川敦子:「ファブリー病、アミロイドーシス、サルコイドーシス」、循環器ジャーナルVol.68 No.2 P. 368-375、2020年2月
- 7. 古川敦子:「全身疾患と心エコー 肥満 (MetS)、糖尿病患者」、実践に活きる臨床心エコー図法 P.328-330、2020年3月

#### □学会・研究会

- 1. 〇古川敦子、福岡陽子、尾原義和、宮地剛、細木信吾、畠中茉莉子、上田浩平、盛實篤史、西田武、阿部幸雄:「救急医における大動脈弁狭窄症の簡易スクリーニング法の有用性」、日本心エコー図学会第30回学術集会、松本市、2019年5月10日~12日
- 2. ○瀬川朗、冨士田崇子、山本哲史、中岡大士、白神実、石田正之、川井和哉、浜重直久:「急速な改善の経過が心エコーで捉える事ができた、肺炎に合併した右心不全の1例」、第120回日本内科学会 四国地方会、2019年5月12日
- 3. 〇冨士田崇子、西村祐希、山本哲史、中岡洋子、要致嘉、林悟、窪川渉一、川井和哉、浜重直久、土居義典:「くも膜下出血に合併するたこつぼ心筋障害の頻度および臨床像」、第61回日本老年医学会 学術集会、2019年6月6日~8日
- 4. ○河本マリナ、西村祐希、冨士田崇子、松田英之、今井龍一郎、中岡洋子、西田幸司、山本哲史、関秀一、 窪川渉一、川井和哉、浜重直久、入江博之:「聴診所見が有用であった溶血性貧血の1例」、第114回日本循 環器学会中国四国地方会、2019年6月8日~9日
- 5. 〇小松洵也、西村祐希、松田英之、今井龍一郎、中岡洋子、西田幸司、山本哲史、関秀一、窪川渉一、川井和哉、浜重直久、入江博之:「冠動脈閉塞のリスクを考慮し、SAVRを選択した重症大動脈弁狭窄症の2症例」、第114回日本循環器学会中国四国地方会、2019年6月8日~9日
- 6. 〇古川敦子: 「Fallot 四徴症術後遠隔期の一例」、第114回日本循環器学会中国・四国合同地方会 小児・成 人先天性心疾患部会セミナー、高松市、2019年6月9日
- 7. 〇古川敦子:「心筋梗塞後重度僧帽弁逆流に対しMitracripを施行した症例」、The Echo Live 2019、大阪市、2019年6月15日~16日
- 8. ○今井龍一郎、渡辺圭介、関秀一、西村祐希、松田英之、菅根裕紀、西田幸司、山本哲史、窪川渉一、川井和哉、浜重直久:「高度石灰化を伴う浅大腿脈、膝窩動脈のCTO病変に対してSUPERA stentで治療した1例」、26回日本心血管インターベンション治療学会、2019年9月7日~8日
- 9. ○渡邉圭介、今井龍一郎、関秀一、西村祐希、松田英之、菅根裕紀、西田幸司、山本哲史、窪川渉一、川井和哉、浜重直久:「大腿膝窩動脈病変に対する、薬剤コーティングバルーン(DCB)治療後の再狭窄症例」、第26回日本心血管インターベンション治療学会、2019年9月7日~8日
- 10. 〇菅根裕紀、今井龍一郎、西田幸司、山本哲史、川井和哉:「急性冠症候群を疑う患者において、血管造影上有意狭窄病変を認めない場合の至適な追加検査とは?:OCTにおいて特徴的な所見を呈した急性冠症候群の1例から考察」、第26回日本心血管インターベンション治療学会、2019年9月7日~8日
- 11. ○今井龍一郎、関秀一、西村祐希、松田英之、菅根裕紀、西田幸司、山本哲史、窪川渉一、川井和哉、浜重直久:「当院における膝窩大腿動脈病変への薬剤コーティング(LUTONIX and IN. PACT Admiral)の臨床成績」、第28回日本心血管インターペンション治療学会 CVIT2019、2019年9月19日~21日
- 12. ○小松洵也、山本哲史、西村祐希、松田英之、今井龍一郎、中岡洋子、西田幸司、関秀一、窪川渉一、川井和哉:「不安定狭心症で発症し、その後亜急性ステント血栓症を来した甲状腺機能亢進症の1例」、第28回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2019、2019年9月19日~21日
- 13. 〇盛實篤史、古川敦子、宮地剛、伊与田比呂人、畠中茉莉子、内藤麻巳子、竹内慎哉、齋坂雄一、西田武司:「救急外来における大動脈弁狭窄症に対する簡易スコアリング指標の有用性に関する検討」、第47回日本救急医学会総会・学術集会、東京都、2019年10月2日~4日
- 14. ○宮元祥平、上田彩末、青地千亜紀、清遠由美、谷内亮水、上田浩平、福岡陽子、古川敦子、尾原義和、宮地剛:「胸痛時の局所壁運動異常を経胸壁心エコー図検査でとらえた冠攣縮性狭心症の1例」、日本超音波医学会第29回四国地方会学術集会、高松市、2019年10月12日
- 15. ○菅根裕紀、今井龍一郎、西田幸司、山本哲史、川井和哉:「完全内臓逆位患者の急性前壁心筋梗塞による心原性ショックに対してIMPELLA2.5を留意してPCIを行った1例」、ARIA2019、2019年11月21日~23日
- 16. OAtsuko Furukawa, Yukio Abe, Tsuyoshi Miyaji, Mariko Hatakenaka, Mamiko Naito, Kohei Ageta, Shinya Takeuchi, Atsushi Morizane, Takeshi Nishida, Hiroshi Ito: Simple Echocardiographic Scoring in Screening for Aortic Stenosis by Emergency Physicians in the Emergency Department. ヨーロッパ心エコー図学会、ウイーン、2019年12月4日~7日
- 17. ○髙橋誠、西田幸司、西村祐希、小松洵也、岡本奈緒、富士田崇子、松田英之、菅根裕紀、今井龍一郎、中岡洋子、渡邉圭介、山本哲史、関秀一、川井和哉、浜重直久、土居義典:「心室細動による心肺停止から蘇生した2症例」、第115回日本循環器学会四国地方会、2019年12月7日
- 18. 〇西村祐希、窪川渉一、小松洵也、岡本奈緒、冨士田崇子、髙橋誠、松田英之、菅根裕紀、今井龍一郎、中岡洋子、西田幸司、渡邉圭介、山本哲史、関秀一、川井和哉、浜重直久、土居義典:「著明なCPK上昇を認

- め心筋梗塞様の経過をたどったたこつぼ心筋障害の1例」、第115回日本循環器学会四国地方会、2019年12 月7日
- 19. ○岡本奈緒、松田英之、西田幸司、中岡洋子、山本哲史、関秀一、窪川渉一、川井和哉、浜重直久:「甲状腺機能亢進症に心室細動を合併した1例」、第115回日本循環器学会四国地方会、2019年12月7日
- 20. 〇富士田崇子、松田英之、山本哲史、今井龍一郎、中岡洋子、西田幸司、関秀一、窪川渉一、川井和哉、浜 重直久:「DOACからワルファリンへの切り替え後に左房内巨大血栓を生じた、重症僧帽弁狭窄症・心房細 動の1例」、第115回日本循環器学会四国地方会、2019年12月7日

#### □講演(講習会を含む)

- 1. 山本哲史:「心筋梗塞 ~胸痛、発症、急性期治療」、近森病院第21回公開県民講座 救命救急の近森病院、その最前線、2019年4月6日
- 2. 細木信吾: 「糖尿病と虚血性心疾患」、第20回高知糖尿病看護『土佐の会』セミナー、高知市、2019年6月16日
- 3. 細木信吾:「日本人におけるPCI 抗血栓療法」、日本人の抗血栓療法WEBセミナー@四国、2019年7月3日
- 4. 細木信吾:「冠動脈治療にエキシマレーザーを使う」、第4回四万十医師会学術講演会、四万十市、2019年7 月25日
- 5. 細木信吾:「倉敷の流儀」、マスターズ・セミナーin香川、高松市、2019年9月26日
- 6. 細木信吾:「昨今の脂質異常症治療について」、脂質異常症WEBカンファレンス、高知市、2019年10月4日
- 7. 細木信吾: 「高知家での抗血栓療法」、高岡郡医師会学術講演会、須崎市、2019年10月29日
- 8. 細木信吾:「高知家の虚血性心疾患予防と治療を考える」、神奈川県中郡医師会学術講演会、神奈川県中郡大磯町、2019年11月20日
- 9. 山本哲史:「中性脂肪に関する最近の話題」、R2セミナー(Residual Riskセミナー)、2019年11月30日
- 10. 細木信吾:「この症例SAPTにできますか」、PCIエキスパートミーティングin四国、松山市、2019年12月14 日

#### □講義(講師、院外研修指導者を含む)

- 1. 細木信吾: みなみの循環器病院PCI CTOワークショップ、八王子市、2019年4月6日
- 2. 細木信吾:鳥取大学PCI CTOワークショップ、米子市、2019年5月10日
- 3. 細木信吾:三豊総合病院PCI CTOワークショップ、三豊市、2019年5月31日
- 4. 細木信吾: 香川県立中央病院PCI CTOワークショップ、高松市、2019年6月7日
- 5. 細木信吾:みなみの循環器病院PCI CTOワークショップ、八王子市、2019年6月29日
- 6. 細木信吾:愛媛県立今治病院PCI CTOワークショップ、今治市、2019年7月5日
- 7. 細木信吾:香川県立中央病院PCI CTOワークショップ、高松市、2019年7月26日
- 8. 細木信吾:済生会泉尾病院PCI CTOワークショップ、大阪市、2019年8月9日
- 9. 細木信吾:岡山労災病院PCI CTOワークショップ、岡山市、2019年8月23日
- 10. 細木信吾:岡山市民病院PCI CTOワークショップ、岡山市、2019年8月30日
- 11. 細木信吾:国立病院機構浜田医療センター PCI CTOワークショップ、浜田市、2019年9月6日
- 12. 細木信吾:松山赤十字病院PCI CTOワークショップ、松山市、2019年9月12日
- 13. 細木信吾: 西条中央病院PCI CTOワークショップ、西条市、2019年9月13日
- 14. 細木信吾: みなみの循環器病院PCI CTOワークショップ、八王子市、2019年9月21日
- 15. 細木信吾:済生会泉尾病院PCI CTOワークショップ、大阪市、2019年9月27日
- 16. 細木信吾:三豊総合病院PCI CTOワークショップ、三豊市、2019年10月11日
- 17. 細木信吾: 韓国ソウルPCI CTOワークショップ、韓国、2019年10月31日
- 18. 細木信吾:みなみの循環器病院PCI CTOワークショップ、八王子市、2019年11月2日
- 19. 細木信吾:鳥取大学PCI CTOワークショップ、米子市、2019年11月8日
- 20. 山本哲史:「胸痛·動悸」、高知県消防学校 救急科 教育訓練、2019年11月13日
- 21. 細木信吾: 住友別子病院PCI CTOワークショップ、新居浜市、2019年11月15日
- 22. 細木信吾:松山市民病院PCI CTOワークショップ、松山市、2019年11月22日
- 23. 細木信吾:岡山ハートクリニックPCI CTOワークショップ、岡山市、2019年12月13日
- 24. 細木信吾:三豊総合病院PCI CTOワークショップ、三豊市、2019年12月20日
- 25. 細木信吾: みなみの循環器病院PCI CTOワークショップ、八王子市、2019年12月27日
- 26. 細木信吾:三豊総合病院PCI CTOワークショップ、三豊市、2020年1月20日
- 27. 細木信吾:三豊総合病院PCI CTOワークショップ、三豊市、2020年2月3日

- 28. 細木信吾: 住友別子病院PCI CTOワークショップ、新居浜市、2020年2月7日
- 29. 細木信吾:津山中央病院PCI CTOワークショップ、津山市、2020年2月21日
- 30. 山本哲史:「脂質低下療法に悩んだ2症例」、興和創薬株式会社 勉強会、2020年2月26日
- 31. 細木信吾: みなみの循環器病院PCI CTOワークショップ、八王子市、2020年3月6日

#### □座 長

- 1. 細木信吾:「OCT to future forum in 徳島」、徳島市、2019年4月4日
- 2. 細木信吾:「心不全地域医療連携の会 in 高知」、高知市、2019年5月28日
- 3. 古川敦子、宇都宮裕人:「弁膜症②」、倉敷中央病院 白神拓他、第114回日本循環器学会中国·四国合同地方会、高松市、2019年6月8日~9日
- 4. 宮地剛:研修医セッション⑦、倉敷中央病院 白神拓他、第114回日本循環器学会中国・四国合同地方会、 高松市、2019年6月8日
- 5. 宮地剛: 「高齢心不全診療について思うこと」、岩国医療センター循環器内科診療部 櫻木悟、高知県循環器 談話会講演会、高知市、2019年6月13日
- 6. 細木信吾: 「第28回日本心血管インターベンション治療学会」、名古屋市、2019年9月19日
- 7. 楠瀬賢也、古川敦子:「循環器②」、香川大学医学部循環器·腎臟·脳卒中内科学 松永圭司他、日本超音波 医学会第29回四国地方会学術集会、高松市、2019年10月12日
- 8. 山本哲史: Calcified lesion1、CCT Complex Cardiovascular Therapeutics 2019、2019年10月25日
- 9. 宮地剛:「糖尿病治療のパラダイムシフト」、岡山大学大学院医歯薬学総合研究会 循環器内科学 伊藤浩、第3回地域連携学術講演会、高知市、2019年10月31日
- 10. 山本哲史:メディカル一般演題5PCI合併症、その他:ARIA Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement 2019、2019年11月21日

#### ロコメンテーター

- 1. 細木信吾: 「第28回日本心血管インターベンション治療学会」、名古屋市、2019年9月19日
- 2. 山本哲史:「Live Demonstration #2」、第17回お遍路ライブ、2019年10月19日
- 3. 細木信吾:「Complex Cardiovascular Therapeutics2019」、神戸市、2019年10月24日
- 4. 山本哲史:「PCI合併症 ~"倉中"症例から考えるPCI合併症~」、ARIA Alliance for Revolution and Interventional Cardiology Advancement 2019、2019年11月21日
- 5. 山本哲史:「Focus Live:」、中四国Live in 倉敷 2019、2019年2月23日

### □オペレーター

- 1. 細木信吾:「近森病院PCI CTOワークショップ」、近森病院、高知市、2019年5月17日
- 2. 細木信吾:「中国天津BICCライブ」、中国、2019年11月29日

#### □表 彰

1. 古川敦子:「ベストポスター賞最優秀賞」、日本心エコー図学会第30回学術集会、松本市、2019年5月10日 ~12日

### □取材

1. 細木信吾: リクシアナ・エリア座談会、高知市、2020年10月4日

### 小児科

#### □誌上発表(論文・著作・寄稿)

- 1. Naomi Mitsuda, Takatoshi Hosokawa, Masamitsu Eitoku, Mikiya Fujieda, Narufumi Suganuma, Japan Environment and Children's Study (JECS) Group: [Breastfeeding and risk of febrile seizures in infants: TheJapan Environment and Children's Study], Brain and Development (41(10)·839-847), 2019 Nov
- 2. 堂野純孝: 「骨髄穿刺」、小児科診療 Vol.82 増刊号 P.183-187、2019年4月

### □学会・研究会

1. ○濱田朋弥、細川卓利、齊藤志穂、石原正行、古谷博和、大内田守、大守伊織、阿部エリカ、豊島至、熊田

聡子、浜田文彦、藤枝幹也:「ミオクローヌス・ジストニア(DYT11ジストニア)の1例」、第61回日本小児神経学会学術集会、名古屋市、2019年5月31日

- 2. ○齊藤志穂、濱田朋弥、菊地広朗、玉城渉、細川卓利、久万田みのり、政岡未紗、福島敦樹、藤枝幹也:「小児期に眼瞼下垂を呈した2例」、第37回四国小児神経症例検討会、高知市、2019年6月29日
- 3. ○中岡祐子、島崎真弓、堂野純孝、新井淳一、細川卓利:「当院で経験した回避・制限性食物摂取症3例」第 37回四国小児神経症例検討会、高知市、2019年6月29日
- 4. ○横田太郎、荒木まり子、西本由佳、山﨑麻朱、秋月けい、新井淳一:「サマーキャンプでの災害対策勉強会 停電を想定レインスリン注射の準備をしてみよう-」、日本糖尿病学会中国四国地方会第57回総会、 徳島市、2019年12月6日

### □講演(講習会を含む)

1. 新井淳一:「糖尿病と予防」、国際協会336-A地区 日本糖尿病協会共催糖尿病セミナー、高知市、2019年 4月13日

### □講義(講師、院外研修指導者含む)

- 1. 細川卓利:「小児神経学」非常勤講師、高知大学医学部医学科、南国市、2019年6月12日
- 2. 新井淳一:「小児科学」非常勤講師、高知県医師会看護学校、高知市、2019年9月4日、9月25日、10月16日(3日間)
- 3. 堂野純孝:「小児科学」非常勤講師、高知県医師会看護学校、高知市、2019年9月11日、10月9日、10月23日(3日間)
- 4. 細川卓利:「小児科学」非常勤講師、高知県医師会看護学校、高知市、2019年9月18日、10月2日、10月30日(3日間)
- 5. 細川卓利:「小児神経学」非常勤講師、高知大学医学部医学科、南国市、2019年12月26日

#### □座 長

1. 細川卓利:一般演題4、第37回四国小児神経症例検討会、高知市、2019年6月29日

#### □その他

- 1. 新井淳一:「第30回 高知県小児糖尿病サマーキャンプ」、2019年8月14日~8月17日(4日間)
- 2. 新井淳一:「PWS親子キャンプ」、2019年11月2日~11月3日(2日間)

### 化学療法・緩和ケア科

# □シンポジウム

1. 安藤徹:「緩和ケア病棟ってどんなところ?」、多職種で考える地域連携緩和ケア研修会、高知県・高知県在宅緩和ケア推進連絡協議会、高知市、2019年8月18日

# □学会・研究会

1. ○安藤徹:「耳下腺癌術後の疼痛を契機にケミカルコーピングをきたした1例」、第24回日本緩和医療学会学 術大会、神奈川県横浜市、2019年6月21日

# □講義(講師、院外研修指導者含む)

1. 安藤徹:「緩和ケア」非常勤講師、高知開成専門学校看護学科、高知市、2019年9月4日・11日・18日(3日間)

#### □座 長

1. 安藤徹: 「緩和ケア」、市立札幌病院 今井友香他、第81回日本臨床外科学会総会、高知市、2019年11月15日

#### 整形外科

### □誌上発表(論文・著作・寄稿)

1. ○松岡真弓、阿漕孝治、寺西裕器、青山直樹、團隼兵、上羽宏明、岡上裕介、川崎元敬、池内昌彦:「両側非定型大腿骨的骨折4例の治療経験」、中国・四国整形外科学会雑誌31巻2号P.263、2019年9月15日

#### □学会・研究会

- 1. ○寺西裕器、山川晴吾、北岡和雄、耕﨑志乃:「骨端線をまたいで存在したBrodie骨膿瘍の1例」、第9回中国: 四国小児整形外科研究会、高知市、2019年10月5日
- 2. ○寺西裕器、南場寛文、西内祥子、山川晴吾、北岡和雄:「当院における骨粗鬆症リエゾンサービス導入の現状」、第21回日本骨粗鬆症学会、神戸市、2019年10月11日
- 3. ○南場寛文、寺西裕器、山川晴吾、北岡和雄、池内昌彦:「骨粗鬆症に対するゾレドロン酸と活性化型ビタミンD製剤併用療法の治療効果」、第21回日本骨粗鬆症学会、神戸市、2019年10月13日
- 4. ○岡田大季、南場寛文、寺西裕器、池内昌彦:「骨粗鬆症に対する活性化型ビタミンD製剤併用下でのゾレドロン酸とデノスマブの治療効果の検討」、第52回中国・四国整形外科学会、岡山市、2019日11月24日

### 放射線科

### □学会・研究会

- 1. ○丸岡日向子: Brodie 膿瘍 出題·解説、第7回高知イメージカンファレンス、南国市、2019年5月25日
- 2. ○長澤隆暁: 左傍十二指腸ヘルニア 回答、第7回高知イメージカンファレンス、南国市、2019年5月25日
- 3. ○丸岡日向子、耕崎志乃、長澤隆暁、加藤亜里紗、北岡和雄、山川晴吾、南場寛文、堀見忠司: Brodie 膿瘍の一例、第132回日本医学放射線学会中国・四国地方会、米子市、2019年6月14日
- 4. ○耕崎志乃、高橋佳伸、篠原雅幸、堀見忠司:「腹膜垂炎 そして 腹腔内遊離体」、第55回日本医学放射線 学会秋季臨床大会、名古屋市、2019年10月18日~10月20日

### □講義(講師、院外研修指導者含む)

1. 耕﨑志乃:高知大学医学部医学科3年生講義「中枢神経系の画像診断」「頭頚部の画像診断」非常勤講師、高知大学医学部医学科、南国市、2019年6月5日

#### □表 彰

1. 丸岡日向子:「Brodie 膿瘍の一例」、第132回日本医学放射線学会中国・四国地方会 若手奨励賞

# 皮膚科・形成外科

#### □講演(講習会を含む)

- 1. 〇野田理香:「脂質とアレルギーについて」、田辺製薬社内研修会講師、高知市、2019年4月4日
- 2. ○野田理香:「知っていますか?日本の食事の裏事情」、高知大学附属小学校教養部講演会、高知市、2019年7月4日
- 3. 〇野田理香:「皮膚から見えてくる心と身体の関係」、高知地方裁判所メンタルヘルス講演会、高知市、2019 年11月26日

### 麻酔科

### □講義(講師、院外研修指導者含む)

- 1. 畠中豊人:看護学科専攻課程1年生 講義「病態学 I 消化器」、高知中央高校、高知市、2019年9月4日~10月9日(毎週水曜日2時間 6回 12時間)
- 2. 畠中豊人:看護学科専攻課程1年生 講義「病態学 I 脳·神経」、高知中央高校、高知市、2019年11月6日~12月4日(毎週水曜日2時間 5回 10時間)
- 3. 畠中豊人:院内ICLSコース インストラクター「日本救急医学会認定コース」、細木病院、高知市、2019 年5月19日、12月8日(終日2回)

### ■ 看護部

#### ロシンポジウム

1. 片岡 健:「緩和ケア病棟ってどんなところ?」、多職種で考える地域連携緩和ケア研修会、高知県·高知県 在宅緩和ケア推進連絡協議会、高知市、2019年8月18日

# □学会・研究会

1. ○岡﨑千佐子、森木妙子:「認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了した看護師の看護管理能力の発揮ー内的・外的要因に焦点をあてて一」、第23回日本看護管理学会学術集会、新潟市、2019年8月23日

- 2. 〇森本清子、織田さおり、片岡典代:「鎮静剤を使用せず初めて上部内視鏡検査を受ける患者の看護援助」、 第17回日本医療マネジメント学会高知支部学術集会、高知市、2019年8月25日
- 3. ○岡﨑千佐子、森木妙子:「副看護師長の看護管理能力の発揮の構造-認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了後-」、第14回高知大学看護学会、南国市、2019年11月9日
- 4. ○重光紗希、明神幸祐、渡辺真智子、千葉恵子、岡崎千佐子:「帰りたい!をサポート」〜目標シートを使って退院に繋げた一事例〜、高知県回復期リハビリテーション病棟連絡会 研究大会、高知県吾川郡伊野町、2019年11月9日
- 5. ○渡辺清香、西森明日香、山﨑靖代、岡﨑千佐子:「ケアミックス型病院における看護職員のスキンテアのケアの実践―看護職員の属性に焦点をあてて一」第50回日本看護学会慢性期看護学術集会、鹿児島県鹿児島市、2019年11月14日
- 6. ○岡﨑千佐子、森木妙子:「認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了した看護師の看護管理能力発揮の構造」、第39回日本看護科学学会学術集会、金沢市、2019年11月30日
- 7. 〇字原美香:「ケアミックス型病院におけるがん化学療法看護認定看護師としての取り組みー "安全·安楽·確実な外来化学療法が行える体制作り"を目指して一」2019年度認定・専門看護師活動報告会、高知市、2019年12月7日
- 8. ○藤田歩、藤田佐和、森本悦子:「喉頭全摘術を受けたがん患者のセルフマネジメントを促進する看護支援」、第34回日本がん看護学会学術集会、東京都千代田区、2020年2月23日

#### □講演(講習会を含む)

1. 廣田明美: 「キャリア教育」、高知市西部中学校、高知市、2020年2月7日

#### □講義(講師、院外研修指導者含む)

- 1. 豊田邦江:認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修組織管理論 I 「看護実践における倫理」、高知県看護協会、高知市、2019年6月12日
- 2. 豊田邦江: がん看護APNセミナー「専門看護師の活動の実際」、高知県立大学大学院看護学研究科博士前期 課程がん看護領域、高知市、2019年7月18日
- 3. 字原美香:「認定看護師の役割」、中外製薬株式会社、高知市、2019年12月23日
- 4. 森本真由美:「糖尿病患者さんのフットケア」講師、第4回 泉州足を学ぶ会、大阪府泉大津市、2020年2 月1日
- 5. 豊田邦江:健康経営研修「治療と仕事の両立支援についてーがんを患った場合の事例を基に就業上の留意点や治療への配慮について理解を高める」、高知銀行、高知市、2020年2月5日

### □表彰

1.岡﨑千佐子、森木妙子:「ポスター賞」、第23回日本看護管理学会学術集会、新潟市、2019年8月23日

### ■ 薬剤部

#### □学会・研究会

- 1. 〇田中照夫、宮地耕一郎、堀見忠司:「職員満足度調査を活用した職員のメンタルヘルス不調のリスク低減」、第21回日本医療マネジメント学会学術総会、名古屋市、2019年7月19日
- 2. 〇吉岡りえ、乾朱里、西内祥子、田島千愛、西村奈保、小松めぐみ、田中照夫、山本香代、上村美香、中野七千翔、大原敬子、野瀬大輔、豊田邦江、辻美知子、古谷英理、寺西裕器、南場寛文:「骨粗鬆症リエゾンサービスチームにおける薬剤師の役割」、第17回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、高知市、2019年8月25日
- 3. 〇小松めぐみ、乾朱里、木村美保子、西内祥子、田島千愛、西村奈保、田所美和、吉岡りえ、市吉真貴子、 八木亜紀子、藤本弘昭、田中照夫:「リハビリ職員を対象とした薬物の認識・知識に関するアンケート調査」、 第29回日本医療薬学会学術大会、福岡市、2019年11月4日
- 4. ○乾朱里、木村美保子、西内祥子、田島千愛、西村奈保、田所美和、吉岡りえ、市吉真貴子、八木亜紀子、田中照夫、藤本弘昭、小松めぐみ:「リハビリ職員を対象とした薬物の認識・知識に関する実態調査と新たな連携強化の取り組み」、第58回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会、高松市、 2019年11月10日
- 5. ○乾朱里:「リハビリ職員を対象とした薬物の認識・知識に関する実態調査と新たな連携強化の取り組み」、

高知県病院薬剤師会11月例会、高知市、2019年11月28日

### □講義(講師、院外研修指導者含む)

1. 田中照夫:「臨床薬理学」非常勤講師、高知学園短期大学看護学科、高知市、2019年10月~2020年1月 (15日間)

# ■ 医療技術部

#### 栄養管理室

### □学会・研究会

- 1. ○橋本由佳、田中照夫、宮地耕一郎、堀見忠司:「給食業務を全面委託から院外調理(クックチル)導入による直営化へ~導入の経緯と導入1年後の評価~」、第21回日本医療マネジメント学会学術集会、愛知県名古屋市、2019年7月19日
- 2. ○岸野睦美、都築範子、安岡美佐、橋本由佳、田中照夫、宮地耕一郎、堀見忠司:「院外調理品(クックチル)を活用した給食業務の直営化」、第17回医療マネジメント学会高知県支部学術集会、高知市、2019年8月25日

#### □講演(講習会を含む)

- 1. 橋本由佳:「食事と運動で防ぐ生活習慣病」、高知県市町村職員共済組合、高知市、2019年7月13日
- 2. 安岡美佐:「サルコペニアも予防!!糖尿病の食事のコツ」、日本糖尿病協会高知県支部、高知市、2019年11月17日
- 3. 橋本由佳:「食のお悩み解決法」、(公社) 高知県薬剤師会、高知市、2020年2月9日

#### 理学療法室

### □学会・研究会

- 1. 〇野口耕造、藤本弘昭、葛岡有功、山本純也、徳弘郁絵:「当院理学療法室スタッフにおける院外教育頻度 影響因子~臨床経験年数,家庭環境からみた現状と課題~」、第17回日本医療マネジメント学会 高知県支 部学術集会、高知市、2019年8月25日
- 2. ○徳弘郁絵、野口耕造、橋田寿恵:「当院リハビリテーション課における妊産婦に対するワーキンググループの活動報告」、第6回予防理学療法学会、広島県、2019年10月19日~20日
- 3. ○安岡孝志郎:「慢性呼吸不全患者に対する病棟移動の改善に向けた介入経験」、高知県呼吸リハビリテーションセミナー、高知市、2019年11月30日
- 4. ○嶋村徳之:「重度熱傷症例に対する理学療法の経験」、第33回高知県理学療法士学会、田野町、2020年2 月23日

### □講義(講師、院外研修指導者含む)

- 1. 葛岡有功:「ドイツ徒手医学 現職者講習会」、一般社団法人 ドイツ筋骨格医学会、徳島県他、2019年4月 1日~2020年3月31日(15日間)
- 2. 寺岡優:「オステオパシー高知 講習会」、オステオパシー高知、高知市他、2019年4月1日~2020年3月31日(17日間)
- 3. 野口耕造:「臨床教育論」、土佐リハビリテーションカレッジ、高知市、2019年9月25日
- 4. 徳弘郁絵:「ウィメンズヘルスの理学療法」、高知県理学療法士協会、高知市、2019年10月27日
- 5. 野口耕造:「ティーチングとコーチング」、高知県理学療法士協会、高知市、2019年12月8日

### 作業療法室

#### □学会・研究会

- 1. ○藤井由季:「臨床実習施設での学生教育のこれから~作業療法室学生教育マニュアルの作成~」、第17回 日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、日本医療マネジメント学会高知県支部、高知市、2019年 8月25日
- 2. ○木下美保:「全身熱傷により痛みが強く、起居・移乗動作、日常生活動作に支障をきたしている症例の自宅退院へ向け他職種·家族との連携」、生活行為向上マネジメント事例検討会、高知県作業療法士会、高知市、2019年12月5日

- 3. ○玉好杏:「体操服を着替えることができた中等度知的、協調運動障害の女児」、生活行為向上マネジメント 事例検討会、高知県作業療法士会、高知市、2020年1月28日
- 4. ○土居未咲希:「左膝蓋骨骨折を呈し起居動作自立に難渋した症例」、第49回現職者共通研修会、高知県作業療法士会、高知市、2020年2月25日
- 5. ○横田嵯稀:「心源性脳塞栓症を呈した症例の介護量軽減に向けたアプローチ」、第49回現職者共通研修会、高知県作業療法士会、高知市、2020年2月25日
- 6. ○山崎花菜:「右麻痺を呈し、依存的となっていた排泄動作の自立に向けて」、第49回現職者共通研修会、高知県作業療法十会、高知市、2020年2月25日

## □講演(講習会を含む)

1. 玉好杏:「作業療法士の仕事について」、土佐リハビリテーションカレッジオープンキャンパス、高知市、2019年7月13日

# 言語療法室

#### □学会・研究会

- 1. ○藤田隆良:「自宅退院を目指した摂食・嚥下機能へのアプローチ〜訓練意欲低下のある患者に対し、訓練前に興味を持つ課題を導入し意欲向上を図った症例〜」、生涯学習プログラム症例検討会、日本言語聴覚士協会、高知市、2019年12月11日
- 2. ○成瀬信夫、井上富子、柿内聡史、示野敦子:「リハビリ介入前後の手指衛生」、日本感染管理ベストプラクティスSaizen研究会高知ワーキング、高知市、2020年1月30日
- 3. ○楠瀬さやか:「知的発達に遅れのある中3男児へのアプローチ〜買い物ができるためには〜」、生涯学習プログラム症例検討会、日本言語聴覚士協会、高知市、2019年2月12日
- 4. ○細川知穂:「楽しみレベルの経口摂取を目指した摂食・嚥下機能へのアプローチ~感情失禁など背景因子によって訓練の進行に難渋した症例~」、生涯学習プログラム症例検討会、日本言語聴覚士協会、高知市、2019年2月12日
- 5. ○西山歩李、山本光穂:「入院後誤嚥性肺炎を発症し、絶食となった一症例~お楽しみ程度の経口摂取が可能となった要因について~」、第24回高知県言語聴覚学会、高知県言語聴覚士会、2020年3月1日(新型コロナウイルス感染拡大防止のため紙面開催)

# 臨床工学室

### □誌上発表(論文・著作・寄稿)

1. 澤田望:「急性下肢虚血に対しGACHON technique (Grab A Clot and Hold ON technique) が有用であった1症例」、市立福知山市民病院医学雑誌 第4巻、2019年

#### □学会・研究会

- 1. 〇澤田望、上林大輔、中岡幹彦、中村俊祐:「TRIにおける止血デバイスの検討」、近畿心血管治療ジョイントライプ2019、大阪市、2019年4月12日
- 2. ○澤田望、上林大輔、中岡幹彦、中村俊祐:「当院での体表エコーガイドEVTの取り組み」、第28回日本心 血管インターベンション治療学会、名古屋市、2019年9月19日
- 3. 〇澤田望、金森弘志:「当院におけるバスキュラーアクセス (VA) 管理の現状」、第42回北京都透析懇話会、京都府、2019年10月27日

# □座 長

- 1. 澤田望: 「大阪イメージングカンファレンス」、大阪市、2019年9月7日
- 2. 澤田望:「PADに対するトータルマネージメント」、森之宮病院 川崎大三、第4回北近畿集中治療・循環器 カンファレンス、京都府、2019年10月19日
- 3. 澤田望: 「d-TRI時代のDoor-to-Balloon Time短縮2019」、塩田丈裕 泉川病院他、Kamakura Live Demonstration Course 2019、神奈川県、2019年12月14~15日

### ■ 事務部

### 情報システム管理課

#### □座 長

1. 門田美紀:「臨床支援士(医師事務作業補助者)の未来を創る〜新たな役割への挑戦〜」、(業務拡大、業務 改善)、済生会熊本病院 安武里佳他、日本医師事務作業補助研究会 第9回全国大会、福岡市、2019年11 月9日

#### 企画課

### □シンポジウム

1. 門田紘和:「病院経営に求められる人材について」、文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」 3プログラム合同シンポジウム、東京都、2019年6月8日

### □学会・研究会

1. 門田紘和:「"強い"事務部門"頼られる"事務部門を目指して」、第21回日本医療マネジメント学会学術総会、愛知県、2019年7月20日

## ■ ほそぎ連携センター

# 患者サポート室

### □シンポジウム

1. 辻美知子:「緩和ケア病棟ってどんなところ?」、多職種で考える地域連携緩和ケア研修会、高知県・高知県 在宅緩和ケア推進連絡協議会、高知市、2019年8月18日

# ■ 在宅部

### □学会・研究会

1. ○廣井三紀、宮地耕一郎、堀見忠司:「介護事業所だからできる防災~安心して暮らせる町づくりを目指して~」、第21回日本医療マネジメント学会学術総会、愛知県名古屋市、2019年7月19日

### □講義(講師、院外研修指導者含む)

- 1. 井上加奈子:「在宅看護専門看護師に聞く 2~3年目訪問看護師の悩みと対処 」2019年度訪問看護スタートアップ研修修了者のためのフォローアップ研修会 講師、高知県立大学健康長寿センター 高知県中山間地域等訪問看護育成講座、高知市、2019年6月15日
- 2. 井上加奈子: 「2019年度訪問看護管理者研修」ファシリテーター、高知県看護協会、高知市、2019年6月 19日、10月19日、2020年1月17日
- 3. 井上加奈子:「施設一在宅の移行期における療養者と家族への支援(実践)」2019年度訪問看護師研修 講師、高知県看護協会、高知市、2019年7月17日
- 4. 井上加奈子:「在宅看護方法論II」非常勤講師、独立行政法人国立病院機構高知病院附属看護学校、高知市、 2019年9月17日~12月4日(6日間)
- 5. 井上加奈子:「療養場所の選択を考えよう」多職種で考える地域医療連携緩和ケア研修会 ファシリテーター、高知県在宅緩和ケア推進連絡協議会、高知市、2019年11月17日
- 6. 井上加奈子:「ケアマネジメントの展開―内臓の機能不全(糖尿病、高血圧、脂質異常症、心疾患、呼吸器疾患、腎臓病)に関する事例」令和元年度介護支援専門員更新研修/再研修 講師、高知県社会福祉協議会、高知市、2019年12月6日
- 7. 井上加奈子:「その人らしい人生を生き旅立つ」リフレッシュ講座 講師、令和元年度高知セカンドライフ友の会、高知市、2020年1月28日
- 8. 井上加奈子:「難病に関する基礎知識 I・II」「難病患者の介護の実際」令和元年度高知県難病患者等ホーム ヘルパー養成研修 講師、介護労働安定センター、高知市、2020年2月2日

#### デイケアゆうゆう

#### □学会・研究会

1. ○竹内あさみ、下元由実、井上加奈子:「通所リハビリテーション事業所における大地震を想定したBCP策定への取り組み」、第17回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、高知市、2019年8月25日

#### グループホーム ハッピー万々

#### □学会・研究会

1. ○坂本早由、廣井三紀、堀本佐知、井上加奈子:「グループホームにおける口腔衛生向上への取り組み」、第 39回四国老人福祉学会、香川県丸亀市、2020年2月1日

### 上街・高知街・小高坂地域包括支援センター

### □講演(講習会を含む)

- 1. 西本かがり: 「知ってよかった認知症の話」、上街町内会、高知市、2019年4月4日
- 2. 西本かがり:「摂食嚥下と口腔ケアの方法」、デイサービス「りん」、高知市、2019年6月3日
- 3. 西本かがり:「お口の話:歯周病について」「フッ素について」、県立盲学校、高知市、2019年10月17日
- 4. 西本かがり:「高齢者のお口の話」、認知症カフェ「よつばかふぇ」、高知市、2019年10月21日

# ■ こころのセンター こころ看護部

# 北4病棟

### □学会・研究会

1. ○橋田千恵子、山本由衣、蒲原帆奈美、山本和樹、瀧めぐみ(高知県立大): 「大腿骨骨折術後のリハビリ拒 否のある認知症患者の関わりについての一考察」、日精看高知県支部看護研究発表会、高知市、2019年10月

# ■ こころのセンター 医療技術部

### 臨床心理室

#### □講演(講習会を含む)

- 1. 野瀬一央:「第25回ことばと発達の相談会」、土佐市教育委員会、土佐市、2019年7月6日
- 2. 米本竜太郎:「ストレスとの上手な付き合い方」、細木病院まっことネット細木、高知市、2019年7月7日
- 3. 池田貴美:「認知行動療法について学ぼう」、高知県精神保健福祉士協会、高知市、2019年7月27日
- 4. 池田貴美:「ストレスフルな毎日を生き抜くために」、高知県精神保健福祉士協会、高知市、2019年8月30日
- 5. 池田貴美:「看護·教育·セルフケアに活かせる認知行動療法」、看護教育研究会、高知市、2019年12月14日
- 6. 米本竜太郎:「発達障害について」、細木病院まっことネット細木、高知市、2020年2月6日

依 頼 元 名	延べ人数	依頼元名	延べ人数
診療 部(内科)	~ 7(x	医療技術部(リハビリテーション課 理学療	
高知大学医学部6年生(実習学生)	13	土佐リハビリテーションカレッジ 理学療	
高知大学医学部 5 年生(実習学生)	33	法学科(2年次生)	2
(小児科)		富士リハビリテーション専門学校 理学療	1
高知大学医学部6年生(実習学生)	6		
高知大学医学部5年生(実習学生)	5	(リハビリテーション課 作業療	法室)
近森病院(初期研修医)	2	高知リハビリテーション学院(4年次生)	1
合 計	59	高知リハビリテーション学院(4年次生)	1
		土佐リハビリテーションカレッジ(3年次生)	1
看護部	405	合 計	63
高知中央高等学校 看護学科専攻科課程(1年生)	195	ほそぎ連携センター	
高知学園短期大学 看護学科(3年生)	493	高知県医師会看護専門学校	35
高知学園短期大学 看護学科(2年生)	390	(患者サポート室)	
穴吹医療大学校 看護学科通信課程(1年生)	4	高知県立大学 社会福祉学科(3回生)	2
穴吹医療大学校 看護学科通信課程(2年生)	16 546	高知県立大学 社会福祉学科(4回生)	1
高知県医師会看護専門学校(2年生) 高知県医師会看護専門学校(1年生)	36	合 計	38
近森病院附属看護学校(2年生)	20	<b>在宅部</b> (ケアサポートセンターほそぎ	`
- 近森内が門局省最子収(とキエ) 復職支援研修	6	高知県社会福祉協議会 高知県介護支援専門員実務研修	1
合計	1,706	- 同和宗社云僧祖勋禄云 同和宗儿瑗又拔等门具天榜听修 高知中央高等学校 看護学科専攻科課程(2年生)	6
	1, 700		
薬剤部		(訪問看護ステーションほそぎ)	
神戸学院大学 薬学部 (5年生)	1	公益社団法人高知県看護協会 	4
松山大学薬学部(5年生)	1	(ホームヘルパーステーション:	城西)
合 計	2	高知福祉専門学校	1
<b>医療技術部</b> (臨床検査室)		平成福祉専門学校	3
高知大学医学部(6年生)	9	(デイケアゆうゆう)	
高知大学医学部(5年生)	24	高知学園短期大学 看護学科(3年生)	6
高知学園短期大学 医療衛生学科医療検査専攻(2年生)	3	(デイサービス赤とんぼ)	
 (栄養管理室)		高知学園短期大学 看護学科(3年生)	3
高知学園短期大学 生活科学学科(2回生)	6	(デイサービスさくらんぼ)	
RKC調理学校 (1年生)	1	高知学園短期大学 看護学科(3年生)	8
美作大学 生活科学部 食物学科(3年生)	2	高知中央高等学校 看護学科専攻科課程(2年生)	6
	法室)	社会福祉法人高知県社会福祉協議会・高知	1
徳島文理大学 保健福祉学部 理学療法学科(4年次生)	1	- 県福祉人材センター 	
	1	(グループホーム赤とんぼ)	
法学科(4年次生)		龍馬看護ふくし専門学校(2年生)	6
高知医療学院 理学療法学科(3学年生)	1	(グループホームさくらんぼ)	
高知医療学院 理学療法学科(2学年生)	1	高知大学 医学部看護学科(3回生)	29
高知医療学院 理学療法学科(1学年生)	1	高知中央高等学校 看護学科専攻科課程(2年生)	6
人間総合科学大学 保健医療学部 リハビリ テーション学科 理学療法学専攻(4年次生)	1	高知県立大学 社会福祉学部(3年生)	2
川崎医療福祉大学 医療技術学部 リハビ		(グループホーム西町)	
リテーション学科 理学療法専攻(4年生)	1	高知大学 医学部看護学科	31
専門学校健祥会学園 理学療法学科(3年生)	1	(グループホーム ハッピー万々	7)
高知リハビリテーション学院 理学療法学	1	龍馬看護ふくし専門学校 看護学科(2年生)	5
科 ( 4 年次生)	'	(精神障害グループホーム「介援隊」「やまもも寮」	「介援隊2」)
高知リハビリテーション学院 理学療法学 科(3年次生)	1	高知県立大学 社会福祉学部	1
		(上街·高知街·小高坂地域包括支援t	zンター)_
科(2年次生)	1	高知中央高等学校 看護学科専攻科課程(2年生)	6
土佐リハビリテーションカレッジ 理学療	1	高知県立大学 社会福祉学部(3年生)	2
法学科(3年次生)		合 計	127

依 頼 元 名	延べ人数	
こころのセンター		
医療技術部(こころ栄養管理室)		
RKC調理製菓専門学校(1年生)	2	
(精神科作業療法室)		
高知リハビリテーション専門職大学(4回生)	1	
高知リハビリテーション専門職大学(3回生)	2	
高知リハビリテーション専門職大学(2回生)	3	
土佐リハビリテーションカレッジ(4回生)	1	
土佐リハビリテーションカレッジ(2回生)	4	
十全医療学院(3回生)	1	
岡山医療技術専門学校(3回生)	1	
승 計	15	
細木病院総計	2, 010	